2024 年度

シ ラ バ ス

（講義要綱）

2023 年度以降入学生

総合政策学部

四日市大学

YOKKAICHI UNIV.

卒業必要単位数 （総合政策学部）

【2023年度以降入学生 】

<table>
<tr><th colspan="4">区　　分</th><th colspan="3">卒業必要単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="10">全学共通科目</td><td colspan="3">共通基礎科目</td><td>必修</td><td>14単位　　留学生は日本語で4単位</td><td rowspan="9">必修20単位を含めて58単位以上</td><td rowspan="12">合計130単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">共通教養科目</td><td colspan="2">語学選択科目</td><td>選択</td><td>4単位以上　留学生は日本語で4単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">一般教養科目</td><td>社会科学系列</td><td>選択</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td>人文科学系列</td><td>選択</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td>自然科学系列</td><td>選択</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">共通応用科目</td><td colspan="2">キャリア必修科目</td><td>必修</td><td>6単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">キャリアスキル科目</td><td>キャリア選択科目</td><td>選択</td><td rowspan="2">いずれかのユニットを選択し、選択したユニットからの10単位以上を含めて、14単位以上</td></tr>
<tr><td>各ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別科目</td><td>選択</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="7">学部専門科目</td><td colspan="3">学部基礎科目</td><td>必修</td><td>8単位</td><td rowspan="7">必修20単位を含めて72単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">演習科目</td><td>必修</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">専攻間共通科目</td><td>選択</td><td>6単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">公共政策専攻</td><td>専攻必修</td><td rowspan="4">いずれかの専攻を選択し、選択した専攻必修6単位を含めて、30単位以上修得すること。さらに、専攻外（他専攻・他学部）で4単位以上修得すること。</td></tr>
<tr><td colspan="3">人文社会専攻</td><td rowspan="2">選択</td></tr>
<tr><td colspan="3">経営戦略専攻</td></tr>
<tr><td colspan="3">他学部開設科目</td><td>選択</td></tr>
</table>

カリキュラム表の見方

区分	基礎や専門、専攻・分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単位数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
配当年次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○　・・・半期週1回開講 ◎　・・・半期週2回開講 集　・・・集中講義 ▲　・・・その他の開講 　　・・・・不開講科目
講師区分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼　・・・他学部所属教員 非　・・・他大学、他組織所属教員 空白・・・本学部所属の教員を表します。
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
備考	特記事項があれば記します。

区分				2023年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考
						1年次		2年次		3年次		4年次					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
全学共通科目	共通基礎科目			「人間たれ」Ⅰ	②	○								兼	鬼頭　浩文　他	1	
				「人間たれ」Ⅱ	②		○								小林　慶太郎　他	2	
				四日市学	②			○							岡　良浩　他	3	
				基礎コンピュータⅠ	②	○									倉田　英司	4	
															松本　彩月		
														兼	池田　幹男		
														非	石田　修二		
														非	稲葉　年計		
				基礎コンピュータⅡ	②		○								倉田　英司	5	
															松本　彩月		
														兼	池田　幹男		
														非	石田　修二		
														非	稲葉　年計		
				基礎英語Ⅰ	②	○									ゴードン　リース	6	
														兼	青木　陽子		
														非	ケント　スコット		
														非	柴田　啓文		
				基礎英語Ⅱ	②		○								ゴードン　リース	7	
														兼	青木　陽子		
														非	ケント　スコット		
														非	柴田　啓文		
				基礎日本語Ⅰ	②	◎									加納　光	8	留学生科目
														非	伊藤　晴苗		
														非	安田　由紀子		
				基礎日本語Ⅱ	②		◎								加納　光	9	留学生科目
														非	伊藤　晴苗		
														非	安田　由紀子		
	共通教養科目	語学選択科目		英語コミュニケーションⅠ	2			○							ゴードン　リース	10	
														兼	青木　陽子	11	
														兼	樋口　晶子	12	
				英語コミュニケーションⅡ	2				○						ゴードン　リース	13	
														兼	青木　陽子	14	
														兼	樋口　晶子	15	
				中国語Ⅰ	2			○							加納　光	16	
				中国語Ⅱ	2				○						加納　光	17	
				ポルトガル語Ⅰ	2			○							フェリペ　フェハーリ	18	
				ポルトガル語Ⅱ	2				○						フェリペ　フェハーリ	19	
				海外語学研修a（英語）	2												
				海外語学研修b（中国語）	2												
				日本語中級Ⅰ	2			○						非	伊藤　晴苗	20	留学生科目
														非	安田　由紀子		
				日本語中級Ⅱ	2				○					非	伊藤　晴苗	21	留学生科目
														非	安田　由紀子		
		一般教養科目	社会科学系列	政治学概論	2	○									吉川　和挟	22	
				経済学概論	2		○							兼	鬼頭　浩文	23	
				社会学概論	2	○									三田　泰雅	24	
				社会福祉概論	2		○								松本　彩月	25	
				日本国憲法概論	2	○									中西　紀夫	26	
				民法概論	2		○							非	土志田　佳枝	27	
			人文科学系列	哲学概論	2	○									フェリペ　フェハーリ	28	
				文学概論	2	○									永井　博	29	
				歴史学概論	2	○									浅井　雅	30	
				教育学概論	2		○							非	長谷川　誠	31	
				地理学概論	2												
				心理学概論	2		○							兼	田中　伊知郎	32	オンデマンド
			自然科学系列	化学概論	2	○								兼	牧田　直子	33	
				地学概論	2	○								非	森　康則	34	オンデマンド
				生物学概論	2		○							兼	田中　伊知郎	35	
				数学概論	2	○								非	金岩　稔	36	
				情報科学概論	2	○								兼	池田　幹男	37	
				データサイエンス概論	2		○							兼	前川　督雄	38	
														兼	片山　清和		

区分				2023年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考
						1年次		2年次		3年次		4年次					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
全学共通科目	共通応用科目	キャリア必修		キャリア基礎a	②	○	○								高田　晴美	39	オンデマンド
				キャリア基礎b	②				○						三田　泰雅　他	40	
				キャリア基礎c	②												
		キャリアスキル科目	キャリア選択科目	ビジネスマナー	2				○					非	長野　ゆき子	41	
				ビジネスコミュニケーション	2												
				インターンシップa	2				▲						岡　良浩 兼　鬼頭　浩文	42	
				インターンシップb	2												
				キャリアのための日本語力Ⅰ	2												留学生科目
				キャリアのための日本語力Ⅱ	2												留学生科目
			英語力養成ユニット	ビジネス英語a	2	○								兼	樋口　晶子	43	
				ビジネス英語b	2		○							兼	樋口　晶子	44	
				ビジネス英語c	2			○						兼	青木　陽子	45	
				ビジネス英語d	2				○					兼	青木　陽子	46	
				ビジネス英語e	2												
				ビジネス英語アドバンストⅠ	2												
				ビジネス英語アドバンストⅡ	2												
				英語リーディングⅠ	2												
				英語リーディングⅡ	2												
			ＩＴ基礎力養成ユニット	ITリテラシー	2	○								兼	柳澤　翔士	47	
				Webプログラミング１	2		○							兼	片山　清和 池田　幹男 柳澤　翔士	48	
				Webプログラミング２	2			○						兼	柳澤　翔士	49	
				文書表現ツール１	2		○							兼	池田　幹男	50	
				文書表現ツール２	2				○					兼	柳澤　翔士	51	
				データ操作ツール１	2			○						兼	池田　幹男	52	
				データ操作ツール２	2												
				プレゼンテーションツール	2												
			公務員養成ユニット	公務のための判断推理	2	○									高田　晴美	53	
				公務のための数的推理	2		○								高田　晴美	54	オンデマンド
				公務のための政治学	2		○								小林　慶太郎	55	
				公務のための経済学	2			○						兼	鬼頭　浩文	56	オンデマンド
				公務のための法学	2			○							中西　紀夫	57	
				公務のための人文科学	2				○						浅井　雅	58	
				公務のための自然科学	2												
				公務のための現代文・資料解釈	2												
				公務のための英文理解	2												
				公務のための論文・面接	2												
			社会調査士養成ユニット	社会調査入門	2	○									三田　泰雅	59	
				社会調査の技法	2		○								三田　泰雅	60	
				統計学入門	2		○							兼	田中　伊知郎	61	
				社会統計学	2			○						兼	田中　伊知郎	62	
				フィールドワーク論	2			○							倉田　英司	63	
				データ解析の技法	2				○					兼	古山　歩	64	
				社会調査実習１	2												
				社会調査実習２	2												
			スポーツライセンスユニット	スポーツ指導論	2	○									若山　裕晃	65	
				スポーツトレーニング論	2	○									若山　裕晃	66	
				アスリート育成論	2		○								若山　裕晃	67	オンデマンド
				スポーツ心理学	2		○								若山　裕晃	68	
				スポーツ生理学	2			○							小泉　大亮	69	
				スポーツ応用科学	2			○							小泉　大亮	70	
				スポーツメディカル論	2				○						小泉　大亮	71	
				スポーツ栄養学	2				○					非	櫻井　智美	72	
				地域スポーツ論	2												
				スポーツ政策論	2												
		特別科目		全学共通特別講義a	2		▲								倉田　英司	73	
				全学共通特別講義b	2	▲											
				全学共通特別講義c	2	▲											
				全学共通特別講義d	2	▲											
				全学共通特別講義e	2	▲											
				ボランティア活動a	2	▲									松本　彩月	74	
				ボランティア活動b	2	▲									松本　彩月	75	
				国際協力研修	2		▲								岩崎　祐子	76	
				海外環境研修	2		▲							兼	青木　陽子	77	
				他大学開放科目a	2	▲											
				他大学開放科目b	2			▲									
				他大学開放科目c	2			▲									
				他大学開放科目d	2			▲									
				他大学開放科目e	2			▲									

区分			2023年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
学部専門科目	学部基礎科目		政策科学入門Ⅰ	②	○									永井　博　他	78	
			政策科学入門Ⅱ	②				○						吉川　和挟	79	
			入門演習a	②	○									岩崎　祐子 加納　光 倉田　英司 鶴田　利恵 富田　与 永井　博 中西　紀夫 松本　彩月	80	
			入門演習b	②		○								岩崎　祐子 加納　光 倉田　英司 鶴田　利恵 富田　与 永井　博 中西　紀夫 松本　彩月	81	
	演習科目		基礎演習a	②			○							浅井　雅 岡　良浩 川崎　綾子 小林　慶太郎 高田　晴美 鶴田　利恵 富田　与 中西　紀夫 フェリペ　フェハーリ 二村　建也 三田　泰雅 吉川　和挟 若山　裕晃	82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94	
			基礎演習b	②				○						浅井　雅 岡　良浩 川崎　綾子 小林　慶太郎 高田　晴美 鶴田　利恵 富田　与 中西　紀夫 フェリペ　フェハーリ 二村　建也 三田　泰雅 吉川　和挟 若山　裕晃	95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107	
			専門演習a	②												
			専門演習b	②												
			卒業研究a	②												
			卒業研究b	②												
	専攻間共通科目		総合政策概論	2	○									岡　良浩　他	108	オンデマンド
			近現代史概論	2		○								浅井　雅	109	
			社会思想史	2		○								フェリペ　フェハーリ	110	
			公共哲学	2	○									フェリペ　フェハーリ	111	
			マクロ経済学入門	2	○									鶴田　利恵	112	
			ミクロ経済学入門	2		○							兼	鬼頭　浩文	113	
			ジェンダー論	2		○								高田　晴美 三田　泰雅	114	
			総合政策特別講義a	2												
			総合政策特別講義b	2												
			総合政策特別講義c	2												
	公共政策専攻	専攻必修	地方自治論	2		○								吉川　和挟	115	
			法学入門	2		○								中西　紀夫	116	
			地域経済論	2			○							岡　良浩	117	
		法律・行政と危機管理	行政学	2			○							吉川　和挟	118	
			都市環境と法	2			○							中西　紀夫	119	
			警察行政と安全	2				○						小林　慶太郎	120	
			消防行政と安心	2												
			法とまちづくり	2												
			防災とまちづくり	2	○								兼	鬼頭　浩文	121	オンデマンド
		市民と政治	地域福祉論	2			○							松本　彩月	122	
			社会保障論	2				○						松本　彩月	123	
			ダイバーシティ社会論	2	○									小林　慶太郎	124	
			市民社会論	2				○						倉田　英司	125	
			市民とまちづくり	2		○								小林　慶太郎 鬼頭　浩文	126	
			地方議会とまちづくり	2												
		都市と経済	都市計画論	2				○						本部　賢一	127	オンデマンド
			地方財政論	2				○						鶴田　利恵	128	
			地域開発論	2												
			交通政策論	2												
			産業とまちづくり	2			○							岡　良浩	129	
			環境とまちづくり	2			○						兼	鬼頭　浩文	130	

区分			2023年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
学部専門科目	人文社会専攻	専攻必修	現代社会論	2		○								富田　与 三田　泰雅	131	
			社会史	2			○							浅井　雅	132	
			表象文化論	2		○								高田　晴美 富田　与 永井　博 三田　泰雅	133	
		国際社会	文化人類学	2			○							富田　与	134	
			現代文化論	2			○							高田　晴美	135	
			グローバルイシューズ	2				○						ゴードン　リース	136	
			比較文化論	2				○						加納　光	137	
			国際社会学	2												
			文化表現論	2												
		歴史と社会	地域社会学	2			○							三田　泰雅	138	
			文化史	2				○						浅井　雅	139	
			日本文化論	2				○						永井　博	140	
			環境社会学	2												
			都市祭礼論	2			○							浅井　雅	141	
			ツーリズム論	2												
		交流と創発	スポーツ文化論	2			○							若山　裕晃	142	
			コミュニケーション論	2			○							富田　与	143	
			生涯スポーツ論	2												
			リーダーシップ論	2												
			サブカルチャー論	2				○						高田　晴美	144	
			健康スポーツ実技	2				○						小泉　大亮	145	
	経営戦略専攻	専攻必修	経営学入門	2		○								川崎　綾子	146	
			経営戦略論	2			○							川崎　綾子	147	
			簿記入門	2		○								二村　建也	148	
		組織管理	経営管理論	2		○								川崎　綾子	149	
			経営組織論	2			○							川崎　綾子	150	
			アントレプレナーシップ論	2			○							岡　良浩	151	
			企業論	2				○						岡　良浩	152	
			経営ケーススタディ	2												
		市場戦略	マーケティング論	2				○						川崎　綾子	153	
			多国籍企業論	2				○						鶴田　利恵	154	
			新興市場論	2			○							鶴田　利恵	155	
			流通論	2			○							川崎　綾子	156	
			農業経営論	2				○						鶴田　利恵	157	
			メディア情報産業論	2												
			マーケティング実践論	2												
		会計ファイナンス	会計学総論	2		○								二村　建也	158	
			金融論	2			○							岩崎　祐子	159	
			財務諸表論	2				○						二村　建也	160	
			管理会計論	2												
			経営分析論	2												
			商業簿記	2			○							二村　建也	161	
	他学部開設科目		他学部開設科目a	2	▲											
			他学部開設科目b	2	▲											
			他学部開設科目c	2	▲											
			他学部開設科目d	2	▲											
			他学部開設科目e	2	▲											

シラバスの見方

例

授業科目名	社会学概論 ①					科目コード ②	181203	授業コード ③	100221	
担当教員	三田	泰雅 ④				科目ナンバリング	GLAS1004 ⑤			
配当年次	1 ⑥		開講学期	前学期 ⑦	単位数	2.0 ⑧	必修／選択	選	択 ⑨	
授業の位置づけ ⑩	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。									
授業のねらい ⑪	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。社会は人間が集まって作られますが、一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会をつくっているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。									
到達目標 ⑫	社会学的なものの見方や考え方を身につける									
授業計画 ⑬	第１講 ガイダンス 第２講 規範と価値 第３講 私（わたし）とは誰か 第４講 近代をスポーツから考える 第５講 人は集団をつくる 第６講 家族とは何だろうか 第７講 社会の中のジェンダー 第８講 格差と社会階層 第９講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市と村落 第11講 国家と国民社会 第12講 まとめ① 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 まとめ② 定期試験									
テキスト・教材（参考文献含む） ⑭	＜参考文献＞ 倉沢進・秋元律郎・岩永雅也， 2001， 『新訂　社会学入門』放送大学出版協会. 石黒格編， 2018， 『変わりゆく日本人のネットワーク』勁草書房.									
事前・事後学習 ⑮	新聞やニュースに目を通す（毎日20分）									
成績評価方法 ⑯	＜評価＞小レポート30%， 中間試験15%， 期末試験55%									
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。 ⑰									
授業内の課題・提出方法 フィードバック方法	＜フィードバック＞小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。 ⑱									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、ミニッツペーパー ⑲									
実務経験のある教員	民間企業勤務、研究機関勤務経験あり。地方都市の社会生活を研究対象としています。 ⑳									
担当者から一言	学生諸君の積極的な参加を期待します。 ㉑									

① 授業科目名：本年度開講の授業科目名です。

② 担当教員：授業科目担当者です。

③ 科目コード：カリキュラム内の科目ナンバーです。

④ 授業コード：時間割順を示すナンバーです。

⑤ 科目ナンバリング：別掲の科目ナンバリングを参照のこと。

⑥ 配当年次：学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています。

⑦ 開講学期：授業科目がいつ開講されるかを表記しています。

⑧ 単位数：単位数を表記しています。

⑨必修/選択：「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。各自のカリキュラム表で確認してください。

⑩授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（ＤＰ）と当該授業科目の関連が記載されています。

⑪授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。

⑫到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。

⑬授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。

⑭テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには，授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。

⑮事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「 ○○○Ｉ 」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。

⑯成績 評価方法：定期試験 ６０ %、小テスト 40 %のように、評価（ポイント）基準を明記しています。

⑰授業内の課題・提出方法、⑱フィードバック方法：授業内で課される課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。

⑲アクティブラーニング：アクティブラーニングの要素（キーワード）が書かれています。

⑳実務経験のある教員：実務経験がある担当教員が、職種や実務経験を通じどのような授業を行うか等を記載しています。

㉑担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載しています。

授業科目名	「人間たれ」Ⅰ			科目コード	181001	授業コード	125101
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GEFC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。						
授業計画	第１講　ガイダンス：建学の精神「人間たれ」 第２講　災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～ 第３講　災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～ 第４講　災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～ 第５講　被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所の運営経験（齋藤） 第６講　被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が全壊（北村） 第７講　被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難生活（雁部） 第８・9講　フィールドワーク：四日市公害と環境未来館 第10講　教員が語る「人間たれ」①（足立） 第11講　教員が語る「人間たれ」②（大八木） 第12講　教員が語る「人間たれ」③（黒田） 第13講　教員が語る「人間たれ」④（樋口） 第14講　教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬） 第15講　教員が語る「人間たれ」⑥（青木） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（１日30分以上）。						
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノートを写真撮影しMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す						
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成						
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な４年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	「人間たれ」Ⅱ			科目コード	181002	授業コード	125501
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	GEFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。						
授業計画	第１講（ 9/27）　ガイダンス　「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林） 第２講（10/ 4）　教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（岩崎） 第３講（10/11）　ダイバーシティと「人間たれ」（小林） 第４講（10/18）　日本の財政状況と税金、家計、金融知識（財務省 津財務事務所） 第５講（10/25）　教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（小林） 第６講（11/ 1）　先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学２期生 原田さん（津市職員）） 第７講（11/ 8）　教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（三田） 第８講（11/15）　教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（浅井） 第９講（11/22）　教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（倉田） 第10講（11/29）　世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林） 第11講（12/ 6）　先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ラマ・カンチャさん） 第12講（12/13）　外国で働くということ（オイスカ） 第13講（12/20）　教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑥（永井） 第14講（ 1/10）　教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑦（フェハーリ） 第15講（ 1/17）　一年間の総まとめ　改めて「建学の精神」について（小林） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（１日30分以上）。						
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60%）と、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。						
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。						
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な４年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	四日市学			科目コード	181003	授業コード	125103
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	GEFC1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第１に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境などを理解し多面的に四日市について考える機会とします。第２に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。 これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただ						
到達目標	講義は10回にわたる様々なテーマの座学と2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の４点です。 １．「四日市」を多面的に理解すること ２．フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること ３．地域の課題を発見して考察を行うこと ４．全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること						
授業計画	第１講(4/05)　ガイダンス＋フィールドワークの説明（岡・鬼頭） 第２講(4/12)　「四日市公害に向き合う」（鬼頭［司会］；四日市公害と環境未来館） 第３講(4/19)　「四日市の産業」（岡［司会］；四日市市商工農水部） 第４講(4/26)　「四日市の文学者たち」（永井［司会・講義］） 第５講(5/10)　「四日市の歴史」（永井［司会］；四日市市博物館学芸員） 第６講(5/17)　「四日市の多文化共生」（青木［司会］；四日市市多文化共生推進室） 第７講(5/24)　「四日市の食」（小林［司会・講義］；とんてき協会関連） 第８講(5/31)　「四日市の都市計画」（倉田［司会］；四日市市都市整備部） 第９講(6/07)　「四日市の文化財」（鬼頭［司会］；四日市市文化課） 第10講(6/14)　「四日市市のシティプロモーション」（岡［司会］；四日市市シティプロモーション部） ＊講師都合によっては、内容が変更になることがあります。 （フィールドワーク） 第11～12講　フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 講義期間中に、博物館でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。 第13～15講　フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 講義期間中に、設定したコースの神社や寺などを街あるきし、指定したチェックポイントで自撮りした写真とレポートをMoodleに提出する。						
テキスト・教材（参考文献）	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。						
事前・事後学習	次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。						
成績評価方法	成績評価は、1～10週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度（50%）、2回のフィールドワークに関するレポート（30%）、学期末試験（20%）で総合評価します。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに課題を設定し小レポートを提出（Moodleを使用予定）						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックをします。						
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。						
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいします。						
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。						

授業科目名	基礎コンピュータⅠ			科目コード	181004	授業コード	122301
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GEFC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	現代は情報化社会であり、ネットの利用が前提となっています。このようなネット社会で情報発信を安全に行い、情報受信を行い、情報を適切に活用するために留意しなければならない事があります。この講義では事例を通してどのような事に注意する必要があるかを学びます。またこの講義では情報発信の基盤として、Wordを用いて文章を作成したり、PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作成したりすることができるための実習も行います。						
到達目標	①ネット社会で情報を安全に利活用する上での決まりを理解する ②Wordを用いて文章を作成できる ③PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作成できる						
授業計画	第１講 ガイダンスとクラス分け、タッチタイピング入門、情報モラルチェックと情報セキュリティチェック 第２講 メールによるコミュニケーション 第３講 Word起動と終了、文字の入力 第４講 文書の入力と編集と保存 第５講 表の挿入と編集 第６講 アイコン、３Ｄモデルの挿入 第７講 画像・テキストボックスの挿入 第８講 ワードアートとスクリーンショット 第９講 情報モラルと情報セキュリティ 第10講 個人情報の適切な取り扱い、デジタル時代の著作権 第11講 ネット社会に潜む危険と対策 第12講 Webによるコミュニケーション、モバイル機器の活用と管理 第13講 PowerPoint起動と終了、プレゼンテーションの作成 第14講 PowerPointオブジェクトの挿入とスライショー 第15講 タイピングテスト						
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞「情報リテラシー」（Windows11、Office2021対応）FOM出版 2200円（税込） 「30時間でマスター Word&Excel2021」実教出版 1100円（税込）						
事前・事後学習	＜事前学習＞第2講、第9講～第12講の前では授業で予定している部分のテキストを読んで問題を解いたり、理由などを調べたりする。第3講～第8講、第13講～第14講の前ではテキストや配付資料を読んで実習内容を理解する。（30分） ＜事後学習＞課題を完成させる。（150分）						
成績評価方法	提出物（70%）とタイピングテスト（30%）の合計で評価します。定期試験は行いません。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞Moodleを通して個別にコメントします。						
アクティブラーニング	課題・宿題、ディスカッション、実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかり行ってください。						

授業科目名	基礎コンピュータⅡ			科目コード	181005	授業コード	122701
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GEFC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	文書作成、表・グラフ作成、データ分析、プレゼンテーションを行うことは、在学中だけでなく社会に出てからもよくあります。この講義では、文書作成ツール、表計算ツール、プレゼンテーション作成ツールとしてWord、Excel、PowerPointの実習を行います。実習は、与えられたデータを編集・加工することで課題を完成させるもので、主体的に学び、わからないところを教員に聞いて解決する形で行います。						
到達目標	① Wordを用いてレポートや論文を作成できる ②Excelを用いて表やグラフを作成できる ③Excelを用いてデータ分析のためにデータ抽出やクロス集計ができる ④PowerPointを用いて効果的な視覚資料を作れ、プレゼンテーションの準備ができる						
授業計画	第１講 ガイダンス、Word（1） 第2講 Word（2） 第3講 Word（3） 第4講 Word（4） 第5講 Excel （1） 第6講 Excel （2） 第7講 Excel （3） 第8講 Excel （4） 第9講 Excel （5） 第10講 Excel （6） 第11講 PowerPoint（1） 第12講 PowerPoint （2） 第13講 PowerPoint （3） 第14講 総合演習問題（1） 第15講 総合演習問題（2）						
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞「情報リテラシー」（Windows11、Office2021対応）FOM出版 2200円（税込） 「30時間でマスター Word&Excel2021」実教出版 1100円（税込）						
事前・事後学習	＜事前学習＞テキストを読んで実習内容を理解する。（30分） ＜事後学習＞課題を完成させる。（150分）						
成績評価方法	提出物（70%）とタイピングテスト（30%）の合計で評価します。定期試験行いません						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞Moodleを通して個別にコメントします。						
アクティブラーニング	課題・宿題、実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかり行ってください。						

授業科目名	基礎英語Ⅰ			科目コード	181006	授業コード	123101
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GEFC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	英語を総合的に高めることを第１のねらいにしています。２つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。３つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。 第１講義　ガイダンス　及び　Unit 1 第２講義　Unit 2 以下　第１５講義まで展開						
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。						
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。						
授業内の課題・提出方法	各担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各担当教員の指示に従ってください。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	高等学校までの英語学習からステップアップし、興味深い教材や授業展開に刺激を受け、新しい英語学習を始めましょう。						

授業科目名	基礎英語Ⅱ			科目コード	181007	授業コード	123501
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GEFC1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	基礎英語Ｉで修得した力を基礎として、さらに学修を深めます。英語力を総合的に高めることを第１のねらいにしています。２つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。３つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。 第１講義　ガイダンス　及び　Unit 1 第２講義　Unit 2 以下　第１５講義まで展開						
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。						
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従ってください。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語の言語能力（聞く・読む・話す・書く）に加え、伝える力・相手を理解する力を養ってコミュニケーション能力を高め、あらゆることに興味を持って視野を広げる気持ちで、積極的に授業に参加してください。						

授業科目名	基礎日本語Ⅰ			科目コード	181008	授業コード	123105
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEFC9001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	言語の四技能−読む、書く、聞く、話す−を学びながら、総合的な 日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要とな る専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では大学の授業で必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。						
授業計画	第１講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙① 第２講 レポート作成、読解、語彙② 第３講 レポート作成、読解、語彙③ 第４講 レポート作成、読解、語彙④ 第５講 能力試験対策模擬試験①、② 第６講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第７講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第８講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第９講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤ 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥ 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合もあります。						
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10［中、中上級］』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』〃 有田 『１回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	Ｎ１までの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使える ようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却し ます）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング	小レポート／小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異な ります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃 から心がけてください。なお、 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。 真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	基礎日本語Ⅱ			科目コード	181009	授業コード	123505
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEFC9002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	言語の四技能−読む、書く、聞く、話す−を学びながら、総合的な 日本語能力を身につけます。この授業では特に「聞く・話す」に焦点を当てて強化をはかります。聞いたことを理解するにとどまらず、相手の言いたいことをはかり、それを受けて返事をしたり行動したりする能力を身につけることがねらいです。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では、「聞く・話す」ことより相手の伝えたいことをくみ取り、どんな場合にでも対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。						
授業計画	第１講 ガイダンス 日本を知る 論議、発表① 語彙学習① 第２講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習② 第３講 能力試験対策模擬試験①、② 第４講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第５講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第６講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第７講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第８講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第９講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③ 第12講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④ 第13講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤ 第14講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥ 第15講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10［中、中上級］』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』 〃 有田 『１回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	Ｎ１向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使える ようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却し ます）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング	小レポート／小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ			科目コード	181101	授業コード	121201
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GELS1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事がこの講座の狙い。アクティブで英語を学んでもらうために学習者中心の授業をする。スキットやロールプレイやリダーズシアターを利用して、『使える英語』を目指す。使用するテキストは、コミュニケーション能力を高めたり、英語の語彙を増やしたりするための構造がある。 The main goal of this course is for participants to improve their English listening and　speaking skills. This is a learner-centered course, and in order to learn actively, skits, role play and reader's theater will be used. The textbook provides a framework for developing　communication skills and increasing vocabulary.						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。						
授業計画	1.　Guidance，　Greetings and Introductions 2.　Unit 1- Where are you from?　　主語と動詞の一致 3.　Unit 1- Where are you from?　　主語と動詞の一致 4.　Unit 2- How are you doing?　　動詞と一般動詞 5.　Unit 2- How are you doing?　　動詞と一般動詞 6.　Unit 3- How many classes do you have?　　数えられる名詞 7.　Unit 3- How many classes do you have?　　数えられる名詞 8.　Unit 4- How much food do you need for your party?　　数えられない名詞 9.　Unit 4- How much food do you need for your party?　　数えられない名詞 10.　Unit 5- How many people are there in your family? There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い 11. Unit 5- How many people are there in your family? There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い 12. Unit 6- When is your report due?　　Cardinal and ordinal numbers 数 13. Unit 6- When is your report due?　　Cardinal and ordinal numbers　数 14. Final presentation- preparation 15. プレゼンテーション- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	Project English　Vivian Morooka　Nanundo 9784523179368						
事前・事後学習	In addition to homework，　after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts and textbook exercises covered in the previous lesson. Also，　spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following lesson.						
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　30% スピーキングテスト・スキット　20% プレゼンテーション-定期試験　20%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
アクティブラーニング	リーダーズ・シアター　、ロールプレイ、スキット						
実務経験のある教員							
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 １。5回以上欠席すると単位なし。 2。履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 ３。テキストがないと欠席扱いになる。 4。２回遅刻すると１回の欠席になる。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ			科目コード	181101	授業コード	121402
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GELS1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、様々な会話を聞き、多様なトピックのエッセイを読むことで、英語力を身に付けます。授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。						
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要　Unit 1 What is "Black Friday"? 第2講　Unit 1 What is "Black Friday"? 第3講　Unit 2 What is a "leap year"? 第4講　Unit 2 What is a "leap year"? 第5講　Unit 3 Why do big ceremonies have a "red carpet"? 第6講　Unit 3 Why do big ceremonies have a "red carpet"? 第7講　Unit 4 Where did "mouthwash" come from? 第8講　Unit 4 Where did "mouthwash" come from? 第9講　Unit 5 What is a "Viking"? 第10講　Unit 5 What is a "Viking"? 第11講　Unit 6 Why are oranges "orange"? 第12講　Unit 6 Why are oranges "orange"? 第13講　Unit 7 Where did "Vaseline" come from? 第14講　Unit 7 Where did "Vaseline" come from? 第15講　Unit 8 Why are flamingos "pink"? 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	Arnold Arao・三原京・巳波義典・木村博是著『Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 身近な不思議を英語で学ぶ＜準中級＞』南雲堂（2022年）定価：2200円（税込）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）						
成績評価方法	学習態度　20% 課題・小テスト　30% 定期試験　50% ※5回以上欠席した学生には、原則として単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ			科目コード	181101	授業コード	121202
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GELS1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	基礎レベルの英語によるコミュニケーション能力の習得をめざします。相手（「読み手」「聞き手」など）があることを意識した英語の使用を実践的に学びます。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能に加え、異文化への理解も深めます。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	第1講　ガイダンス Unit 1 What is Important to You? (2-1) 第2講　Unit 1 What is Important to You? (2-2) 第3講　Unit 2 My Morning Routine (2-1) 第4講　Unit 2 My Morning Routine (2-2) 第5講　Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-1) 第6講　Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-2) 第7講　Unit 4 The Best Film Ever (2-1) 第8講　Unit 4 The Best Film Ever (2-2) 第9講　Unit 5 What is a True Friend? (2-1) 第10講　Unit 5 What is a True Friend? (2-2) 第11講　Unit 6 The Best Pizza in Town (2-1) 第12講　Unit 6 The Best Pizza in Town (2-2) 第13講　Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-1) 第14講　Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-2) 第15講　Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』 (金星堂) 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	テキストの内容は必ず予習・復習してください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。 授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ （毎回、小テストを行います） 定期試験　５０％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。下手でもいいのでコミュニケーションする気持ちを自分から示してください。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	181102	授業コード	121601
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GELS1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事はこの講座の狙い。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をする。スキットやロールプレイやリーダーズシアターを利用して『使える英語』を目指す。使用するテキストは、コミュニケーション能力を高めたり、英語の語彙を増やしたりするための構造がある。 The main goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. This is a learner-centered course, and in order to learn actively, skits, role play and reader's theater will be used. The textbook provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。						
授業計画	1. Guidance/Talking about the past/ "How was your vacation?" 2. Unit 7- How was your weekend? Past Tense　過去形 3. Unit 7- How was your weekend? Past Tense　過去形 4. Unit 8- What time is your first class? Time　時間の表現 5. Unit 8- What time is your first class? Time　時間の表現 6. Unit 9- Have you ever been to Kyoto? Present Perfect　現在完了形 7. Unit 9- Have you ever been to Kyoto? Present Perfect　現在完了形 8. Unit 10- Can I ask you a favor? Auxiliary Verbs　助動詞 9. Unit 10- Can I ask you a favor? Auxiliary Verbs　助動詞 10. Unit 11- I'm going to visit my grandparents. Future Tense　未来形 11. Unit 11- I'm going to visit my grandparents. Future Tense　未来形 12. Unit 12- I'm on the train Prepositions 前置詞 13. Unit 12- I'm on the train Prepositions 前置詞 14. Final presentation- preparation 15. プレゼンテーション- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	Project English　Vivian Morooka　Nanundo 9784523179368						
事前・事後学習	In addition to homework， after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts， textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition， spend about 30 minutes reading ahead preparing for the following class.						
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 30% スピーキング・テスト(2) 20% プレゼンテーション-定期試験 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
アクティブラーニング	リーダーズ・シアター、ロールプレイ、スキット						
実務経験のある教員							
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 １。5回以上欠席すると単位なし。 2。履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 ３。テキストがないと欠席扱いになります。 ４。２回遅刻すると一回の欠席になる。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	181102	授業コード	121802
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GELS1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、様々な会話を聞き、多様なトピックのエッセイを読むことで、英語力を身に付けます。授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。						
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要　Unit 8 Why are flamingos "pink"? 第2講　Unit 9 What is a movie "trailer"? 第3講　Unit 9 What is a movie "trailer"? 第4講　Unit 10 Where did "bubble wrap" come from? 第5講　Unit 10 Where did "bubble wrap" come from? 第6講　Unit 11 Why is a billiard table "green"? 第7講　Unit 11 Why is a billiard table "green"? 第8講　Unit 12 Why is film called "footage"? 第9講　Unit 12 Why is film called "footage"? 第10講　Unit 13 Where did "Coca-Cola" come from? 第11講　Unit 13 Where did "Coca-Cola" come from? 第12講　Unit 14 Why are social media apps "blue"? 第13講　Unit 14 Why are social media apps "blue"? 第14講　Unit 15 Where did "makeup" come from? 第15講　Unit 15 Where did "makeup" come from? 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	Arnold Arao・三原京・巳波義典・木村博是著『Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 身近な不思議を英語で学ぶ＜準中級＞』南雲堂（2022年）定価：2200円（税込）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）						
成績評価方法	学習態度　20% 課題・小テスト　30% 定期試験　50% ※5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	181102	授業コード	121602
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GELS1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	「英語コミュニケーションⅠ」で修得した英語によるコミュニケーション能力をさらに磨きます。相手があることを意識した実践的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）に加え、異文化理解を深めることを重視します。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、学生同士が積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。意欲のある学生には、英語資格試験（TOEIC、英検等）への挑戦を期待します。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。 5. 本授業を受講後に、英語資格試験（TOEIC、英検等）の受験をめざす。						
授業計画	第1講　ガイダンス Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 第2講　Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-1) 第3講　Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-2) 第4講　Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-1) 第5講　Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-2) 第6講　Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-1) 第7講　Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-2) 第8講　Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-1) 第9講　Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-2) 第10講　Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-1) 第11講　Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-2) 第12講　Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-1) 第13講　Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-2) 第14講　Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-1) 第15講　Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-2) 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』(金星堂)【「英語コミュニケーションⅠ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ （毎回、小テストを行います） 定期試験　５０％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、学生参加型の授業です。下手でもいいので、積極的にコミュニケーションする姿勢を身につけてください。出席しても授業に積極的に参加しない場合は、評価しません。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	中国語Ⅰ			科目コード	181103	授業コード	121203
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GELS1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通し、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調（高低アクセント）と400余りの音節を正しく発音できようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。						
到達目標	この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしながら、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。						
授業計画	第１講 ガイダンス、授業の概要、中国語概要１ 第２講 中国語概要２、中国概況１ 第３講 声調（４）と単母音（７）の発音、概況２ 第４講 複合母音（13）の発音、概況３ 第５講 鼻母音（16）の発音、概況４ 第６講 子音（21）の発音、概況５ 第７講 発音、表記上の規則、概況６ 第８講 発音のまとめ、小テスト、概況７ 第９講 どうぞよろしく（point１～４）、概況８ 第10講 お名前は（point１～４）、概況９ 第11講 ご出身は（point１～４）、概況10 第12講 飲み物は（point１～４）、概況11 第13講 おいくつ（point１～４）、概況12 第14講 和食はいかが（point１～４）、概況13 第15講 復習、概況14 定期試験 注 授業内容、進度については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。						
テキスト・教材（参考文献）	１）教材：相原茂他『日中いぶこみ交差点（エッセンシャル版）』 （朝日出 版社）2，400円＋税 ２）参考書：『WHY？に答えるはじめての中国語の文法書』（相原茂） ３）辞書：『簡約現代中国語辞典』（光生館）						
事前・事後学習	毎回与えられる復習（90分）、予習（90分）のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。						
成績評価方法	①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題（評価した後返却します）20%により総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題など提出方法はMoodleか、あるいは次回の授業時に直接手渡しのいずれかの方法により提出していただきます。どちらの方法にするかは、授業の際に、そのつど指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	平常授業中に行われる書き取りテストは採点後返却し、フィードバックします。課題などの提出物も状況に応じて返却しフィードバックする予定です。						
アクティブラーニング	小テスト／小レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。						

授業科目名	中国語Ⅱ			科目コード	181104	授業コード	121603
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GELS1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この授業は中国語Ｉを継続するものです。中国語Ｉと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。 コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。						
到達目標	中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。						
授業計画	「中国語Ｉ」からの継続 第１講：ガイダンス、授業の概要、家庭訪問（１） 第２講：家庭訪問（２）、買い物（１） 第３講：買い物（２）、道案内（１） 第４講：道案内（２）、中秋節（１） 第５講：中秋節（２）、食事の前は（１） 第６講：食事の前は（２）、第１～５講の復習（１） 第７講：第１～５講の復習（２） 第８講：手作り料理（１） 第９講：手作り料理（２）、カ二の季節（１） 第10講：カ二の季節（２）、スキー場で（１） 第11講：スキー場で（２）、おみやげ（１） 第12講：おみやげ（２）、空港まで（１） 第13講：空港まで（２）、第６～12講の復習（１） 第14講：第６～12の復習（２） 第15講：総復習とまとめ 定期試験 注 授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。 毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。						
テキスト・教材（参考文献）	１）教 材：『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』（朝日出版社）、相原茂 他 ２）副教材：『中国語の文法書』（同学社） ３）辞 書：『中国語辞典』（光生館） ４）参考書：『中国語はじめの一歩』（ちくま新書）						
事前・事後学習	授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください（予習90分＋復習90分）。 加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください（毎日30分以上）。						
成績評価方法	学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題（採点後返却します）20%をもとにして、総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業j内の課題や宿題は、Moodleないしは次回の授業の際に直接手渡しの、いずれかの方法により提出していただきます。いずれの方法かは、授業時にその都度指示をします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題、宿題などの提出物は採点後返却しフィードバックします。						
アクティブラーニング	小レポート／小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。						

授業科目名	ポルトガル語Ⅰ			科目コード	181105	授業コード	121403
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GELS1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本−ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　アルファベットと発音 第３講　挨拶と自己紹介 第４講　名詞の性と数 第５講　冠詞と数字 第６講　ser動詞（1） 第７講　ser動詞（2） 第８講　所有表現（１） 第９講　所有表現（２） 第10講　所有表現（３） 第11講　gostar動詞 第12講　規則動詞（１） 第13講　規則動詞（２） 第14講　規則動詞（３） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari (朝日出版社) （2，300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60 分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は０点になります。						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
アクティブラーニング	教科書／参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	ポルトガル語Ⅱ			科目コード	181106	授業コード	121803
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GELS1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本−ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第１講　前期の総合復習 第２講　前置詞 第３講　不規則動詞：ir 第４講　不規則動詞：terとfazer 第５講　不規則動詞：poder 第６講　不規則動詞：querer 第７講　estar動詞 第８講　ser動詞とestar動詞の違い 第９講　現在分詞と現在進行形 第10講　規則動詞の過去形（１） 第11講　規則動詞の過去形（２） 第12講　規則動詞の過去形（３） 第13講　様々な表現（１） 第14講　様々な表現（２） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari (朝日出版社) （2，300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60 分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は０点になります。						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
アクティブラーニング	教科書／参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	日本語中級Ⅰ			科目コード	181109	授業コード	125302
担当教員	安田　由紀子			科目ナンバリング	GELS9003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	言語の四技能―読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことをはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第１講　合同ガイダンス 第２講　文章読解①　語彙学習① 第３講　文章読解②　語彙学習② 第４講　文章読解③　語彙学習③ 第５講　文章読解④　語彙学習④ 第６講　文章読解⑤　語彙学習⑤ 第7講　能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講　能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講　能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講　能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講　能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講　文章読解⑥　語彙学習⑥ 第13講　文章読解⑦　語彙学習⑦ 第14講　文章読解⑧　語彙学習⑧ 第15講　文章読解⑨　語彙学習⑨ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合が あります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えを しっかりまとめておきましょう（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語中級Ⅱ			科目コード	181110	授業コード	125702
担当教員	安田　由紀子			科目ナンバリング	GELS9004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	言語の四技能―読む、書く、聞く、話す―を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことを活字からはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第１講　合同ガイダンス 第２講　文章読解①　語彙学習① 第３講　文章読解②　語彙学習② 第４講　文章読解③　語彙学習③ 第5講　能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講　能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講　能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講　能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講　能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講　文章読解④　語彙学習④ 第11講　文章読解⑤　語彙学習⑤ 第12講　文章読解⑥　語彙学習⑥ 第13講　文章読解⑦　語彙学習⑦ 第14講　文章読解⑧　語彙学習⑧ 第15講　文章読解⑨　語彙学習⑨ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合が あります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えを しっかりまとめておきましょう（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	政治学概論			科目コード	181201	授業コード	122201
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	GELA1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	「政治」と聞くと難しそうだと感じる人も多いでしょう。しかし、私たちは不可避に政治に出会うことになります。それは「政治」が、独りでは生きていけない私たちのあいだのルールを決める営みだからです。本講義ではこのような集合的意思決定としての政治について学習します。 本講義前半（4～10回）では政治制度や政治に参加する集団の行動原理について「利益」の観点から分析し、政治学の基礎的知識を身に着けます。 本講義後半（11～14回）では「利益」の観点から離れた別の視点から政治の世界を眺め、単なる利益闘争には還元できない政						
到達目標	・主に日本の政治制度についての基本的用語や知識を理解し、他の政治系科目を履修するための基礎知識を獲得する ・一人の市民として、各種媒体の政治ニュースについて理解できるようになる						
授業計画	01.ガイダンス／政治とは何か？ 02.政治のとらえ方 03.分配的正義 04.国家という枠組み 05.政治体制 06.選挙と多数決 07.政党と政党システム 08.政権とアカウンタビリティ 09.政策過程と官僚制・利益団体 10.安全保障と平和 11.民主主義とは何か？ 12.「投票」だけが民主主義か？ 13.「私」のことも政治か？ 14.「市民である」とはどういうことか？ 15.まとめ：政治学概論 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・砂川庸介、稗田健志、多湖淳（2020『政治学の第一歩［新版］」有斐閣 ・田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望（2017）『ここから始める政治理』」有斐閣						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う						
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり						
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。また、2/3以上の出席が認められない学生については原則として単位を認めません。						

授業科目名	経済学概論			科目コード	181202	授業コード	122801
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GELA1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	ここでは、経済学の基礎的考え方を学ぶため、映像による事例を紹介し、その背後にある経済の仕組みや動きについて説明していく。受講生には、映像や解説の内容をノートテイクするためのレジュメを配布する。映像や解説をメモしながら授業が進み、授業終了直後に完成したレジュメをスマホで撮影しMoodleに提出する。遅刻したり、他ごとをしていた部分は確実に減点されるので、90分の講義に集中しなければならなくなる。また、できるだけ教室の中を動き、学生からの発言を求め、時にはディスカッションの時間を設ける。						
到達目標	経済学の基本的知識を映像から体感し、経済社会の背後にある仕組みを理解して将来の仕事や生活に役立つ知識を身に着けることが到達目標である。						
授業計画	1：ガイダンス、感染症が経済に与えた影響から経済の仕組みを学ぶ 2：コロナ禍で地域の金融機関が果たした事例から経済を知る 3：金融制度の表側と裏側を知る 4：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み① 5：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み② 6：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み① 7：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み② 8：日本経済における「働き方」の変化 9：文化・スポーツなどの経済活動 10：税の仕組みを知る（四日市市税務署） 11：企業経営の事例から経済を学ぶ① 12：企業経営の事例から経済を学ぶ② 13：インバウンド・外国人と日本経済 14：経済のいまを映像で知る 15：復習とレポート試験の説明						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。						
成績評価方法	毎回Moodleに提出するレポート(75%)、対面・持ち込み不可で実施する学期末試験(25%)により、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	毎回レジュメにノートをとり、写真に撮影してMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle上で課題に対するフィードバックを行う。						
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	社会に出て役立つ経済の知識を獲得できる講義を目指す。						

授業科目名	社会学概論			科目コード	181203	授業コード	121205
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	GELA1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作っています。一方で人間は社会によって作られる存在でもあります。私たちはどのように社 会を作り、そして社会に作られているのか。この両面から社会の仕組みを考えてゆく授業です。						
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を理解する						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 規範と価値 第３講 自分とは何だろうか 第４講 スポーツから近代社会を考える 第５講 人は集団をつくる 第６講 家族を考える 第７講 ジェンダーとは 第８講 格差と社会階層 第９講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す						
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とリアクションペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内でリアクションペーパーを作成し提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各回の課題は翌週以降の授業内で適宜まとめてコメントします。						
アクティブラーニング	リアクションペーパー						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	181204	授業コード	121604
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	GELA1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回　ガイダンス　授業の概要（社会福祉とは） 第2回　社会福祉の歴史的変遷 第3回　社会福祉の制度と人権 第4回　社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回　社会保障　小レポート-1 第6回　少子社会の展開 第7回　子ども家庭福祉 第8回　高齢者福祉 第9回　障がい者福祉 第10回　母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉　小レポート-2 第11回　生活困窮者に対する福祉 第12回　社会福祉における相談援助 第13回　地域福祉 第14回　ボランタリズムとボランティア 第15回　まとめ　小レポート-3 　定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 ＜参考文献＞ 杉本敏夫他『社会福祉概論　社会福祉の原理と政策　第5版』勁草書房（2023年） 山縣文治他『よくわかる社会福祉　第11版』ミネルヴァ書房（2019年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	＜評価＞受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞ コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、グループワーク						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方を知ることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	日本国憲法概論			科目コード	181205	授業コード	122401
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GELA1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っております。						
到達目標	大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　憲法の機能 第３講　天皇と国民の関係 第４講　国民の三大義務 第５講　基本的人権とその種類 第６講　環境権（判例的考察） 第７講　憲法上の権利と義務 第８講　法の下の平等 第９講　絶対平和主義 第10講　国家機密と国民の知る権利 第11講　平等な投票にするための権利義務 第12講　行政救済 第13講　国際私法 第14講　憲法改正問題 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験　70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。						
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。						
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で「憲法」を中心に法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	民法概論			科目コード	181206	授業コード	123801
担当教員	土志田　佳枝			科目ナンバリング	GELA1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくとも、テレビを持っていなくとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。						
到達目標	新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思います。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。						
授業計画	1民法と民法典（予習90分：第1章）（復習90分） 2権利と義務（予習90分：第2章の1）（復習90分） 3契約①債権・債務（予習90分：第2章の2）（復習90分） 4契約②未成年（予習90分：第3章）（復習90分） 5後見（予習90分：第4章）（復習90分） 6所有権と占有（予習90分：第5章）（復習90分） 7時効（予習90分：第6章1消滅時効）（復習90分） 8不法行為と不当利得（予習90分：第6章2法定利率）（復習90分） 9事務管理（予習90分：第6章3約款）（復習90分） 10婚姻（予習90分：第6章4サービス契約）（復習90分） 11離婚（予習90分：第6章5自然災害と契約法）（復習90分） 12親子関係（予習90分：第7章）（復習90分） 13養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分） 14相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分） 15講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：　内田貴『民法改正—契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011）ISBN 978-448006634 参考文献は新書と電子書籍で入手可能ですが、必ずしも購入の必要はありません。グローバル化の影響は皆さんの学ぶ民法にも及んでいます。近年の法改正にあわせて、わかりやすい本が次々出版されています。ぜひ図書館で手に取ってみてください（大学図書館の図書を探す https://ci.nii.ac.jp/books/ ）。						
事前・事後学習	予習には参考書などで授業に関する範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。						
成績評価方法	定期期末試験（50%）と平常点（50%：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
授業内の課題・提出方法	課題は教室で受け取る予定です。提出日や書式などについては教室で案内します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	定期期末試験（50%）と平常点（50%：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定でいます。						

授業科目名	哲学概論			科目コード	181301	授業コード	123401
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GELH1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。						
到達目標	現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス・「哲学」とは何か 第２講　哲学の起源 第３講　哲学の三つの伝統 第４講　西洋と東洋 第５講　ソクラテス：無知の知 第６講　プラトン：洞窟の比喩 第７講　アリストテレス：現実とは何か 第８講　中世哲学 第９講　中世から近代へ 第10講　近代哲学 第11講　近代から現代へ 第12講　カント：超越とは何か 第13講　弁証法 第14講　懐疑的解釈学の哲学者たち 第15講　言葉には力がある！						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し，次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。						

授業科目名	文学概論			科目コード	181302	授業コード	121404
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	GELH1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この講義では、近代日本、あるいは現代世界の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による、いわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年９月19日のことだった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのだ。そしてロシアのウクライナ侵攻は2022年２月、イスラエルのガザ地区侵攻は2023年10月のことだった。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることで平和を構築する道について考えてみたい。						
到達目標	近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想をともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である						
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　日露戦争概説 第３回　与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」 第４回　陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論 第５回　トルストイ「汝悔い改めよ」 第６回　幸徳秋水「戦争来」 第７回　内村鑑三の日露戦争非戦論 第８回　前半のまとめと復習（グループワーク） 第９回　ヴェトナム戦争概説 第10回　ボブ・ディラン「風に吹かれて」 第11回　武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」 第12回　日本国憲法第９条 第13回　加藤周一ほか「９条の会」 第14回　核戦争と「文学者の反核声明」 第15回　全体のまとめと復習（グループワーク） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。（90分） また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテクストは、それぞれのテクストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。（90分）						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回の終わりに講義の内容のまとめと、それに関する意見、質問などを簡単に書いて提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニ・レポートは、総評的なコメントとともに点数をつけて翌週に返却する。						
アクティブラーニング	小レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわるつもりはない。「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。						

授業科目名	歴史学概論			科目コード	181303	授業コード	125303
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GELH1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	歴史的事項を文化・思想などを中心として様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに、未知なる社会に挑んできた先人たちの知恵を追体験することにより、新たな見方を提供したい。						
到達目標	1. 歴史と文化・思想のつながりを理解することができる。 2. 歴史を様々な側面から見ることで、新たな見識を得、未知なる社会への想像力を育み、視野を広げることができる。 3. 「常識」を疑い、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力を持つことができるようになる。						
授業計画	第1回　講義のガイダンス、自己紹介 第2回　考古 第3回　古代（1） 第4回　古代（2） 第5回　古代（3） 第6回　中世（1） 第7回　中世（2）＆近世（1） 第8回　中世（3）＆近世（2） 第9回　近世（3） 第10回　近世（4） 第11回　近世（5） 第12回　近世（6） 第13回　近世（7） 第14回　近代（1） 第15回　近代（2） 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60～90分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点対象外とする。（病欠・公欠等は別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。 期末レポートはMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出のこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	教育学概論			科目コード	181304	授業コード	121605
担当教員	長谷川　誠			科目ナンバリング	GELH1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	教育学概論は、教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題について検討することを目的とします。例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について考えていきます。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目指します。						
到達目標	教育を取り巻く諸問題を整理し、社会における教育の在り方への興味をより具体的なものとして意識し、議論できることを目指していきます。教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会学的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養います。						
授業計画	第１講：教育とは何か 第２講：教育と社会 第３講：学歴社会の成立と変貌 第４講：日本の教育政策の動向−諸外国との比較から− 第５講：教育をめぐる格差問題 第６講：いじめ問題 第７講：不登校の課題と対応 第８講：特別な支援を必要とする子どもへの対応 第９講：懲戒と体罰 第10講：情報社会と教育 第11講：グローバル化と教育 第12講：リスク社会の進展と教育 第13講：若年層就労問題① 第14講：若年層就労問題② 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。適宜プリントを配布します。						
事前・事後学習	・教育に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
成績評価方法	・課題試験60%（授業で扱った教育課題に対する理解度、教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性） ・平常点40%（リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述の的確性）						
授業内の課題・提出方法	課題：授業内で実施するリアクションペーパー						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週の授業にて適宜コメントします						
アクティブラーニング	適宜、ディスカッションを行います						
実務経験のある教員							
担当者から一言	積極的な授業への参加を期待しています。 現代の教育課題について一緒に考えていきましょう。						

授業科目名	心理学概論			科目コード	181306	授業コード	124601
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GELH1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえる情報伝達(教えること)」とはどういうものかを明らかにすることを講義のねらいとします。						
到達目標	生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。						
授業計画	第１講　ガイダンス・視覚情報：色彩　色の対処理 第２講　視覚情報・色彩　赤と青を同時に使わない(実習) 第３講　視覚情報・色彩　表現(映像･絵画)における補色の利用 第４講　資格情報・色彩　色鉛筆で絵を描きます(実習) 第５講　視覚情報・形　両眼視 第６講　視覚情報・形　アフォーダンス 第７講　視覚情報・アフォーダンス　実習１　ボケの効果 第８講　視覚情報・アフォーダンス　実習２　空気遠近を用いた作画(実習) 第９講　実験心理学からみた学習 第10講　個体学習と社会学習の違い 第11講　社会学習における課題 第12講　人類における「教えること」の成立（レポート課題の配布） 第13講　理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感 第14講　実験心理学の技法･統計：因子分析を例にして 第15講　レポート返却(コメント付き)･講評 定期試験　各自のコメントに関連した問題						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで (30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義中の実践課題40%　レポート　40%　定期試験　20% 講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
アクティブラーニング	視覚情報では、作画実習を行い、理解して使えるようになったかを確かめます。情報伝達では、実際に話を伝えるコミュニケーションを行ってもらいます。						
実務経験のある教員	京都大学霊長類研究所の研究員(生態・心理分野)の時、自然環境における親から子への情報伝達の研究に従事しました。						
担当者から一言	教育は一方向の情報発信でなく、双方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。						

授業科目名	化学概論			科目コード	181401	授業コード	121206
担当教員	牧田　直子			科目ナンバリング	GELN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	高校で化学を学んでいない、もしくは文系の学生向けの化学の授業ではあるが、高校では論理的な説明が成されず暗記科目になりがちな部分を大学の化学で補うことで、化学の考え方を学ぶ。化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの授業のねらいである。身の回りも自分自身も物質でできており、それらを学ぶ化学は実生活に役立つ実学である。健康で快適な生活のため、持続可能な社会の実現のために何を選ぶのか。物質面からの道標が化学であり、ぜひ学んでもらいたい。 関連科目は「環境化学」、「自然調査法」、「環境基礎実験」など。特に「環境化学」の前にこの科目を履修することが望ましい。						
到達目標	「元素の周期表から的確な情報を引き出す」 　「化学の目＝物質を見る目」を養うためには、元素の周期表の学習は欠かせない。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。物質の構成元素わかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。周期表を使いこなせるようになろう。						
授業計画	第1講　ガイダンス、化学の学び方 第2講　物質とは何か 第3講　身の回りの物質 第4講　物質の性質 第5講　物質の状態 第6講　原子と電子軌道 第7講　電子配置と周期表 第8講　化学結合１ 第9講　化学結合2、物質量 第10講　気体と溶液の性質 第11講　化学反応 第12講　酸と塩基 第13講　酸化と還元 第14講　光 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書： 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「『化学』入門編 — 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」化学同人（2007）、2160円（税込）						
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。						
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%						
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法–授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法–翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 　宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。						
アクティブラーニング	課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。						

授業科目名	地学概論			科目コード	181402	授業コード	121101
担当教員	森　康則			科目ナンバリング	GELN1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある地学的事象の事例を交えながら学んでいきます。						
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。						
授業計画	第１講　ガイダンス・地学とは 第２講　地球の構造と形状 第３講　岩石と鉱物１ 第４講　岩石と鉱物２ 第５講　化石 第６講　地質年代１ 第７講　地質年代２ 第８講　堆積作用 第９講　プレートテクトニクス 第10講　火山 第11講　地震 第12講　自然災害１ 第13講　自然災害２ 第14講　温泉１ 第15講　温泉２						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は講義資料をもとにした復習をしてください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。						
成績評価方法	（１）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 ＝ 75点 （２）レポート課題 25点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行いますので、提出期限までにMoodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。その他の詳細は、Moodle、UNIPAを使ってアナウンスします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleに提出された小テストは全て内容を確認し、必要に応じてMoodle上でコメントを付けますので、参考にしてください。質問等があれば、Moodleやメールにていつでも受け付けます。						
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見で良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図るようにします。						
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。						
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、効果的に受講しないと単位取得まで到達できません。受講に対する自律的な姿勢に期待しています。						

授業科目名	生物学概論			科目コード	181403	授業コード	123601
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GELN1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。						
到達目標	類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講　生物のエネルギー：代謝 第３講　光合成：エネルギーの生産 第４講　呼吸：エネルギーの活用 第５講　生体物質：反応できる窒素 第６講　タンパク質：安定した生体物質 第７講　RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習) 第８講　遺伝的情報：安定した核酸であるDNA 第９講　遺伝子：DNA内の情報システム 第10講　遺伝子発現の情報処理 第11講　生物の環境応答：刺激の受容 第12講　生理的情報：刺激伝達と神経システム 第13講　生理的情報の統合：興奮と抑制 第14講　環境への反応：効果器の代表としての筋肉 第15講　行動：統合された反応 定期試験　持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60%　定期試験　40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
アクティブラーニング	学周辺の森の見学(フィールドワーク)をして、自然と人間の相互作用を理解します。						
実務経験のある教員	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻における日本学術振興会特別研究員の時に、生理学の研究に従事し、成果をアメリカ・イギリスの国際英文学術誌(査読付き)に発表しました。						
担当者から一言	生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われていながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。						

授業科目名	数学概論			科目コード	181404	授業コード	122202
担当教員	金岩　稔			科目ナンバリング	GELN1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。 特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。						
到達目標	（１）数学的な物の考え方ができるようになる。 （２）基礎的な数学を理解する。						
授業計画	1 ガイダンス 2 分離量と連続量 3 正と負 4 代数 5 図形 6 円 7 複素数 8 合同式 9 関数１ 10 関数２ 11 極限１ 12 極限2 13 回転1 14 回転2 15 まとめと確認課題						
テキスト・教材（参考文献）	配布資料						
事前・事後学習	予習：講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。 復習：講義中に行った演習を各自で完答できるようにする。						
成績評価方法	出席（50%）課題（50%）						
授業内の課題・提出方法	講義時間中に配布・提出。 Moodle併用する場合もある。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事後の講義やMoodleにて。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	なるべく数式を使わず、数学の面白さをわかってもらえたらと思います。						

授業科目名	情報科学概論			科目コード	181405	授業コード	123110
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	GELN1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	近年、デジタル化の急速な発展とインターネットによる高速な情報拡散によって、情報処理は急速に変化してきました。情報処理について理解することがますます重要になってきています。この授業では、パーソナルコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどで行われている情報通信の現在の状況を学びます。						
到達目標	現代の情報処理技術の概要を理解する。						
授業計画	第１講　ガイダンス　人間はどうやって情報を伝えているか 第2講　情報メディア 第3講　身の回りの情報機器 第4講　コンピュータシステム 第5講　文字符号化 第6講　アナログからデジタルへ 第7講　マルチメディア（オーディオ、画像、ビデオ） 第8講　インターネット 第9講　WWW 第10講　ＳＮＳ 第11講　ビッグデータと人工知能 第12講　生体認証 第13講　暗号化とセキュリティ 第14講　デジタルトランスフォーメーション（DX） 第15講　情報処理の将来 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。						
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。						
成績評価方法	教育支援システム(Moodle)を使用したディスカッション等での授業参加 30%、Moodleでの課題と小テスト30%、定期テスト40%で評価します。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションしたり、課題を提出したりします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等のフィードバックします。						
アクティブラーニング	Moodle でのディスカッション、ミニレポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	情報通信の発展と変化は非常に速いので、常に変化に対応できるように情報を集めるように心がけてください。						

授業科目名	データサイエンス概論			科目コード	181406	授業コード	121606
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	GELN1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会（ネット）とフィジカル社会（現実社会）とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いてAIが社会の重要な基盤として活躍します。 これからの私たちは、データサイエンスとAIについてのリテラシーをもつことが求められるようになります。 「データサイエンス概論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身に着けてもらいます。						
到達目標	データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身に着ける。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　社会で起きている変化①　Society5.0（前川） 第３講　社会で起きている変化②　AI（前川） 第４講　社会で起きている変化③　データ駆動型社会（前川） 第５講　社会で活用されているデータ（片山） 第６講　データ・AI利活用の最新動向（前川） 第７講　データ・AIの活用領域（片山） 第８講　データ・AIの利活用のための技術（片山） 第９講　データ・AI利活用の現場（片山） 第10講　データを読む・説明する・扱う（導入）（片山） 第11講　データを読む・説明する・扱う（演習）（片山） 第12講　データ・AI利活用における留意事項①（前川） 第13講　データ・AI利活用における留意事項②（前川） 第14講　データを守るうえでの留意事項（前川） 第15講　まとめ 定期試験 （必要に応じて内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献）	岡嶋ほか「はじめてのAIリテラシー」技術評論社　税別1680円 参考文献 江間「絵と図でわかる AIと社会」技術評論社　税別2000円						
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること（60分）。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと（120分）。						
成績評価方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60%、定期試験40%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	授業内で実習課題や復習課題を課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
アクティブラーニング	演習を行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	本科目は、四日市大学のデータサイエンス・リテラシー（DSL）プログラムの中核科目です。 四日市大学DSLプログラムは、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」を認定されました（三重県で初めて）。						

授業科目名	キャリア基礎ａ			科目コード	181501	授業コード	126104
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この科目では、大学生としても社会人としても常識として確実に身に付けておくことが求められる基礎学力の習得を目指します。教養としての数学は、文系・理系を問わず、使いこなせる必要があります。また、論理的に文章を読み取る国語の読解力は、あらゆる分野でなくてはならないものです。全15回の授業は、オンデマンドで行います。苦手とする単元は授業動画を繰り返し視聴し、確実に学力を養成していきましょう。						
到達目標	①数学の基礎学力を身に付ける。 ②新聞記事、時事的な文章、評論等の論理的な文章を読み解けるようになる。						
授業計画	第１講 ガイダンス、数学１ 第２講 数学２ 第３講 数学３ 第４講 数学４ 第５講 数学５ 第６講 数学６ 第７講 数学７ 第８講 読解１ 第９講 読解２ 第10講 読解３ 第11講 数学８ 第12講 数学９ 第13講 数学10 第14講 数学11 第15講 数学12						
テキスト・教材（参考文献）	「キャリア基礎a」用テキストを使用します。						
事前・事後学習	まずはテキストの問題を試しに解いてみる（90分）。 次に、授業動画を視聴しながら、動画の指示に従って、テキストの問題を改めて解く。 復習として、問題を完璧に解けるようになるまで解き直す（90分）。						
成績評価方法	期末試験 100%						
授業内の課題・提出方法	テキストの各章末の確認テスト問題を課題とします。 Moodleに解答を掲示しますので、それを見て自分で答え合わせをしてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答・解説はMoodleにて示します。 課題や授業内容などについて、疑問がありましたら、メール等で受け付け、返信します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	担当者の高田は、複数の大学や再就職希望社会人向けの就職試験対策講座や公務員試験対策講座の担当経験あり。						
担当者から一言	大学で何を専門的に学ぶにせよ、大学卒の社会人に期待される最低限の学力、特に、多くの人が苦手としがちな数学は身に付けておいた方がよいです。この科目では「やれるまでやる」「基礎学力に自信が持てるようになる」つもりで取り組みましょう。						

授業科目名	キャリア基礎ｂ			科目コード	181502	授業コード	121701
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。						
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1.　世の中の仕事について知る 2.　いろいろな仕事のつながりを知る 3.　将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる						
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①働くとは 3 労働②さまざまな働き方 4 労働③日本の働き方 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③日本をとりまく世界の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて						
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。						
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）						
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。						
アクティブラーニング	小レポート グループワーク						
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。						
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。						

授業科目名	ビジネスマナー			科目コード	181601	授業コード	125601
担当教員	長野　ゆき子			科目ナンバリング	GECC1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。ビジネスマナーは一つのスキルではありますが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていけばよいかを学びます。そのうえで、一般的なビジネスマナーの知識・考え方・所作を学びます。 表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手部と言った非言語コミュニケーションも含まれます。この応用としてビジネスマナーがあります。 職場内やお客様との間での様々なシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。						
到達目標	社会人としてビジネスマナーの基本を身に付けており、社会生活の中のさまざまなシーンで実践できることです。まずは、相手との関係性において適切な自己表現ができることが目標です。 ①人間関係づくりの考え方を学ぶこと。 ②一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。 ③ビジネスシーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。						
授業計画	①　9／27　ガイダンス・人間関係作り①　価値交流 ②　10／4　人間関係作り②　コミュニケーションとは ③　10／11　人間関係作り③　パフォーマンス学 ④　10／18　人間関係作り④　話し方・聞き方 ⑤　10／25　人間関係作り⑤　聞き方・考え方 ⑥　11／1　一般的なマナー①　敬語① ⑦　11／8　一般的なマナー②　敬語② ⑧　11／15　一般的なマナー③　表情・声・身体表現① ⑨　11／22　一般的なマナー④　表情・声・身体表現② ⑩　11／29　ビジネスマナー①　職場のルール・報連相 ⑪　12／6　ビジネスマナー②　受付・案内・席次・訪問時のマナー ⑫　12／13　ビジネスマナー③　一般文書トビジネス文書（メール・封筒・ハガキの書き方） ⑬　12／20　ビジネスマナー④　プレゼンテーション（原稿作成・言語非言語表現） ⑭　1／10　ビジネスマナー⑤　クレーム対応（場面に応じた対応） ⑮　1／17　総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。						
事前・事後学習	予習：授業中に宿題内容を指示します。 次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習してきます。 次回講義内容に関係した課題を調べてきます。 復習：毎回の講義で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をしてきます。						
成績評価方法	定期テスト５０％　参加態度及び小テスト５０％。 小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。 解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。 小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、今回の講義内容の重要点をおさらいした後、小テストを実施します。 丸つけしたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の初めに、前回授業内容の重要点事項・小テスト内容のポイントなどの振り返り授業を行います。学生を指名して解答して頂いただき、理解度を計ることをしたり、グループディスカッションを通じて定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により学習の形態を変えます。 コメントシート、ミニッツペーパー。 ディスカッション発表。 プレゼンテーション原稿を作詞して実技発表。 グループワーク。ペアワーク発表。						
実務経験のある教員	民間企業勤務。企業研修講師。						
担当者から一言	外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。						

授業科目名	インターンシップａ			科目コード	181603	授業コード	126101
担当教員	鬼頭　浩文、岡　良浩			科目ナンバリング	GECC1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上の定期アルバイト）があることが望ましい ・基本的なマナーが身についており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること						
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。						
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 ４月：説明会（CSC主催）･･･スケジュール詳細説明／申込用紙配布 ４月末：申込用紙を提出　⇒　書類選考の合格者を発表 ５月中旬～下旬：面接　⇒　面接の合格者を発表 ６月下旬：研修先マッチング開始　⇒　研修先決定 ７月中旬：事前研修･･･マナー研修/インターンシップ中の心得等 ７月下旬：直前ガイダンス･･･研修中の諸注意/事後研修についての連絡等 ８～９月：インターンシップ 10月：事後面談･･･レポート提出 11月以降：単位認定 ＊春期休業期間等のインターンシップについては別途説明します。						
テキスト・教材（参考文献）	とくになし						
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。						
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。						
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。						
アクティブラーニング	インターンシップは、自分で考え行動することが求められる。研修先では、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。						
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。						
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないでほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。						

授業科目名	ビジネス英語ａ			科目コード	181701	授業コード	123201
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GECE1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	ビジネスの場で英語を使える力を身につけるスタート段階は、世の中のいろいろなことに対して、自分の意見を持ち、それをことばで表現することです。そのための基礎的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を磨きます。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。また、将来、TOEIC、英検などの試験問題に挑戦することに備え、その出題形式を知ることを目的として、練習問題に挑戦します。グループワークやペアワークを毎回行います。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. 簡単な自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	第1講　ガイダンス Introduction、Unit 1/ Weather 第2講　Unit 2/ The Internet 第3講　Unit 3/ Animals 第4講　Unit 4/ Friends 第5講　Unit 5/ Helping Others 第6講　Unit 6/ Traveling 第7講　Unit 7/ Collections and Gifts 第8講　Unit 8/ Careers 第9講　Unit 9/ European Cultures 第10講　Unit 10/ Gifted Children 第11講　Unit 11/ Restaurants 第12講　Unit 12/ Transportation 第13講　Unit 13/ Homes 第14講　Unit 14/ Space 第15講　Unit 15/ Personality定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Reading Links 2』（南雲堂） テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。						
事前・事後学習	テキストは必ず予習し、わからない単語などは調べておいてください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではテキストの内容を逐一説明することはしないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ （毎回、小テストを行います） 定期試験　　５０％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。英語が下手でもいいのでコミュニケーションする気持ちを自分から示してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	ビジネス英語ｂ			科目コード	181702	授業コード	123602
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GECE1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	自分の意見を持ち、それをことばで表現することが、ビジネスの場に立つスタート段階です。「ビジネス英語a」での学習をもとにして、引き続き、自分の意見を英語を伝えるための基礎的な英語力（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を伸ばします。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。「ビジネス英語a」に引き続き、将来のTOEIC、英検などの受験を念頭に、出題形式を知るために問題を解いてみます。グループワークやペアワークを多く行います						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. ある程度まとまった自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	第1講　ガイダンス Introduction、Unit 1/ Nature 第2講　Unit 2/ Music 第3講　Unit 3/ Hobbies 第4講　Unit 4/ Culture 第5講　Unit 5/ Interesting Places 第6講　Unit 6/ Animals 第7講　Unit 7/ Art and Design 第8講　Unit 8/ Weather 第9講　Unit 9/ Traveling 第10講　Unit 10/ Entertainment 第11講　Unit 11/ Friends 第12講　Unit 12/ Africa 第13講　Unit 13/ Self-Improvement 第14講　Unit 14/ Sports 第15講　Unit 15/ Transportation 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Reading Links 3』（南雲堂）【「ビジネス英語a」と違うテキストですので、ご注意ください。】 テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。						
事前・事後学習	テキストは必ず予習し、わからない単語などは調べておいてください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではテキストの内容を逐一説明することはしないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ （毎回、小テストを行います） 定期試験　５０％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。英語が下手でもいいのでコミュニケーションする気持ちを自分から示してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	ビジネス英語 c			科目コード	181703	授業コード	123402
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GECE1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	ビジネスの場において使える英語を4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の観点から学びます。実際に遭遇することの多い様々なビジネスシーンを取り上げながら、英語の表現力の向上を目指します。ライティング練習では、ビジネスコミュニケーションの中心となるemailを取り上げ、フォーマルな表現からカジュアルな表現まで様々な表現方法を学びます。						
到達目標	1. 英語の読解力・聴解力を高める。 2. 基礎的な英語を用い、自分の意見を相手に伝える力を習得する。 3. コミュニケーション相手に合わせた英語表現の使い分けを理解する。						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要 Unit 1 Introducing Yourself 第2講　Unit 1 Introducing Yourself 第3講　Unit 2 Introducing Companies 第4講　Unit 2 Introducing Companies 第5講　Unit 3 Explaining Your Role 第6講　Unit 3 Explaining Your Role 第7講　Unit 4 Introducing Products 第8講　Unit 4 Introducing Products 第9講　Unit 5 Checking Information 第10講　Unit 5 Checking Information 第11講　Unit 6 Giving Your Opinion 第12講　Unit 6 Giving Your Opinion 第13講　Unit 7 Making Requests 第14講　Unit 7 Making Requests 第15講　Unit 8 Asking Permission 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	Garry Pearson・Graham Skerritt・吉塚弘著『Go Global ?English for Global Business? グローバル時代のビジネスコミュニケーション』成美堂（2019年）定価：2640円（税込）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）						
成績評価方法	学習態度　20% 課題・小テスト　30% 定期試験　50% ※5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。						

授業科目名	ビジネス英語ｄ			科目コード	181704	授業コード	123802
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GECE1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	ビジネスの場において使える英語を4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の観点から学びます。実際に遭遇することの多い様々なビジネスシーンを取り上げながら、英語の表現力の向上を目指します。ライティング練習では、ビジネスコミュニケーションの中心となるemailを取り上げ、フォーマルな表現からカジュアルな表現まで様々な表現方法を学びます。						
到達目標	1. 英語の読解力・聴解力を高める。 2. 基礎的な英語を用い、自分の意見を相手に伝える力を習得する。 3. コミュニケーション相手に合わせた英語表現の使い分けを理解する。						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要　Unit 8 Asking Permission 第2講　Unit 9 Making Invitations 第3講　Unit 9 Making Invitations 第4講　Unit 10 Making Appointments 第5講　Unit 10 Making Appointments 第6講　Unit 11 Canceling and Rescheduling 第7講　Unit 11 Canceling and Rescheduling 第8講　Unit 12 Describing Locations 第9講　Unit 12 Describing Locations 第10講　Unit 13 Looking after a Visitor 第11講　Unit 13 Looking after a Visitor 第12講　Unit 14 Making a Phone Call 第13講　Unit 14 Making a Phone Call 第14講　Unit 15 Taking Messages 第15講　Unit 15 Taking Messages 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	Garry Pearson・Graham Skerritt・吉塚弘著『Go Global /English for Global Business: グローバル時代のビジネスコミュニケーション』成美堂（2019年）定価：2640円（税込）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）						
成績評価方法	学習態度　20% 課題・小テスト　30% 定期試験　50% ※5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。						

授業科目名	ITリテラシー			科目コード	181801	授業コード	123403
担当教員	柳澤　翔士			科目ナンバリング	GECI1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	増井　敏克　著　「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社　￥2300＋税						
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。						

授業科目名	Webプログラミング１			科目コード	181802	授業コード	124604
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	GECI1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。						
到達目標	HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。						
授業計画	第１講 ガイダンス、WWWとWeb 第２講 HTML概要 第３講 画像とリンク 第４講 箇条書き 第５講 表組み 第６講 入力フォーム 第７講 CSS概要 第８講 見出しと段落 第９講 boxモデル 第10講 ヘッダー 第11講 表のスタイリング 第12講 問合せフォーム 第13講 Webサイト制作（１） 第14講 Webサイト制作（２） 第15講 Webサイト制作（３）						
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬　「世界一わかりやすい　HTML5 & CSS3コーディングとサイト制作の教科書［改訂２版］」　技術評論社　￥2，948（税込）						
事前・事後学習	講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分） 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと（120分）。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング２」で学習します。						
成績評価方法	＜評価＞提出物55%、作品45%						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業で作成したコードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。						
アクティブラーニング	課題、実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。 各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。 積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	Webプログラミング 2			科目コード	181803	授業コード	124301
担当教員	柳澤　翔士			科目ナンバリング	GECI1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	Webの仕組みとプログラミングを学びます。Webプログラミング1で学んだことをもとに、より実践的な内容を学ぶ事でWebデザイン技能検定3級レベルの技術・知識を学ぶ。						
到達目標	自分でHTMLを書くことができる技術・知識の習得と、Webに関わる総合的な知識を習得することでWebデザイン技能検定3級レベルの能力を得ること。						
授業計画	全て実習を含みます 1. ガイダンス・基礎知識 2. Webサイトの概要 3. HTML① 4. HTML② 5. HTML③ 6. CSS① 7. CSS② 8. CSS③ 9. サイトの設計と制作① 10. サイトの設計と制作② 11. サイトの設計と制作③ 12. サイトの設計と制作④ 13. 模擬試験① 14. 模擬試験② 15. 模擬試験③・まとめ 定期試験 ※学習状況により内容はその都度変更する場合があります※						
テキスト・教材（参考文献）	[テキスト] 特定非営利活動法人インターネットスキル認定普及協会 「改訂版 ウェブデザイン技能検定 3級 過去問題集 (よくわかるマスター)」富士通ラーニングメディア(FOM出版) ※テキストは変更の可能性があります。変更時は掲示をしますので掲示板をチェックしてください※ [参考図書] 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬　「世界一わかりやすい　HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書［改訂 2 版］」　技術評論社						
事前・事後学習	講義前にテキスト・配布資料を読んだり整理することで理解を深める事(60分) 講義後に授業の内容を再確認し、理解を深めること(120分)						
成績評価方法	レポート・授業課題等の受講態度(50%) 定期試験(50%)						
授業内の課題・提出方法	学内サーバーフォルダを使用する場合と、Moodleやメールを使う場合があります。 (その都度指定)						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	当日中、あるいは翌週に行う。						
アクティブラーニング	PC実習						
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験あり						
担当者から一言	Webプログラミング1で得た知識が重要になります。もう一度Webに関わる基礎から復習を行い、より実践的な知識・技術を身につけましょう。出席状況が悪い場合は減点を行います。課題提出がされない場合大きく減点するので課題は必ず出しましょう。						

授業科目名	文書表現ツール１			科目コード	181804	授業コード	123803
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	GECI1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	Word は、卒業後の実社会では必須の道具です。単に文書を作成するだけではない Word の様々な機能が使えるなることを目指します。						
到達目標	Word の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word の資格取得試験の準備が整うようにします。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 文書の作成 第３講 文書の管理 第４講 文字・段落の書式設定 第５講 セクションの書式設定 第６講 表やリストの作成と変更 第７講 引用文献 第８講 図表の管理 第９講 文書パーツ 第10講 SmartArt 第11講 画像の挿入 第12講 MOS word 模擬試験問題１ 第13講 MOS word 模擬試験問題２ 第14講 MOS word 模擬試験問題３ 第15講 MOS word 模擬試験問題４						
テキスト・教材（参考文献）	佐藤 薫「MOS攻略問題集Word 365&2019」日経BP社 ￥2200						
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）						
成績評価方法	毎回の課題（６０％）、模擬試験演習（４０％）で評価します。定期テストは実施しません。						
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。						
アクティブラーニング	実習課題を毎回提出します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。						

授業科目名	文書表現ツール２			科目コード	181805	授業コード	124501
担当教員	柳澤　翔士			科目ナンバリング	GECI1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	Wordと使いこなす技術は、現代においては重要なスキルです。Word2019を使いこなす技術と知識の習得を目指す。						
到達目標	MOS word 365&2019エキスパート合格レベルの知識技術を習得する事を目指す						
授業計画	1.ガイダンス・基礎知識 2.文書のオプションと設定の管理1 3.文書のオプションと設定の管理2 4.文書のオプションと設定の管理3 5.編集機能・書式設定機能1 6.編集機能・書式設定機能2 7.編集機能・書式設定機能3 8.ドキュメント要素の作成1 9.ドキュメント要素の作成2 10.ドキュメント要素の作成3 11.高度なWord機能の利用1 12.高度なWord機能の利用2 13.MOS word 365&2019模擬試験問題1 14.MOS word 365&2019模擬試験問題2 15.MOS word 365&2019模擬試験問題3 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	佐藤　薫　著　「MOS攻略問題集Word 365&2019エキスパート」 日経BP　￥3300						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
アクティブラーニング	Word実習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	Wordを使った文書作成において必要となる知識・技術について共に学び、MOS word365&2019エキスパート合格レベルを目指しましょう。						

授業科目名	データ操作ツール１			科目コード	181806	授業コード	122402
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	GECI1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	Microsoft Excelは実社会では、表やグラフ作成だけでなく、簡単な文書作成にも使われていて、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Excelの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習を行います。						
到達目標	MOS Excel の資格試験の準備が整うようにします。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　ワークシートやブックの作成と管理（１） 第３講　ワークシートやブックの作成と管理（２） 第４講　ワークシートやブックの作成と管理（３） 第５講　セルやセル範囲の作成（１） 第６講　セルやセル範囲の作成（２） 第７講　テーブルの作成 第８講　数式や関数の適用（１） 第９講　数式や関数の適用（２） 第10講　グラフやオブジェクトの作成 第11講　模擬試験演習（１） 第12講　模擬試験演習（２） 第13講　模擬試験演習（３） 第14講　模擬試験演習（４） 第15講　模擬試験演習（５）						
テキスト・教材（参考文献）	土岐順子「MOS攻略問題集Excel 365」　日経BP社 ￥2，200						
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）						
成績評価方法	毎回の課題（６０％）、模擬試験演習（４０％）で評価します。定期テストは実施しません。						
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。						
アクティブラーニング	毎回の実習課題提出						
実務経験のある教員							
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。						

授業科目名	公務のための判断推理			科目コード	181901	授業コード	123404
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GECP1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。						
到達目標	1 判断推理の解法を一通り身に付ける。 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第１講 ガイダンス、順序関係 第２講 順序関係 第３講 位置関係 第４講 対応関係 第５講 試合 第６講 数量関係 第７講 命題と論理 第８講 真偽 第９講 暗号と規則性 第10講 操作・手順 第11講 パズル問題 第12講 移動と軌跡 第13講 立体図形 第14講 展開図 第15講 サイコロと位相 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』 エクシア出版（2021年）1，650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業で行います。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座の担当経験あり。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための数的推理			科目コード	181902	授業コード	123804
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GECP1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員１次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、ほとんどが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理のほとんどのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。						
到達目標	１ 数的推理の出題パターンとその解法を知る。 ２ 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第１講 ガイダンス、整数の性質 第２講 剰余系の問題、 n 進法 第３講 比と割合 第４講 方程式と不等式① 第５講 方程式と不等式② 第６講 濃度 第７講 仕事算、ニュートン算 第８講 年齢算、平均算など 第９講 集合 第10講 速さ① 第11講 速さ② 第12講 速さ③ 第13講 場合の数 第14講 確率 第15講 数列 定期試験 順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版（2021年）1，650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業、またはMoodleで行います。 その他、質問があれば、対面、メール、Moodleなどで受け付けます。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座担当の経験あり。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための政治学			科目コード	181903	授業コード	122601
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	GECP1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょう。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。 この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第１講　ガイダンス：この授業の進め方 第２講　三権分立と法の支配 第３講　議院内閣制 第４講　国会 第５講　内閣 第６講　官僚制と行政 第７講　裁判所 第８講　地方自治 第９講　直接請求権 第10講　選挙 第11講　政党政治 第12講　政治理論 第13講　各国の政治制度 第14講　国際政治 第15講　時事問題 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ　社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1，500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の３科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する小テストの提出状況：30% ・定期試験（持込不可）：70%						
授業内の課題・提出方法	原則として毎回、小テストを実施し、授業中に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。						
アクティブラーニング	原則として毎回、小テスト（問題演習）を行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	公務のための経済学			科目コード	181904	授業コード	122403
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GECP1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この講義では、公務員や金融機関、大学院などを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。						
到達目標	経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。						
授業計画	教学課の課題提出ポスト横のテーブルに、全ての回のレジュメを置きますので、1回目の授業の前に入手してください。講義はオンデマンド型授業になります。OD授業を一時停止や複数再生しながら内容を理解し、レジュメにノートテイクしてください。なお、課題はテキストの指定した範囲の説明部分を自分なりにノートにまとめ、問題は解くだけでなく解答をみて重要なポイントをノートにまとめてください。課題は、それぞれB5ノートで5ページ以上になるよう、しっかりとまとめてください。 １．ガイダンス（基礎数学復習と一次関数の演習問題） ２．無差別曲線と消費者の行動① ３．無差別曲線と消費者の行動②＜課題①＞ ４．企業の行動① ５．企業の行動②＜課題②＞ ６．需要の価格弾力性① ７．需要の価格弾力性②＜課題③＞ ８．市場メカニズムと安定性＜課題④＞ ９．比較優位の理論① 10．比較優位の理論②＜課題⑤＞ 11．財政政策・金融政策① 12．財政政策・金融政策②＜課題⑥＞ 13．公共財の供給 14．外部効果(外部経済・不経済)＜課題⑦＞ 15．その他の経済学の問題演習						
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ　社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1，500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の３科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備をしておくこと。7回の課題には、各3～5時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学概論」単位取得後の受講が好ましい。						
成績評価方法	授業を理解した上で課題(7回を予定)を提出すること。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	独学で勉強するテキストの個所を精読し、ノートにまとめを書き、練習問題を解くだけでなく解説の重要個所もまとめ、写真にしてMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。						
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。オンデマンド型授業であるが、毎週のOD講義を決まった曜日・時間帯に視聴し、すぐにノートを提出、課題にも計画的に取り組むこと。						

授業科目名	公務のための法学			科目コード	181905	授業コード	123202
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GECP1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさんの問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思います。						
到達目標	法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈 第３講　大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き 第４講　人権の発達、基本的人権の原理 第５講　日本国憲法における基本的人権の種類 第６講　人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権 第７講　参政権と請求権、新しい人権と国民の義務 第８講　要約（これまでの確認） 第９講　民法、刑法、その他の法律 第10講　主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質 第11講　労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題 第12講　社会保障、高齢社会、少子社会 第13講　地球環境問題 第14講　資源・エネルギー問題 第15講　要約（これまでの確認） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ　社会科学〔改訂第3版〕』実務教育出版（2022年）1，650円（税込）必要に応じて、プリントでも補足します。 ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の３科目共通です。						
事前・事後学習	その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。（毎回の予習９０分と復習９０分）						
成績評価方法	小テスト　30%：授業中に行う小テストは採点をして２週間以内に返却します。受講態度等も含みます。 定期試験　70%：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	学生さん自身が理解度を確認できるように、テキストの問題だけでなく別の本などの問題も解いてもらうようにしています。また、タイミングを見計らいながら、テキストの復習もしています。						
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	公務のための人文科学			科目コード	181906	授業コード	122802
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GECP1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	幅広い人文科学の知識を問題演習を通じて学ぶ。公務員試験を目指す者のみならず、様々な業種の就職試験における一般教養も学べる授業となる。						
到達目標	教養としての人文科学を十分に理解し、確実に身につける。						
授業計画	第1回　　ガイダンス 第2回　　日本史（1） 第3回　　日本史（2） 第4回　　日本史（3）＋世界史（1） 第5回　　世界史（2） 第6回　　世界史（3） 第7回　　世界史（4） 第8回　　地理（1） 第9回　　地理（2） 第10回　地理（3）+国語（1） 第11回　国語（2） 第12回　思想（1） 第13回　文学・芸術（1） 第14回　文学・芸術（2） 第15回　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	『大卒程度　警察官・消防官　新スーパー過去問ゼミ　人文学　改訂第3版』実務教育出版、2022年、1500円＋税 その他、電子もしくは紙でプリントを配布する場合もある。						
事前・事後学習	事前に次回の授業に向け、当該範囲を予習しておく。（60分） 事後には、授業の内容・範囲について理解を深める。（60分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末試験＝70% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	社会調査入門			科目コード	182001	授業コード	123203
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	GECR1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	社会について調べてデータを集めることを社会調査といいます。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えます。 調査の実例を紹介しながら、色々な社会調査の方法と、その長所や限界について学びます。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することが狙いです。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査の目的と意義 3 社会調査の歴史① 4 社会調査の歴史② 5 質的調査と量的調査 6 社会調査の種類と方法 7 サンプリングの発展 8 公的統計の意義と活用（中間まとめ） 9 量的な社会調査の例① 10 量的な社会調査の例② 11 質的な社会調査の例① 12 質的な社会調査の例② 13 実験的方法の例 14 社会調査をめぐる環境 15 社会調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社.						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのA科目です。						

授業科目名	社会調査の技法			科目コード	182002	授業コード	123603
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	GECR1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。						
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施（中間まとめ） 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社.						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのB科目です。						

授業科目名	統計学入門			科目コード	182003	授業コード	121804
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GECR1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。						
到達目標	相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身に着けて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。						
授業計画	第１講　ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認 第2講　度数分布表の作成：いろいろな値段のある回転寿司屋さん 第３講　いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差) 第４講　既存統計資料の読み方と使い方 第５講　量的データと伴って変わる量 第６講　比例と1次関数 第７講　1次関数のグラフの拡張：散布図 第８講　Excelを使っての散布図の作成 第９講　1次関数と相関係数 第10講　Excelを使っての相関係数の求め方 第11講　相関係数の性質 第12講　データの性質の拡張：質的データ 第13講　データの入力と照合(統計的資料を使って) 第14講　クロス集計(質的データにおける関連性)の説明 第15講　相関関係・関連性と因果関係の違い：擬似相関と実験計画 定期試験　持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
アクティブラーニング	第2講から第14講までパソコン(スマホなど)を用いた実習となります。						
実務経験のある教員	多変量解析の因子分析の論文を国際英文学術誌(査読あり)に発表して、イタリア人が追試しました。京都大学霊長類研究所の研究員の時、大学院生向けの統計の講義を担当しました。						
担当者から一言	パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホなど)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。ただし、数学の知識が必要となります。中学校までの数学が苦手な人にはお勧めしません。						

授業科目名	社会統計学			科目コード	182004	授業コード	122306
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GECR1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するD科目に相当します。						
到達目標	量的データにおける相関係数の利用・質的データにおけるクロス集計の利用をパソコン実習で身に付けます。さらに、正規分布しているデータの平均値の検定などを使い、集団を分けるもの(要因)を見つける力を養います。						
授業計画	第１講　ガイダンス：平均値・中央値と度数分布の確認 第２講　サンプリング：標本と母集団の関係とヒストグラムの作成 第３講　正規分布：確率論の基礎、ゆらぎ(分散)の概念の獲得 第４講　正規分布かの検定(Kolmogorov−Smirnov検定) 第５講　平均値の差の検定：二つの正規分布か、同じ分布か：実習 第６講　分散分析(3要因への検定の拡張)と効果量 第７講　分散分析の実習 第８講　一次関数と相関係数：Excelを使っての求め方 第９講　相関係数の性質と回帰分析 第10講　データの性質の拡張・測定の尺度としての順位変数など 第11講　ノンパラメトリック検定(正規分布でない場合) 第12講　クロス集計(質的データにおける関連性)の説明と実践・ 第13講　クロス集計の実践：質的アンケートと円グラフ 第14講　クロス集計の検定(正確確率検定など) 第15講　クロス集計の検定：実習 定期試験　持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
アクティブラーニング	第2講から第15講までパソコン(スマホなど)を用いた実習となります。						
実務経験のある教員	多変量解析の因子分析の論文を国際英文学術誌(査読あり)に発表して、イタリア人が追試しました。京都大学霊長類研究所の研究員の時、大学院生向けの統計の講義を担当しました。						
担当者から一言	中学校の二次方程式、および、高校1年生の統計の知識を駆使します。数学に向かない方にはお勧めしません。						

授業科目名	フィールドワーク論			科目コード	182005	授業コード	123405
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GECR1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力･可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	本授業は、フィールドワークにおける調査手法の選択と設計、分析結果の示し方に関する技法の習得を目的とする。講義ではデータ分析、聞き取り調査、参与観察に注目し、フィールドワークに関する報告書の内容や実際に行われた事例などを紹介することで、フィールドワークの概念を理解してもらう。また、調査目的に応じた質問項目の設計について、ディスカッションを通して学生間で考えてもらう。						
到達目標	調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。						
授業計画	１.ガイダンス ２.フィールドワークとは ３.フィールドワークによる調査事例 ４.目的に応じたフィールドワーク手法と対象地区 ５.地区内の現状把握手法（データ分析） ６.地区内の課題把握手法（データ分析） ７.地区内の現状把握手法（聞き取り調査） ８.地区内の課題把握手法（聞き取り調査） ９.地区内の現状把握手法（参与観察） 10.地区内の課題把握手法（参与観察） 11.地区内の現状・課題に関する分析結果の示し方 12.調査結果の考察手法 13.調査結果を踏まえた提言手法 14.最終レポートのガイダンス 15.まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	各章のレポート作成（180分）。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①講義への参加度（発言等）：30% ②各回のレポート：30% ③最終レポート：40% なお、毎回提出してもらう課題については、次週回においてコメントする。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時に、適宜コメントする。						
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、フィールドワーク調査を行います。						
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 フィールドワーク調査やインタビューに関する書籍なども活用しながら、自分らしい読み解き方を考えていきましょう。						

授業科目名	データ解析の技法			科目コード	182006	授業コード	125801
担当教員	古山　歩			科目ナンバリング	GECR1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	現代社会には様々なデータが溢れている。様々なデータを統計的に解析することは非常に重要であり、適切なデータ解析を行えば、物事の傾向や変化に関して一定の根拠に基づいた統計的指標による科学的な判断を下すことが可能になる。本授業ではデータ解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。						
到達目標	（１）データ解析に必要な基礎力を身につける。 （２）回帰分析をはじめとした主要な解析法について理解する。 （３）回帰分析をはじめとした主要な解析法を実行し，結果を適切に評価できるようになる。						
授業計画	１．ガイダンス・社会におけるデータ解析の意義 ２．エクセル基本操作 ３．データの表し方：代表値の種類と特性 ４．データの表し方：分散と標準偏差 ５．データの表し方：グラフ・ヒストグラム、箱ひげ図、散布図 ６．データの表し方：グラフ・折れ線グラフ、円グラフ、その他グラフ ７．事象の発生確率・確率分布 ８．母集団と標本集団，データのサンプリング ９．基本統計量の算出とグラフの作成 １０．統計的仮設検定の考え方 １１．統計的仮設検定の実行 １２．回帰分析1　回帰分析の考え方・単回帰の実行 １３．回帰分析2　回帰分析の精度評価 １４．重回帰分析 １５．まとめ・実技演習 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。						
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし，適宜資料を配布する 参考書：倉田博史著「大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる」KADOKAWA（2017年） 栗原伸一・丸山敦史著「統計学図鑑」オーム社（2018年）						
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）						
成績評価方法	授業中の課題（50%）、テスト課題（50%） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5 回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。						
授業内の課題・提出方法	授業中に実習で用いたエクセルファイルをMoodleにて提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	データ解析は、社会のあらゆるところで行われています。本講義では様々なデータ解析手法についてパソコンのExcelを用いた実践を通して、解析スキルの習得を目指します。						

授業科目名	スポーツ指導論			科目コード	182101	授業コード	121207
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	GECS1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者としての心構え、スポーツ指導者に必要な医学的知識、対象者に合わせたスポーツ指導法等を学ぶ。						
到達目標	スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　スポーツ指導者とは 第3講　指導者の心構え・視点 第4講　競技者育成プログラムの理念 第5講　スポーツと健康 第6講　スポーツ活動中に多いケガや病気 第7講　救急処置 第8講　指導計画の立て方 第9講　スポーツ活動と安全管理 第10講　中高年者とスポーツ 第11講　女性とスポーツ 第12講　障害者とスポーツ 第13講　プレイヤーと指導者の望ましい関係 第14講　ミーティングの方法 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ指導に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０％）及び定期試験（４０％）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合がある。						

授業科目名	スポーツトレーニング論			科目コード	182102	授業コード	121102
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	GECS1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。体力トレーニングに関連する知識や発育発達期の特徴について学ぶ。						
到達目標	トレーニングについての基礎的知識とジュニアに対する指導法を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　体力とは 第3講　体力とは 第4講　トレーニングの進め方 第5講　トレーニングの進め方 第6講　トレーニングの種類 第7講　トレーニングの種類 第8講　発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第9講　発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第10講　発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第11講　発育発達期に多いケガや病気 第12講　発育発達期に多いケガや病気 第13講　発育発達期のプログラム 第14講　発育発達期のプログラム 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、トレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０％）及び定期試験（４０％）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合がある。						

授業科目名	アスリート育成論			科目コード	182103	授業コード	121805
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	GECS1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。競技スポーツ指導者としての心構えや競技スポーツ指導者に必要な諸知識について学ぶ。						
到達目標	アスリート育成のための高度な知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　競技者育成プログラムの理念に基づく展開 第3講　競技者育成と評価競技 第4講　競技者育成システムにおける指導計画 第5講　競技力向上のためにチームマネジメント 第6講　スポーツとIT 第7講　アスリートの健康管理 第8講　アスリートの内科的障害と対策 第9講　アスリートの外傷・傷害と対策 第10講　アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 第11講　コンディショニングの手法 第12講　スポーツによる精神障害と対策 第13講　特殊環境下での対応 第14講　アンチドーピング 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、アスリート育成に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０％）及び定期試験（４０％）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、受講の意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業になることがある。						

授業科目名	スポーツ心理学			科目コード	182104	授業コード	123604
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	GECS1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。授業では、意欲･学習･発達･性格特性･集団･環境など多岐にわたる要因を広く取り上げ、スポーツと心理の関係についての理解を深める。						
到達目標	スポーツ場面における心理的諸問題について考察を加え、スポーツ活動及びコーチング行動にいかせる基礎的かつ実践的な知識を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス・スポーツ心理学とは 第2講　スポーツと心 第3講　スポーツにおける動機づけ 第4講　技能の練習と指導 第5講　プレイヤーの個人指導と心理的問題 第6講　チームの指導と心理的問題 第7講　コーチングの評価 第8講　メンタルマネジメントとは 第9講　リラクセーション 第10講　イメージトレーニング・集中力トレーニング 第11講　心理的コンディショニング 第12講　プレッシャー・あがり・スランプの克服 第13講　指導者のメンタルマネジメント 第14講　スポーツ環境における精神障害と対策 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」、Robert S. Weinberg， Daniel Gould「Foundations of sport and exercise psychology」Human Kinetics、若山裕晃･渡辺英児「野球メンタル強化メソッド」実業之日本社 授業では、講義内容に沿った資料を配付する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ心理学やメンタルトレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０％）及び定期試験（４０％）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業になることがある。						

授業科目名	スポーツ生理学			科目コード	182105	授業コード	121208
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	GECS1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。ヒトが身体運動やスポーツを実施することによって、身体の諸機能がどのような応答、適応を示すのか、またそれらが環境条件の違いによってどのような影響を受けるのかを学習する。						
到達目標	スポーツや身体運動による身体の適応について理解し、実際のスポーツ実践やスポーツ指導の中で利用できることを目標とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 生体の維持 第3講 筋の生理学（筋収縮のメカニズム） 第4講 筋刺激による筋の適応と加齢が筋に与える影響 第5講 呼吸器系の機能と構造・トレーニングによる呼吸器系の適応 第6講 循環器系の機能と構造 第7講 循環器系の運動時の反応とトレーニングによる適応 第8講 内分泌系（ホルモン） 第9講 中間テスト 第10講 神経系とその適応 第11講 身体運動と神経系 第12講 特殊環境下（高温・寒冷・水中・高所）での運動について 第13講 運動と免疫 第14講 老化による諸機能の変化とその特徴 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献:財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」、Scott K. Powers， Edward T. Howeley 「Exercise Physiology」Human Kinetics 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:50% 中間試験・定期試験:50%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告する 中間テストの得点についても個別に報告する						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。						

授業科目名	スポーツ応用科学			科目コード	182106	授業コード	123204
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	GECS1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ科学に関する新しいエビデンスよりトレーニング指導に関する知識を習得する。						
到達目標	最新のトレーニング科学研究の成果に基づくトレーニング理論を理解し、スポーツ指導の現場に活かせることを目的とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 身体運動学 ー運動のメカニズムー 第3講 複合運動の必要性 第4講 トレーニング指導 -健康づくりを目指した運動指導について 第5講 トレーニングの基礎知識と筋力トレーニング 第6講 スピードトレーニング・持久力トレーニング 第7講 神経系トレーニング・スキルの獲得過程について 第8講 中間テスト 第9講 トレーニング計画1「トレーニングの目標設定」 第10講 トレーニング計画2「トレーニングプログラムの設計」 第11講 トレーニング計画3「疲労および回復」・「トレーニング環境の整備」 第12講 健康に関連する体力 第13講 測定評価「テストの選択と実施の原則」 第14講 測定評価「身体組成の評価」 第15講 測定評価「筋力・筋パワー」「無酸素性能力・有酸素性能力」「測定結果の活用」 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容に沿ったプリントを配布						
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)。						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:50% 中間試験・定期試験:50%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告 中間テストについても、その得点を個別に報告						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。						

授業科目名	スポーツメディカル論			科目コード	182107	授業コード	121501
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	GECS1007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。身体運動学や運動生理学などのスポーツ医学に関する基礎知識を学習し、スポーツで起こる外傷や障害などの予防や治療、応急手当についての方法を理解する。						
到達目標	身体運動の重要性を医学的な面から理解し、スポーツの指導現場で実践できる能力を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 スポーツ医学の基礎知識1「スポーツが心臓血管系に及ぼす影響」 第3講 スポーツ医学の基礎知識2「呼吸器系の機能と構造・スポーツと呼吸器系」 第4講 スポーツ医学の基礎知識3「体液と体温調節」 第5講 スポーツ医学の基礎知識4「スポーツと内分泌系」 第6講 スポーツ医学の基礎知識5「身体運動学・機能解剖」 第7講 加齢とスポーツ医学 第8講 中間テスト 第9講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(急性) 第10講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(慢性) 第11講 スポーツ外傷とスポーツ障害 第12講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(上肢) 第13講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(下肢) 第14講 救急処置(救急蘇生法) 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 目崎登「スポーツ医学入門」分光堂						
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)。						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:50% 中間試験・定期試験:50%						
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します 中間テストについても、得点を個別に報告します						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。						

授業科目名	スポーツ栄養学			科目コード	182108	授業コード	123605
担当教員	櫻井　智美			科目ナンバリング	GECS1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者に必要なスポーツ栄養学の基礎的知識を習得し、アスリートのパフォーマンス向上等をサポートできる栄養管理の理解を深める。						
到達目標	スポーツ栄養学の基礎知識を習得し、そのことについて説明できるようになる。						
授業計画	第１　講 ガイダンス　　授業の概要 第２　講 アスリートにおける基本の食事 第３　講 エネルギー産生栄養素（糖質・脂質・たんぱく質） 第４　講 ビタミン・ミネラル 第５　講 熱中症の予防と水分補給 第６　講 アスリートの身体組成 第７　講 トレーニングとエネルギー消費量 第８　講 目的別の食事 第９　講 試合前後の食事 第１０講 トレーニング時の食事 第１１講 アスリートに多く見られる栄養障害・女性アスリートの三主徴 第１２講 サプリメントとエルゴジェニックエイド 第１３講 ジュニア・シニア・障がい者アスリートの栄養管理 第１４講 アスリートの栄養教育のすすめ方 第１５講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	＜講義に使用する教材＞ スポーツ栄養学　　鈴木志保子著 <参考文献> 公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ、Ⅲ（公益社団法人　日本スポーツ協会） 新版コンディショニングのスポーツ栄養学　樋口満編著（市村出版）						
事前・事後学習	予習として、次の講義に際する内容を調べる。予習のための課題を課す場合がある（９０分） 復習として講義内容の資料等の見直し（９０分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示する簡単なレポート課題の提出状況および受講態度：50% 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了後、回収する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は、回収後次項の授業で返却。提出物等に記載されたコメントに対しては、以降の講義で応答する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	遅刻や授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用などは、原則禁止します。 これらの事が守れない者には、退室を命じ、欠席扱いと致します。						

授業科目名	全学共通特別講義 a			科目コード	182201	授業コード	126503
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GESC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	10月上旬　「ガイダンス」 13：00－14：00　現状把握と課題解決の考え方 14：10－15：10　ご当地グルメを活用した町おこし 15：20－17：00　グループワーク 10月中旬　「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00－15：30　展示見学・講義 15：40－17：00　グループワーク 10月下旬　「食を活かした観光開発」 10：00－12：00　施設見学・体験 12：00－13：00　昼食・移動 13：00－14：00　農を活かした観光開発 14：10－16：10　グループワーク 11月下旬　「食と観光を踏査する」 10：00－16：10　フィールドワーク 12月上旬　「食と観光を考える」 13：00－17：00　グループワーク 12月中旬　「食と観光を発表する」 13：00－16：00　成果発表会 16：00－17：00　講評・まとめ ※ 受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢　60% ②成果発表レポート　40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、グループワーク、ディベート、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・ プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	ボランティア活動ａ			科目コード	182206	授業コード	126102
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	GESC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、ｂを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に着け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	１　対象となる活動 ①　ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ②　別に大学の審査により認められたボランティア活動 ２　単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） ３　活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 ４　事前申請 参加予定の１か月前、既に参加した場合は終了後１か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。 ５　単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の１月末日まで） ①　ボランティア活動ａ単位認定申請書 ②　ボランティア活動団体発行の証明書 ③　活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	ボランティア活動ｂ			科目コード	182207	授業コード	126103
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	GESC1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、ｂを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に着け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	１　対象となる活動 ①　ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ②　別に大学の審査により認められたボランティア活動 ２　単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） ３　活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 ４　事前申請 参加予定の１か月前、既に参加した場合は終了後１か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。 ５　単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の１月末日まで） ①　ボランティア活動ａ単位認定申請書 ②　ボランティア活動団体発行の証明書 ③　活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	国際協力研修			科目コード	182208	授業コード	126501
担当教員	岩崎　祐子			科目ナンバリング	GESC1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。 海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。						
到達目標	１　国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 ２　国際感覚を身に付けます。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　事前研修 第３講　事前研修 第４講　海外現地研修 第５講　海外現地研修 第６講　海外現地研修 第７講　海外現地研修 第８講　海外現地研修 第９講　海外現地研修 第10講　海外現地研修 第11講　海外現地研修 第12講　海外現地研修 第13講　海外現地研修 第14講　海外現地研修 第15講　海外研修の振り返り ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。						
テキスト・教材（参考文献）	（大学の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。 （大学外の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページで、研修先の国の情報を調べてください。						
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）						
成績評価方法	四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50%）活動日誌・レポート（50%） 大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50%）レポート（50%） ※評価（単位）は、次年度前学期につきます。						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
アクティブラーニング	海外で、国際協力活動、フィールドワークに参加します。						
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国際経済を研究対象としています。						
担当者から一言	2025年2月にタイで１週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。 ※研修には研修参加費が必要です。 ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。						

授業科目名	海外環境研修			科目コード	182209	授業コード	126502
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GESC1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	「環境」に関する講義内容で、日本国内外の教育機関において実施される授業です。環境への幅広い知見を学ぶと共に、海外の実習では異文化体験を通して国際レベルで環境問題を考える力を身に付けることを目的としています。						
到達目標	研修活動を通して、環境への幅広い知識を得ること。						
授業計画	教育機関において実施される授業の受講について 時間数：15コマ（30時間）以上の講義等の受講 研修期間：長期休業期間中 事前申請：受講１ヶ月前までに受講内容等を教学課へ提出のうえ確認をうけること 提出書類：以下の①～③を明記すること ①受講する教育機関名および所在地 ②受講内容（詳細資料添付） ③受講期間						
テキスト・教材（参考文献）	履修要綱の「履修制限対象外科目」の頁参照						
事前・事後学習	事前学習：研修実施国、研修実施機関に関する情報を収集し、内容を理解する。 事後学習：研修で学んだ内容を理解し、レポートを作成する。						
成績評価方法	受講修了書等・レポートにより評価する。						
授業内の課題・提出方法	海外環境研修終了後にレポートを提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研修活動の振り返りの機会を設定						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言							

授業科目名	政策科学入門Ⅰ			科目コード	481001	授業コード	123301
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	PFC2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけるための基礎的な知識や技術を修得する。
授業のねらい	この講義では総合政策学部の専門教育科目を履修する準備をします。教員が分担して、政治、経済、国際社会、現代社会の諸問題について講義します。すでに高校までに学修した内容も含まれますが、大学生になった今、あらためて各テーマについてよく理解するようにして下さい。この講義で説明される用語は基本中の基本なのでしっかりと覚えるようにしましょう。
到達目標	学部の専門教育科目を学んでいくための基本的な用語や考え方を理解できるようになること。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　現代の政治　① 第３回　現代の政治　② 第４回　現代の政治　③ 第５回　現代の政治　④ 第６回　現代の経済　① 第７回　現代の経済　② 第８回　おさらいの回 第９回　現代の経済　③ 第１０回　現代の経済　④ 第１１回　現代の国際社会　① 第１２回　現代の国際社会　② 第１３回　現代社会の諸課題　① 第１４回　現代社会の諸課題　② 第１５回　専攻ガイダンス ＊授業の順番は入れ替わることがあります。
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特にありません。教員から資料が配布されます。参考文献として次のものを挙げておきます。 井堀利宏『教養としての政治経済学』（総合法令出版） 中島岳志『自分ごとの政治学』（NHK出版） 山崎広明他『詳説　政治・経済』（山川出版社）
事前・事後学習	普段から新聞やインターネットなどのメディアで、政治・経済・国際問題などの記事を読んでおくこと。（１日20分） 毎回の授業で課された課題レポートに取り組むこと。（90分）
成績評価方法	講義への参加意欲、講義で課す課題レポートなど（75%）、定期試験（25%）で総合評価します。
授業内の課題・提出方法	講義の内容に関連した課題レポートを課すので、それに取り組むこと。 レポートの提出は、講義のあったその週の金曜日の16：00までで、提出方法はmoodleを予定しています。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	それぞれの回の担当教員からレポートの内容に関して総合的なコメントをフィードバックします。
アクティブラーニング	課題・宿題、小レポート、ミニッツ・ペーパー
実務経験のある教員	担当教員の中に中小企業診断士として活動してきた教員がいます。
担当者から一言	４年間の学部専門科目の学修の基本となる大切な必修科目です。欠席や遅刻したりせずに毎回必ず出席し、しっかりと15週学んでください。

授業科目名	政策科学入門Ⅱ			科目コード	481002	授業コード	122501
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PFC2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	いくつかの政策領域を事例として用いつつ、地域における政策問題解決のプロセスに関する知識を身に着けることを目的とします。 政策問題の解決は登場するアクターも、関連制度・法律なども多岐にわたり、一律の解決方法があるわけではありません。 本講義では、防災・消防・町並み保存などに関する実際のケースを取り上げつつ、各ケースの中でどのような問題が生じたのか、どのように解決されたのかを扱います。 この講義を通して、身近な問題への関心と感度が高まり、問題解決への糸口を見つけ出すための考え方を身に着けることを期待します。						
到達目標	・政策学に関する基本的な事項・考え方を理解できる ・地域問題の多様性と考慮事項について理解できる						
授業計画	01.　ガイダンス/政策とは何か 02.　政策プロセスとアクター 03.　地域における政策 04.　防災政策（事例1） 05.　消防政策（事例2） 06.　医療行政（事例3） 07.　外国人集住都市（事例4） 08.　町並み保存（事例5） 09.　清掃事業（事例6） 10.　空き家政策（事例7） 11.　高齢者政策（事例8） 12.　エネルギー政策（事例9） 13.　環境政策（事例10） 14.　障害者政策（事例11） 15.　子育て政策（事例12） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・佐野 亘 (監修)、山谷清志 (監修)、焦従勉(編集)、藤井誠一郎(編集)（2020）『政策と地域』ミネルヴァ書房 ・石橋章市朗、佐野亘、土山希美枝、南島和久（2018）『公共政策学』ミネルヴァ書房						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・レポート（Moodle提出）：55%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う						
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり						
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。また、2/3以上の出席が認められない学生については原則として単位を認めません。						

授業科目名	入門演習a			科目コード	481003	授業コード	124106
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	PFC2003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけ論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	学生生活を進めるうえで必要な、次のようなスチューデントスキル（四日市大学の学生として最低限身につけておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。 1. 授業を受けるうえで必要なスキル 2. 人間関係を作るうえで必要なスキル 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知り、活用するスキル 4. 総合政策学部を知り、学修を進めていくスキル						
到達目標	大学生として必要なスチューデントスキルを知り、活用することができるようになること。						
授業計画	第１回　履修登録のチェック 第２回　ガイダンス（入門演習とは） 第３回　総合政策学部とは 第４回　大学の講義の受け方 第５回　ＣＳＣガイダンス 第６回　コンピュータ・センターと情報センターのガイダンス 第７回　ノートの取り方（基本的なこと・ノートの取り方・ノートを取る際の注意） 第８回　ノートの取り方　②（模擬授業とノートチェック） 第９回　読解の基礎　①（課題文の読解） 第１０回　読解の基礎　②（課題の解答の確認） 第１１回　新聞記事の読み方　①（新聞記事とは・新聞の組み立て・新聞記事の読み方） 第１２回　新聞記事の読み方　②（課題の報告） 第１３回　人前で話す　①（話す力とは・３つの力・話す力を伸ばす） 第１４回　人前で話す　②（自己紹介の準備） 第１５回　研究倫理教育 ＊授業の順番は入れ替わることがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	四日市大学総合政策学部編『クレッシェンド　総合政策』2024年度版						
事前・事後学習	毎回の授業に関係するテキストをよく読み、その章の「予習」に取り組むこと。（90分） 毎回の授業に関係するテキストの章の「復習」に取り組むこと。（90分）						
成績評価方法	定期試験は行わない。授業・課題への取り組みなどを100%として評価する。						
授業内の課題・提出方法	テキストの関係個所（章）に課題があるので、それに取り組むこと。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教員がチェックした課題を、翌週以降にコメントとともに返却する。						
アクティブラーニング	課題・宿題、体験学習、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	大学で学んでいくための基本的で必須な知識やスキルを学ぶ授業です。なかでも「読む」力を重視します。また、先生と知り合い、友だちをつくる機会でもあります。積極的に参加してください。						

授業科目名	入門演習b			科目コード	481004	授業コード	124507
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	PFC2004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけるための基礎的な知識や技術を修得する。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につける。						
授業のねらい	大学生として、また総合政策学部の学生として学ぶために必要なスタディスキルを学ぶ。						
到達目標	大学生として必要なスタディスキルを知り、活用することができるようになること。						
授業計画	第１回　ガイダンス／履修登録のチェック 第２回　読解の実践 第３回　資料の探し方・選び方 第４回　引用の基礎 第５回　レジメの作り方　① 第６回　基礎演習ガイダンス 第７回　レジメの作り方　② 第８回　文章・レポートの書き方　① 第９回　文章・レポートの書き方　② 第１０回　プレゼンテーション・レジメ作成 第１１回　プレゼンテーション準備・予行 第１２回　プレゼンテーション　① 第１３回　プレゼンテーション　② 第１４回　ボランティア・ガイダンス 第１５回　１年次の振り返りと２年次に向けて ＊授業の順番は入れ替わることがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	四日市大学総合政策学部編『クレッシェンド　総合政策』2024年度						
事前・事後学習	毎回の授業に関係するテキストの章をよく読み、その「予習」に取り組むこと。（90分） 毎回の授業に関係するテキストの章の「復習」に取り組むこと。（90分）						
成績評価方法	定期試験は行わない。授業・課題への取り組みなどを100%として評価する。						
授業内の課題・提出方法	テキストの関係個所（章）に課題があるので、それに取り組むこと。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教員がチェックした課題を、翌週以降にコメントとともに返却する。						
アクティブラーニング	課題・宿題、グループワーク、ディベート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	大学で学んでいくための基本的で必須な知識やスキルを学ぶ授業です。なかでも「書く」「話す」力を重視します。積極的に参加してください。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	481101	授業コード	124201
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	本科目では、歴史が地域社会の中でどう息づいているのか、その影響の中で我々は地域の課題とどう向き合っていけばよいのかを歴史的に考察することを将来的な目標とする学生を対象とする。その目標に向け、歴史的事実を根拠を持って説明できるよう、現地調査、史料調査の基本的なスキルを学習する。						
到達目標	1．通史として書かれたものの中に、どのような背景や根拠があるかを理解する。 2．様々な視点から物事をとらえ、通説や常識を鵜呑みにするのではなく、根拠をしっかり押さえる。						
授業計画	第1回　　ガイダンス、自己紹介 第2回　　歴史学とは 第3回　　自治体史講読（1） 第4回　　自治体史講読（2） 第5回　　自治体史講読（3） 第6回　　フィールドワーク 第7回　　フィールドワーク 第8回　　フィールドワーク 第9回　　史料講読（1） 第10回　　史料講読（2） 第11回　　史料講読（3） 第12回　　史料講読（4） 第13回　　史料講読（5） 第14回　　史料講読（6） 第15回　　まとめ フィールドワークについては交通費等自己負担。						
テキスト・教材（参考文献）	授業で必要なプリントは電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示する。						
事前・事後学習	自治体史講読、史料購読については予習必須（60～90分）。 フィールドワークについてもフィールドワーク先の予習を行うこと（60～90分）。 事後学習については、毎回の授業での不明点を残さないようする。また、授業に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。(60分)						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えない。 評価方法は以下の通り。 ・予習等の取り組み：50% ・授業中の発言・受講態度：50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で発言してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	都度、フィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング	体験学習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。 また、無断欠席者には原則として単位を与えない。						

授業科目名	基礎演習ａ			科目コード	481101	授業コード	124203
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習は、企業・地域産業・地域開発に関して自らの関心事を見定めて、探求を行い卒業論文としてまとめることが最終的な目標です。 ２年次前期にあたるこの演習では、「７つの習慣」を輪読しながら自分自身を振り返る演習を行い、ゼミ学生相互に比較することによって、自分の個性を見定めるとともに、他のゼミ学生との相互理解を図ります。最終的にはゼミ活動のミッションステートメント（自己宣言）を完成させることを目標としています。 また後期に向けて新聞や専門雑誌などに触れる予定です。						
到達目標	まずは自分に向き合い、何に関心があるのかを考えてみましょう。 ７つの習慣のそれぞれの場面に触れながら自分を見つめてみましょう。						
授業計画	１．ガイダンス ２．自己紹介の作成 ３．インサイド・アウトで考える（７つの習慣プロローグ） ４．主体的であるということ（７つの習慣①） ５．終わりを思い描くことからはじめる（７つの習慣②） ６．最優先事項を優先する（７つの習慣③） ７．WIN-WINを考える（７つの習慣④） ８．まず理解に徹しそして理解される（７つの習慣⑤） ９．シナジーを創り出す（７つの習慣⑥） １０．刃を研ぐ（７つの習慣⑧） １１．ミッションステートメントの作成演習１ １２．ミッションステートメントの作成演習２ １３．新聞の紹介 １４．雑誌の紹介 １５．まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	コピーを配布します。 フランクリン・コヴィー・ジャパン『まんがでわかる７つの習慣』						
事前・事後学習	（予習）資料をあらかじめ読んでおくこと（９０分） （復習）毎回の課題を行うこと（９０分）						
成績評価方法	授業への参加態度（含む課題への取り組み）５０％ 最終課題の提出　５０％						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回、課題をこなしていただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、翌週に講義中に講評します。						
アクティブラーニング	省略						
実務経験のある教員	省略						
担当者から一言	ゼミは教員からの一方通行な助言だけでなく学生相互の活発な議論が大事だと思います。 相互理解を深め刺激のある関係を構築していきましょう。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	481101	授業コード	124204
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。
授業のねらい	本演習では経営学の2つの顔（理論と実践）を理解した上で，経営学者としての思考を養う．経営学では実践的な経営活動を，抽象的な理論で説明することが求められるが，優秀な経営者や経営学者は，理論と実践を往還する能力を備えている． 本演習では，理論を紐解く鍵としての「抽象化」に対する理解を深めた上で，理論と実践を往還する能力を養う．また発表に対する意見交換を通して，議論する力や論理的な思考を身につける．
到達目標	・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う． ・論拠に基づいた説得力のあるレジュメを作成できるようになる． ・発表や議論の技術を身につける．
授業計画	1　ガイダンス　−発表する章の決定 2　お金と経営学 3　人生の抽象化　−抽象的な人と具体的な人 4　経営学者の思考　−理論ドリブンと現象ドリブン 5　社会人の方々は今こそ経営理論を学ぶべき 6　メモの魔力を持てば世界に敵はいない−序章 7　日常をアイデアに変える　−第1章 8　思考を深める　−第2章 9　自分を知る　−第3章 10　夢をかなえる　−第4章 11　メモは生き方である　−第5章 12　論文の準備（産業選択，資料整理）−論文の構造 13　とにかく書いてみる 14　発表と議論（１） 15　発表と議論（２）
テキスト・教材（参考文献）	前田裕二(2018)『メモの魔力』幻冬舎 ISBN：?978-4344034082
事前・事後学習	第7～11回：毎回，教科書を１章ずつ読む． 発表担当者は，任意の章の内容を要約したレジュメを基に発表する． 発表の担当者は，時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間／1日）． 教員になったつもりで，学生に分かりやすい発表を心がける． 発表者以外も，教科書を事前に読み込んだ上で，関連情報（各章のキーワードのWeb上の説明，関連本など）を集めておくこと（1時間程度）。 各回の演習内容や議論を踏まえた上で，論文の土台づくりを行う（毎週約1時間）
成績評価方法	発表やレジュメの内容　40% 授業態度：毎回のノート（出席確認），議論への積極性　60% 1．発表 やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 自分の発表日に教科書の担当分の発表をしなかった場合は 原則，その日は欠席扱いとなる． ※間に合わない場合は途中でも良いのでレジュメを用意して発表すること 2．授業態度 私語は2回以上の注意で原則，単位不認定となる． また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなる．
授業内の課題・提出方法	発表のレジュメは，ゼミの人数分（＋教員提出用１部）を印刷して持参すること．
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	出席確認の質問に対する解答は，前のスクリーンで紹介する場合がある． また発表や議論に関して，授業内で適宜コメントする．
アクティブラーニング	学生自身に教科書の担当章の要約を発表してもらい，発表に基づいて議論を行う回がある（第7～11回の予定）．
実務経験のある教員	
担当者から一言	やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 何度も遅刻すると，単位が出ない場合があるので注意すること． 毎回の授業でノートをとること． ※やむを得ない事情（手の怪我など）がある場合を除く． 自分の発表がない回でも，ただ聞いているだけでなく 何らかの感想や質問を述べることを心がけること．

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	481101	授業コード	124205
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。						
到達目標	この演習では、地域の抱えている課題や問題などを知るために必要となる基本的な知識や技能を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　フィールドの設定 第３講　地域を知るために必要なこと 第４講　RESASを使ってみよう 第５講　統計データを探してみよう 第６講　統計データの作られ方 第７講　地図に落とし込んでみよう 第８講　定量的な分析と定性的な分析 第９講　メディアから探る地域課題 第10講　新聞記事を活用しよう 第11講　地域の現状と課題 第12講　図書館を使ってみよう 第13講　本を読んでまとめてみる 第14講　著作権と研究倫理 第15講　地域課題の解決方策 ※ 進度などによっては、内容が変更になる場合があります。 ※ 夏休みには、有志のゼミ旅行も予定したいと思います。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください（30分）。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
アクティブラーニング	この演習は、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めていきます						
実務経験のある教員							
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	481101	授業コード	124206
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	日常にあふれる様々な言葉や表現、物語は、人のどのような意識のもと発せられているのか。言葉や文化、作品の創作や享受の裏には、どのような時代状況・社会状況の反映があるのか。文化現象・流行や近現代の（広い意味での）文学作品を取り上げ、これらの分析を通して、人間・人生・人間関係のあり方、社会の模様について考えを深めることを試みます。作品等に向き合うことで、「読む」「調べる」「分析する」「問題を見つける」「論じる」「文章にまとめる」「口頭発表する」「議論する」といった能力を鍛えましょう。						
到達目標	・読解力、解釈力、問題発見力、言葉に対する感性を養う。 ・自分の考えを文章にまとめて論じたレジュメを作成できるようになる。 ・口頭発表や質疑応答などの議論のスキルを身につける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、文学ネタで自己紹介プレゼン 第２講　流行している作品と社会と人々の心理の問題――皆で考える 第３講　流行している作品と社会と人々の心理の問題――発表① 第４講　流行している作品と社会と人々の心理の問題――発表② 第５講　歌詞を細かく深く分析する練習① 第６講　歌詞を細かく深く分析する練習② 第７講　歌詞を細かく深く分析する練習③ 第８講　句会 第９講　小説Ａ①――読む・意見交換 第10講　小説Ａ②――発表・議論 第11講　マンガ①――読む・意見交換 第12講　マンガ②――発表・議論 第13講　小説Ｂ①――読む・意見交換 第14講　小説Ｂ②――発表・議論 第15講　ビブリオバトル						
テキスト・教材（参考文献）	演習で扱う作品のテクストは、プリントにして配布します。 その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。						
事前・事後学習	基本的には、２～３週で１セットとなっています。１週目はみんなでコメントを出し合い、２、３週目に発表担当者がレジュメを準備したうえで口頭発表します。発表担当者は相当の時間（発表前1週間は毎日数時間ずつ）をかけて準備をすること。発表担当者以外も、与えられたテクストを読み、それにまつわる情報（作者の情報、関連作品について等）を収集しておくこと（１時間程度）。						
成績評価方法	・発表（レジュメ内容、口頭発表の仕方、質疑応答の様子）　40% ・毎回の取り組み姿勢（発言意欲、コメント内容など）　60% 原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	毎回のゼミで指示する。 発表者は、レジュメを作成し、人数分印刷をして持ってくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表に関しては、教員・学生全員でコメントし合い、議論をする。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	文学作品や文学現象、文化現象に隠されている問題を見つけたり分析して説明をつけたりすること、普段自分から出会うことはなかなかない文学作品を読み、さらに読み解くこと、そしてそれを誰かと共有して語り合うことは、刺激的な体験となりえます。みんなで面白がりましょう。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	481101	授業コード	124207
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この授業では、“マンガ”で描かれたテキストを使って基本的な経済学の考え方を理解します。経済学は、「難しそうな言葉や複雑な計算がたくさん出てきそうだ」と思われがちですが、いくつかのキーワードを理解しておけば、数学ができなくても十分に理解できる学問です。また、そのようにして習得した経済学的な思考を使って、現実に起きている経済問題について考えていく力をつけてもらうことが、この授業のねらいです。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	まずは、何がわからないかを声にだしてみましょう。その上で、経済学の基本的な考え方を習得し、テレビや新聞で報道されている経済問題を理解し、さらにその問題について自分の意見を言えるようになることを、到達目標とします。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 経済学って何をしようとする学問なの？ 第３講 モノの値段は何をもとに決まっている？ 第４講 「コスト＝費用」についての経済学的な考え方とは？ 第５講 マクロ経済学・ミクロ経済学って何？ 第６講 ニュースでよく出てくるGDP（国内総生産）って何？ 第７講 「日本はデフレ」ってどういう意味？ 第８講 ケインズって誰？ レポート提出① 第９講 「超低金利政策」って何？ どうしてそんなことするの？ 第10講 消費したほうがいい？ それとも貯蓄したほうがいい？ 第11講 財政政策って何？ 第12講 そもそもお金って何？ 第13講 金融政策って何？ 第14講 良いインフレと悪いインフレがあるらしい？ レポート提出② 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	下記テキストのコピーを配布します。 井堀利宏「大学４年間の経済学がマンガでざっと学べる」KADOKAWA（2017年）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。授業後、その日読んだマンガのテキストを必ず読み返し、どんなことを話し合ったかを思い出す（９０分以上）。						
成績評価方法	授業内での報告や発言内容70%、レポート（２回）30%。						
授業内の課題・提出方法	毎回授業内で簡単なレポートを書いて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内でのレポートの結果や質問などについては適宜説明します。						
アクティブラーニング	ディスカッション、ミニッツペーパー						
実務経験のある教員							
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	481101	授業コード	124208
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この演習では国際情報の性質を考えていきます。実際の授業では、具体的な報道記事を材料に、「誰が、何を、どう表現し」、それを「誰が、どのように受容したか」を、できるだけ一次資料にまで遡って分析し、その上で、入手できた資料を使いオリジナルの記事を作成してみましょう。最後の２回ではオリジナルの記事の合評会を予定しています。 作業は留学生と日本人学生の混成グループにより進めることとし、作業中の使用言語は日本語と英語のみとします。						
到達目標	１．一次資料に遡れる調査能力の獲得 ２．資料に基づくレポート作成能力の獲得 ３．多言語コミュニケーション能力の獲得 ４．プレゼンテーション能力の獲得						
授業計画	第１講：ガイダンス 第２講：報道記事を解剖する（講義） 第３講：出来事の選択 第４講：記事の持ち寄り 第５講：記事の選択（グループ作業） 第６講：記事の解剖（グループ作業） 第７講：情報源の特定（グループ作業） 第８講：資料の抽出（グループ作業） 第９講：資料の持ち寄り 第10講：資料の評価 第11講：記事作成のための資料選択（グループ作業） 第12講：オリジナル記事の構成（グループ作業） 第13講：オリジナル記事の作成（グループ作業） 第14講：合評会 第15講：合評会						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	各回の内容に応じて、次のような準備が必要になります。 １．材料とする報道記事の検索（１時間） ２．報道記事の分析（１時間半） ３．一次資料の調査（２時間） ４．発表資料の作成（２時間）						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます						
アクティブラーニング	発表とそれに関する議論。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ひとつの報道記事には、いくつかの別の主体の判断や認識が含まれているのが一般的です。イメージと感情に偏りがちが最近の国際情報環境のなかで、細部にこだわった情報の読み取りを一度経験しておくことで、報道記事の見方もきっと変わると思います						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	481101	授業コード	124209
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習では、まず、自己紹介によるスピーチの練習から始めていきたいと考えております。最近の学生で多くみられる傾向として、メールなどでの簡単な会話は問題ないのですが、実際の面と向かっての会話は、苦手な学生が多いように思えますので、この点の改善には、各講のテーマに関係なく意識して時間を使いたいと思います。　ここでは、ニュースや新聞などで話題となっているような社会問題を素材として扱います。						
到達目標	各自が設定したテーマに基づき、資料収集が出来ることはもとより、きちんとしたレジュメの作り方や報告方法までを到達目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　自己紹介（スピーチの練習） 第３講　資料の収集方法 第４講　レジュメの形式について 第５講　各自が注目した社会問題を意見交換（グループワーク） 第６講　研究テーマと概要を報告し、ミニレポートで提出 第７講　レジュメによる報告および意見交換① 第８講　レジュメによる報告および意見交換② 第９講　レジュメによる報告および意見交換③ 第10講　レジュメによる報告および意見交換④ 第11講　レジュメによる報告および意見交換⑤ 第12講　レジュメによる報告および意見交換⑥ 第13講　研究の進捗状況を報告し、ミニレポートで提出 第14講　討論会（テーマは多数決で決める） 第15講　まとめ、研究レポート提出						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献等は、必要に応じて紹介します。資料は適宜、配付します。						
事前・事後学習	毎日、新聞を読むこと（1日20分）はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　50% 発表内容　30% レポート　20%						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告で使用したレジュメや提出したレポートについては、その都度、指導します。						
アクティブラーニング	例えば、レジュメ報告での指導でも、可能な限り対話を重視した形にしています。						
実務経験のある教員	四日市市EMS内部環境監査員(ISO14001）や本学の環境管理責任者・内部環境監査員(ISO14001)での経験で得た知識を、この授業でも生かしています。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	基礎演習ａ			科目コード	481101	授業コード	124210
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。						
到達目標	芸術（文学、映画や音楽など）、科学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　哲学とは何か 第３講　哲学と私 第４講　古代哲学：ソクラテス以前 第５講　古代哲学：ソクラテス 第６講　古代哲学：プラトン 第７講　古代哲学：アリストテレス 第８講　中世哲学：新プラトン主義 第９講　中世哲学：スコラ哲学 第10講　近代哲学：ルネサンス 第11講　近代哲学：デカルト 第12講　近代哲学：スピノザ 第13講　近代哲学：ライプニッツ 第14講　哲学論文の書き方 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『哲学用語図鑑』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 研究発表：20% 最終レポート：50% 注意：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。						
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業において、特定のテーマについて対話やディスカッションを通して理解を深める。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。						

授業科目名	基礎演習ａ			科目コード	481101	授業コード	124202
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	企業が年に1度作る書類に「財務諸表（決算書）」があります。簿記をベースにして作られる財務諸表からは、その企業がどんな資産をどれだけ持っているか、どれだけ儲けたか、といった会計情報を読み取れます。財務諸表を読み、経営分析の基礎的な手法を身につけることをこの演習のねらいとします。卒業研究を見据えて、情報の収集、分析、取りまとめや発表などのスキルを実践で鍛えましょう。また卒業研究のテーマ探索に向けてディスカッションをします。						
到達目標	（1）企業の財務諸表（決算書）を使った、基礎的な経営分析のスキルを身につける。 （2）企業の財務諸表を、ビジネスモデルや経営環境などと関連づけて読むスキルを身につける。 （3）自分の考えを文章にまとめるスキル、報告・発表するスキルを身につける。						
授業計画	第１講　ガイダンス・自己紹介 第２講　企業とお金の関係 第３講　企業の会計情報 第４講　企業に関する新聞・雑誌記事を読む 第５講　資料の探索・収集に図書館を活用する 第６講　財務諸表を読み解く（1） 第７講　財務諸表を読み解く（2） 第８講　わかりやすい文章 第９講　わかりやすい発表 第10講　経営分析のグループワーク（1） 第11講　経営分析のグループワーク（2） 第12講　経営分析のグループワーク（3） 第13講　経営分析のプレゼンテーション・ディスカッション（1） 第14講　経営分析のプレゼンテーション・ディスカッション（2） 第15講　まとめ・基礎演習bに向けたディスカッション ・企業見学（夏休み中に1日で2～3社を訪問。現場を見学し、経営者・従業員の方の生の声を聞く。参加は任意）を企画する予定です。 ・日商簿記検定、ビジネス会計検定などの資格取得に関心のある方の支援もします。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。参考文献は適宜紹介します。資料は適宜配布します。						
事前・事後学習	（1）毎回、その日の演習の内容を整理したうえで、次回までに必要な情報の収集と分析、発表用のスライドの作成などを行う（合計90分以上）。 （2）新聞やニュースなどで、企業の決算などに関する情報に触れる。そのなかで未知の用語があればメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べる（合計90分以上）。						
成績評価方法	（1）授業への取り組み姿勢（発表に関連する一連の取り組みの積極性、創意工夫など）：50% （2）発表：50%						
授業内の課題・提出方法	各回の授業後、簡潔なレポート（その回の内容の整理、自分の疑問など）を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表の内容・技術などについては発表後にコメントします。演習中・後に寄せられた質問に対しては適宜、回答します。						
アクティブラーニング	実在する企業の財務諸表をもとにした経営分析をグループおよび個人単位で行い、そのプレゼンテーションをしてもらいます。発表内容についてディスカッションも行います。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止とし、退室を命じることがあります。のびのびと、楽しく、しっかりと学ぶゼミを目指します。学生一人ひとりの主体性と積極性に期待しています。仕事ではもちろん、家計管理や株式投資などでも生涯に渡って長く使えるスキルを獲得してください。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	481101	授業コード	124211
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習では、現実を手がかりに世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。基礎演習aでは論説文の書き方を学びます。論説文はレポートはもちろんプレゼンテーションの基本でもあります。自分の考えを正確にわかりやすく伝える力を高めましょう。						
到達目標	文章を論理的に組み立てることができる。						
授業計画	1 ガイダンス 2 文章の書き方 3 文章の型を知る 4 型から文章を作る 5 文章の読み方 6 メモを取りながら読む 7 メモを活用する 8 文書資料の探し方 9 統計資料の探し方 10 レジュメをつくる 11 レジュメから文章へ 12 段落の構成 13 文の構成 14 接続詞を学ぶ 15 後学期ガイダンス						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 野矢茂樹（2018）『増補版　大人のための国語ゼミ』筑摩書房. 宮内泰介・上田昌文（2020）『実践　自分で調べる技術』岩波書店.						
事前・事後学習	各回の課題に取り組むこと（一日15分程度）						
成績評価方法	平常点100%。 平常点は各回の課題と授業への参加度で評価します。						
授業内の課題・提出方法	各回の課題は翌週の授業で提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題をもとに教員を含めた全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	原稿用紙のマス目を埋めるだけの作文を卒業し、論理と構成を備えた文章を書く力を身につけましょう。						

授業科目名	基礎演習ａ			科目コード	481101	授業コード	124212
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習ではまず話すことと質問することに慣れることを目標とします。 【①質疑応答　導入】では各自が自由に設定したテーマについて各自で調査・資料作成、報告（10分程度）を行い、他のゼミ生からの質疑への応答をしてもらいます。 【②レジュメの作り方　導入】では、与えられたテキストをどのように要約し、レジュメに落とし込むかの方法を学びます。 【③レジュメの作り方　実践】では、行政学や政策過程論に関係するテキストや論文の一部を担当学生が要約し、ディスカッションを行います。 上記過程を通して、あらゆる職種に通底するス						
到達目標	①いかなるテーマに対しても自身の意見を述べることが出来る ②文章の読解・要約技術を身に着ける ③政策研究の未野の広さを理解し、自身の関心の所在を見つける						
授業計画	01.　ガイダンス、自己紹介／ゼミ運営ルールの共有 【①質疑応答　導入】 02.　プレゼンテーション基礎 03.　個人プレゼン・ディスカッション　1/3 04.　個人プレゼン・ディスカッション　2/3 05.　個人プレゼン・ディスカッション　3/3 【②レジュメの作り方　導入】 06.　「論理的文章の読み取り法」 07.　「要旨の読み取り方」 08.　「要旨要約の作成」 【③レジュメの作り方　実践】 09.　文章要約とディスカッション 10.　文章要約とディスカッション 11.　文章要約とディスカッション 12.　文章要約とディスカッション 13.　文章要約とディスカッション 14.　文章要約とディスカッション 15.　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、下記を参考文献として挙げ、一部講読する可能性がある。 ・成清弘和（2016）『理系のための論理が伝わる文章術』講談社 ・秋吉貴雄（2017）『入門　公共政策学』中公新書 ・堂目卓生・山崎吾郎編（2022）『やっかいな問題はみんなで解く』世界思想社						
事前・事後学習	報告担当となった学生は各自で報告資料・レジュメの作成を各自で事前に行ってください（300分程度）。 また、報告者以外の学生も演習中、質疑に参加してもらいます。質問を行うためには日ごろから目にしたニュースや新聞記事に関心を持っておく必要があります。通学中などにSNSやニュースサイトなどで気になったトピックを都度、調べてみる習慣を身に着けてください（60分程度）。						
成績評価方法	報告資料（20%）と、ゼミへの貢献度：質疑への積極性・内容（80%）で総合評価します。 なお、原則として無断での遅刻・欠席は認めず、報告担当者が遅刻欠席した場合、単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	演習中の報告資料を課題として設定し、演習中に適宜講評を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	演習中に適宜講評を行います。						
アクティブラーニング	学生による報告と質疑応答を実施する						
実務経験のある教員	業務委託による自治体行政計画策定支援・ワークショップ等支援経験						
担当者から一言	ゼミは講義と違って、学生の皆さんが主体となって討論しながら、考える場です。わからないことがあったら何でも口に出して質問する習慣を身につけましょう。自分がわからないことは、大概、他の人もわかっていません。誰かが質問しなければ永遠に謎のままです。全員でわからないを出し合って、少しずつわかる領域を増やしていきましょう。 なお、ゼミ運営にあたりマイクロソフトTeamsによる資料情報共有を予定しています。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	481101	授業コード	124213
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	本演習では、スポーツ科学に関連した文献講読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成する。						
到達目標	文献検索や資料作成等、研究を進めるための基礎的な手法を習得する。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　レポートのテーマ検討 第3講　レポートのテーマ検討 第4講　スポーツ科学とは 第5講　文献講読・討論 第6講　文献講読・討論 第7講　文献講読・討論 第8講　文献講読・討論 第9講　文献講読・討論 第10講　文献講読・討論 第11講　文献講読・討論 第12講　文献講読・討論 第13講　文献講読・討論 第14講　文献講読・討論 第15講　総括及び夏期休暇課題の説明						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、課題文献に関連した資料収集を実施しておくこと（９０分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(９０分)。						
成績評価方法	課題文献の解説･要約（５０%）、レポート（５０%）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	毎回担当者を決めて、課題文献の解説をしてもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124605
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	本科目では、歴史が地域社会の中でどう息づいているのか、その影響の中で我々は地域の課題とどう向き合っていけばよいのかを歴史的に考察することを将来的な目標とする学生を対象とする。その目標に向け、歴史的事実を根拠を持って説明できるよう、実際に自分の関心に基づいて現地調査、史料調査を行ってみる。						
到達目標	1. 論拠となる史資料を収集する能力を身につける。 2. 自分なりの論点を学術的に論じるための発表スキルを向上させる。 3. 上の作業を通して、研究テーマを固めていく。						
授業計画	第1回　ガイダンス　歴史研究とは 第2回　興味・関心について発表 第3回　史資料の収集・分析（1） 第4回　史資料の収集・分析（2） 第5回　フィールドワーク 第6回　フィールドワーク 第7回　興味・関心の再発表 第8回　プレゼンテーション作成（1） 第9回　プレゼンテーション作成（2） 第10回　プレゼンテーション作成（3） 第11回　プレゼンテーション作成（4） 第12回　プレゼンテーション作成（5） 第13回　プレゼンテーション作成（6）＋中締め 第14回　発表（1） 第15回　発表（2） フィールドワークについては交通費等自己負担。						
テキスト・教材（参考文献）	授業で必要なプリントは電子あるいは紙で配布する。						
事前・事後学習	研究テーマに関連した史資料収集をする（90分）。発表準備をする（90分）。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えない。 評価方法は以下の通り。 ・プレゼンテーション：50% ・授業中の発言・受講態度：50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で発表者以外も必ず一度は発言してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	都度、フィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング	調査学習、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。 また、無断欠席者には原則として単位を与えない。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124607
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習は、企業・地域産業・地域開発に関して自らの関心事を見定めて、探求を行い卒業論文としてまとめることが最終の目標です。 ２年次後期にあたるこの演習では、新聞や雑誌に触れながら自分の関心のある記事を読みすすめることを目標とします。 これらによって自らの企業・地域産業・地域開発への関心を深めていただきます。やみくもに読むことを良いですが、自らの関心に従って系統的に読むことも重要です。そのような訓練も行っていただきます。 最終的にはサーベイレポートを作成することを目指します。						
到達目標	自分の関心に関して系統的情報を収集し、サーベイレポートを作成することを目標とします。						
授業計画	１．ガイダンス ２．新聞・雑誌の読み方 ３．新聞を読もう①気になる記事を探す ４．新聞を読もう②気になる記事をまとめる ５．新聞を読もう③気なる記事の考察 ６．レジメを作成し発表① ７．レジメを作成し発表② ８．雑誌の記事を読もう①気になる雑誌記事を探す ９．雑誌の記事を読もう②気になる雑誌記事をまとめる ９．雑誌の記事を読もう③気になる雑誌記事を考察する １０．サーベイレポートの作成① １１．サーベイレポートの作成② １２．サーベイレポートの作成③ １３．サーベイレポートの発表① １４．サーベイレポートの発表② １５．まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定せず講義の中で示します。						
事前・事後学習	（予習）資料をあらかじめ読んでおくこと（９０分） （復習）毎回の課題を行うこと（９０分）						
成績評価方法	授業への参加態度（含む課題への取り組み）５０％ 最終課題の提出　５０％						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回、課題をこなしていただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題にコメントします。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	ゼミは教員からの一方通行な助言だけでなく学生相互の活発な議論が大事だと思います。 相互理解を深め刺激のある関係を構築していきましょう。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124608
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	本演習では経営学の2つの顔（理論と実践）を理解した上で，経営学者としての思考を養う．経営学では実践的な経営活動を，抽象的な理論で説明することが求められるが，優秀な経営者や経営学者は，理論と実践を往還する能力を備えている． 本演習では，理論と実践を往還する能力を養う．また発表に対する意見交換を通して，議論する力や論理的な思考を身につける．						
到達目標	・経営学的に思考する能力（具体を抽象化する能力）を養う． ・論拠に基づいた説得力のあるレジュメを作成できるようになる． ・発表や議論の技術を身につける．						
授業計画	1　ガイダンス 2　前期のフィードバック（１） 3　前期のフィードバック（２） 4　問題意識　−今，考えるべき世の中の問題とは 5　問題の社会的意義の議論 6　資料収集（１）−先行研究 7　資料収集（２）−先行研究の深堀 8　資料収集（３）−事例研究 9　事例研究の検討（１） 10　事例研究の検討（２） 11　事例の考察　−具体の抽象化 12　考察の検討（１） 13　考察の検討（２） 14　解答の社会的意義の議論 15　まとめ−発表へのフィードバック						
テキスト・教材（参考文献）	前田裕二(2018)『メモの魔力』幻冬舎 ISBN：978-4344034082						
事前・事後学習	発表の担当者は，時間をかけて準備すること（発表前の1週間は数時間／1日）． 教員になったつもりで，学生に分かりやすい発表を心がける． 発表者以外も，前期の資料や教科書を事前に読んだ上で，関連情報（各回のキーワードのWeb上の説明など）を集めておくこと（1時間程度）。 各回の内容を復習し，自分の卒論作成にどう役立てるかを考える（毎週約1時間）．						
成績評価方法	発表やレジュメの内容　40% 授業態度：毎回のノート（出席確認），議論への積極性　60% 1．発表 やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 自分の発表日に発表しなかった場合は原則，その日は欠席扱いとなる． (前回の発表内容を少しでも良いので進めた上で，何らかの発表を行うようお願いします) 2．授業態度 私語は2回以上の注意で原則，単位不認定となる． また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点で原則，その日は欠席扱いとなる．						
授業内の課題・提出方法	レジュメを用意するように指示された課題については， ゼミの人数分（＋教員提出用１部）のレジュメを印刷して持参すること． ※moodle上にも課題のファイルを提出するよう指示する場合がある． レジュメの印刷が間に合わない場合は，moodle提出だけでも行うこと						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や出席確認の質問に対する解答は，前のスクリーンで紹介する場合がある． また発表や議論に関して，授業内で適宜コメントする．						
アクティブラーニング	卒論の土台（例．卒論の第1章と2章）を作成した上で，それに基づいた発表を行ってもらう回がある．						
実務経験のある教員							
担当者から一言	やむを得ない事情（体調不良など）がないにもかかわらず 何度も遅刻すると，単位が出ない場合があるので注意すること． 毎回の授業でノートをとること． ※やむを得ない事情（手の怪我など）がある場合を除く． 自分の発表がない回でも，ただ聞いているだけでなく 何らかの感想や質問を述べることを心がけること．						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124609
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習では、将来、地域で活躍することを目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。						
到達目標	この演習では、地域の抱えている課題や問題などを知り、それを解決・改善していくために必要となる基本的な知識や技能を身につけることを、到達目標としています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　火事と救急出動 第３講　消防士と消防団員 第４講　防災・危機管理 第５講　事件と事故 第６講　警察と公安委員会 第７講　消防士・警察官になるために 第８講　公共事業と社会資本 第９講　地域経済と産業振興 第10講　スポーツと健康づくり 第11講　地元企業で働くために 第12講　子育てと福祉 第13講　文化・市民活動 第14講　多文化共生と人権 第15講　自治体行政職員になるために ※ 各人の興味関心などに応じて、内容が変更になる場合があります。 ※ 秋には大学祭での模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表合宿「ジョイントセミナー」（有志のみ）を、それぞれ予定しています。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません（必要に応じて、適宜プリントを配布します） 【参考文献】 新藤宗幸「日曜日の自治体学」東京堂出版（2013年）、2，200円＋税 大森彌、大杉覚「これからの地方自治の教科書　改訂版」第一法規（2021年）、2，500円＋税						
事前・事後学習	毎回、何らかのことを調べたり整理したりしレジュメを作成したりして来てもらいます（150分程度）。 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください（30分）。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題への取り組み状況：50% ・授業中の発言・受講態度：50%						
授業内の課題・提出方法	レジュメを作成して、授業時に配布してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。						
アクティブラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に進めていきます						
実務経験のある教員							
担当者から一言	一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124610
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	日本の近現代の文学作品を、前学期より学問的に分析していきます。前半は、現代のラノベ状況や流行の変遷について、それが時代や社会、読者心理とどのように関係しているかを分析します。後半は、文学作品を、単に作品だけを見るのではなく、時代状況、社会状況、そこで生きている作者本人という背景も踏まえた上で分析し、より作品に対する理解を深めて、そこから問題点を設定し自分なりの論点で論じる練習をします。						
到達目標	・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。 ・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。 ・口頭発表のスキルを向上させる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、現代のラノベ状況について考える① 第２講　現代のラノベ状況について考える② 第３講　現代のラノベ状況について論じる① 第４講　現代のラノベ状況について論じる② 第５講　現代のラノベ状況について論じる③ 第６講　歌会 第７講　小説A一作品について議論する 第８講　小説A一作品を論じる 第９講　小説B一作品について議論する 第10講　小説B一作品を論じる 第11講　小説C一作品について議論する 第12講　小説C一作品を論じる 第13講　小説D一作品について議論する 第14講　小説D一作品を論じる 第15講　「ちびまる子ちゃん」について考える						
テキスト・教材（参考文献）	演習で扱う作品のテクストは、プリントにして配布します。 その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。						
事前・事後学習	・ほぼ毎回、次回までに読んでくるべき資料を配布するので、それを読む（約１時間）。 ・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも１週間前から入念な発表準備をする（毎日数時間×７日間）。						
成績評価方法	・毎回のコメントと受講態度　60% ・発表と質疑応答の内容　　40% 原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	課題については、ゼミで指示します。 発表者は、レジュメを作成し、人数分印刷してゼミに持ってくること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表に対して、教員や学生全員でコメントし合い、議論をします。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「基礎演習ａ」では散発的に作品を読むという感じでしたが、「基礎演習ｂ」では1人の作家や1つのジャンルに対象は絞りつつも、より深く、より影響などを考察し、学問的に作品と格闘します。あーだこーだと考え、議論することの楽しさを味わいましょう。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124611
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この授業では、経済に関する新聞記事を読んで、経済用語や理論を学ぶとともに、現在どんなことが問題となっているかについて考えていきます。同時に３年生から取り組む卒業研究のテーマのネタ探しも行います。						
到達目標	基本的な経済理論と、身の回りで話題になっている経済問題を理解する。 問題意識を持つ力をつける。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 新聞記事を読む 第３講 新聞記事を読む 第４講 新聞記事を読む 第５講 新聞記事を読む 第６講 新聞記事を読む 第７講 新聞記事を読む 第８講 新聞記事を読む 第９講 新聞記事を読む 第10講 新聞記事を読む 第11講 新聞記事を読む 第12講 新聞記事を読む 第13講 新聞記事を読む 第14講 新聞記事を読む 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	新聞記事を用意します。						
事前・事後学習	前の週に渡した新聞記事を読んで、わからない用語を調べておくとともに、疑問点を３つ以上考えておく（９０分以上）。 授業後、ディスカッションした内容についてまとめる（９０分以上）。						
成績評価方法	課題の取り組み７０％、授業内での発言内容３０％						
授業内の課題・提出方法	全員に疑問点を板書してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	板書してもらった内容についてコメントします。						
アクティブラーニング	全員が疑問点を板書した上でディスカッションを行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124612
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この演習では、論文作成を中心に考えます。前期までに考えてきた各自のテーマを論文のスタイルで表現してみましょう。その準備段階として、「一文作文」、「構成」、「一枚作文」という３つの作業を順番に進めます。最後には、足りないデータを探す方法を考えたいと思います。						
到達目標	自分で論文作成の準備ができる。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 研究テーマの確認 第３講 論文とは 第４講 論文の仕組み 第５講 「一文作文」の作成１ 第６講 「一文作文」の作成２ 第７講 「一文作文」から「構成」へ 第８講 「パラグラフ・ライティング」１ 第９講 「パラグラフ・ライティング」２ 第10講 「構成」から「一枚作文」へ１ 第11講 「構成」から「一枚作文」へ２ 第12講 「一枚作文」の合評会１ 第13講 「一枚作文」の合評会２ 第14講 追加データの確認 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します（180分）。						
成績評価方法	授業中に発表してもらった課題（50%）を評価の対象とし、グループ作業への参加度（50%）を加味して総合評価とします。						
授業内の課題・提出方法	授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表についてはその場でコメントします。また、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます						
アクティブラーニング	発表とそれに関する議論。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	自ら表現することを中心に考えていきます。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124613
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	基礎演習ｂでは、基礎演習ａでも重視した新聞・ＴＶのニュース・インターネットなどのトップページで扱われているような社会問題を素材とします。ここでは、自分が興味を持ったテーマを可能な限り詳しく調べ、ある程度、高度な発表ができるようにすることを講義のねらいとします。						
到達目標	社会における法律に関する諸問題を、ある程度、自分で思考し解決しようとする取っ掛かりの部分を身に着けることに重点を置いていきます。最終的な到達目標は、発表や意見交換の方法を学ぶところまでを予定しています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　社会問題①（スピーチの練習） 第３講　グループディスカッションの練習① 第４講　グループディスカッションの練習② 第５講　研究テーマと内容の報告① 第６講　研究テーマと内容の報告② 第７講　レジュメによる発表と質疑応答① 第８講　レジュメによる発表と質疑応答② 第９講　レジュメによる発表と質疑応答③ 第10講　レジュメによる発表と質疑応答④ 第11講　レジュメによる発表と質疑応答⑤ 第12講　社会問題②（発表の練習） 第13講　社会問題③（発表の練習） 第14講　意見交換の方法 第15講　まとめ、レポート提出						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、資料を配付します。						
事前・事後学習	新聞やニュースで取り上げられた事件などの当該規定を、必要に応じ六法で調べるのはもとより、ジュリストなどの判例集もできるだけ読む習慣を身につけてください。（毎回、予習90分と復習90分）						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　50% 発表内容　30% レポート　20%						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	例えば、レジュメ報告での指導でも、可能な限り対話を重視した形にしています。						
実務経験のある教員	四日市市EMS内部環境監査員(ISO14001）や本学の環境管理責任者・内部環境監査員(ISO14001)での経験で得た知識を、この授業でも生かしています。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124614
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修

授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。
授業のねらい	この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。
到達目標	芸術（文学、映画や音楽など）、科学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。
授業計画	第１講　ガイダンスと前期の復習 第２講　前期のフィードバック(1) 第３講　前期のフィードバック(2) 第４講　近代哲学：カント(1) 第５講　現代哲学：カント(2) 第６講　現代哲学：ヘーゲル(1) 第７講　現代哲学：ヘーゲル(2) 第８講　発表と議論（１） 第９講　発表と議論（２） 第10講　発表と議論（３） 第11講　発表と議論（４） 第12講　発表と議論（５） 第13講　発表と議論（６） 第14講　発表と議論（７） 第15講　発表のコメントやフィードバック
テキスト・教材（参考文献）	『哲学用語図鑑』 田中正人 (プレジデント社) （1，800円＋税）ISBN 978-4-8334-2119-5
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読みます（毎週約60分）。 レポートを作成し、発表の準備をします（毎週約60分）。
成績評価方法	受講態度：30% 発表のコメント：20% 研究発表：50% 注意：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。
授業内の課題・提出方法	学生は研究の発表を行います。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究発表については講義中にコメントします。
アクティブラーニング	授業において、特定のテーマについて対話やディスカッションを通して理解を深める。
実務経験のある教員	
担当者から一言	世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。 この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124606
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	企業が年に1度作る書類に「財務諸表（決算書）」があります。簿記をベースにして作られる財務諸表からは、その企業がどんな資産をどれだけ持っているか、どれだけ儲けたか、といった会計情報を読み取れます。財務諸表を読み解き、経営分析の基礎的な手法を身につけることをこの演習のねらいとします。卒業研究を見据えて、情報の収集、分析、取りまとめや発表などのスキルを実践で鍛えましょう。また卒業研究のテーマ探索に向けてディスカッションをします。						
到達目標	（1）企業の財務諸表（決算書）を使った、基礎的な経営分析のスキルを身につける。 （2）企業の財務諸表を、ビジネスモデルや経営環境などと関連づけて読むスキルを身につける。 （3）自分の考えを文章にまとめるスキル、報告・発表するスキルを身につける。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　研究テーマの探索 第３講　レポート・論文の書き方（1） 第４講　レポート・論文の書き方（2） 第５講　財務諸表を読み解く（1） 第６講　財務諸表を読み解く（2） 第７講　経営分析のグループワーク（1） 第８講　経営分析のグループワーク（2） 第９講　経営分析のプレゼンテーション・ディスカッション（1） 第10講　財務諸表を読み解く（3） 第11講　経営分析のワーク（1） 第12講　経営分析のワーク（2） 第13講　経営分析のワーク（3） 第14講　経営分析のプレゼンテーション・ディスカッション（2） 第15講　まとめ・専門演習に向けたディスカッション ・日商簿記検定、ビジネス会計検定などの資格取得に関心のある方の支援もします。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。参考文献は適宜紹介します。資料は適宜配布します。						
事前・事後学習	（1）毎回、その日の演習の内容を整理したうえで、次回までに必要な情報の収集と分析、発表用のスライドの作成などを行う（合計90分以上）。 （2）新聞やニュースなどで、企業の決算などに関する情報に触れる。そのなかで未知の用語があればメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べる（合計90分以上）。						
成績評価方法	（1）授業への取り組み姿勢（発表に関連する一連の取り組みの積極性、創意工夫など）：50% （2）発表：50%						
授業内の課題・提出方法	各回の授業後、簡潔なレポート（その回の内容の整理、自分の疑問など）を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表の内容・技術などについては発表後にコメントします。演習中・後に寄せられた質問に対しては適宜、回答します。						
アクティブラーニング	実在する企業の財務諸表をもとにした経営分析をグループおよび個人単位で行い、そのプレゼンテーションをしてもらいます。発表内容についてディスカッションも行います。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止とし、退室を命じることがあります。のびのびと、楽しく、しっかりと学ぶゼミを目指します。学生一人ひとりの主体性と積極性に期待しています。仕事ではもちろん、家計管理や株式投資などでも生涯に渡って長く使えるスキルを獲得してください。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124615
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習では、現実を手がかりに世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。2年生の後学期は文章を読む力をのばすことに主眼をおき、文章を通して色々な社会の見方に触れていきます。						
到達目標	1．文章を読み、内容を吟味できるようになる 2．レジュメ作成の能力を身につける 3．社会学の基本的な用語や考え方を身につける						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　論説文の読み方 第３講　短い文章を読む1 第４講　短い文章を読む2 第５講　文章を吟味する1 第６講　文章を吟味する2 第７講　レジュメの作り方 第８講　報告と議論1 第９講　報告と議論2 第10講　報告と議論3 第11講　書評レポートの書き方 第12講　報告と議論4 第13講　報告と議論5 第14講　報告と議論6 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞ 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	各回の課題に取り組むこと（一日15分程度）						
成績評価方法	報告50%、授業への参加度50%で評価します。 ※原則として報告担当回に欠席すると単位を出しません。						
授業内の課題・提出方法	授業内で学生による報告があります。 報告者は人数分のレジュメを印刷して授業に持参すること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題をもとに教員を含めた全員でディスカッションします。						
アクティブラーニング	ディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	世の中の「あたりまえ」を疑うことが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124616
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この演習では、研究の方法とその報告方法・まとめ方の習得を目標とします。 基本的にはグループワークを基本として、毎講義、グループごとでの進捗報告などをしてもらいます。 この活動を通して、卒業研究へ向けた基礎的な研究工程の考え方を身に着けることを目指します。						
到達目標	①研究工程に関する基礎的な知識を身に着ける ②研究活動の表現方法の基礎を身に着ける ③卒業研究に向けて自身の関心事を見つける						
授業計画	01.　ガイダンス 02.　研究とレポートの違い 03.　テーマ探し 04.　課題の設定 05.　先行研究調査 06.　先行研究整理 07.　論点整理 08.　追加調査 09.　追加調査 10.　レジュメ作成 11.　レジュメ講評 12.　報告準備 13.　報告練習 14.　報告実践 15.　まとめ ※12月初旬に他大学との合同研究発表合宿への参加（任意）あり						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定なし。 演習中に必要に応じて随時紹介する。						
事前・事後学習	報告担当となった学生は各自で報告資料・レジュメの作成を各自で事前に行ってください（300分程度）。 また、報告者以外の学生も演習中、質疑に参加してもらいます。質問を行うためには日ごろから目にしたニュースや新聞記事に関心を持っておく必要があります。通学中などにSNSやニュースサイトなどで気になったトピックを都度、調べてみる習慣を身に着けてください（60分程度）。						
成績評価方法	報告資料（20%）と、ゼミ・グループワークへの貢献度：質疑への積極性・内容（80%）で総合評価します。 なお、原則として無断での遅刻・欠席は認めず、報告担当者が遅刻欠席した場合、単位を与えません。						
授業内の課題・提出方法	演習中の報告資料を課題として設定し、演習中に適宜講評を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	演習中に適宜講評を行います。						
アクティブラーニング	学生による報告と質疑応答を実施する						
実務経験のある教員	業務委託による自治体行政計画策定支援・ワークショップ等支援経験						
担当者から一言	ゼミは講義と違って、学生の皆さんが主体となって討論しながら、考える場です。わからないことがあったら何でも口に出して質問する習慣を身につけましょう。自分がわからないことは、大概、他の人もわかっていません。誰かが質問しなければ永遠に謎のままです。全員でわからないを出し合って、少しずつわかる領域を増やしていきましょう。 なお、ゼミ運営にあたりマイクロソフトTeamsによる資料情報共有を予定しています。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	481102	授業コード	124617
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PSS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。 論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	本演習は、スポーツ・運動・健康をテーマとして、レポート及び論文作成のための基礎的な能力養成を目的とする。						
到達目標	各種資料（書籍・雑誌・新聞記事・映像資料等）を整理し、レポートとしてまとめた上で発表する。その発表内容についてクラス全員で質疑応答や討論を重ねることによって、その後の研究テーマ選定へとつなげていく。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　レポート・論文の書き方 第3講　資料収集法 第4講　レポート作成（はじめに） 第5講　レポート作成（はじめに） 第6講　レポート作成（はじめに） 第7講　レポート作成（方法） 第8講　レポート作成（結果及び考察） 第9講　レポート作成（結果及び考察） 第10講　レポート作成（結果及び考察） 第11講　レポート発表・質疑応答・討論 第12講　レポート発表・質疑応答・討論 第13講　レポート発表・質疑応答・討論 第14講　レポート修正版完成 第15講　レポート修正版完成						
テキスト・教材（参考文献）	特に指定しないが、適宜指示する。						
事前・事後学習	予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと（９０分）。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(９０分)。						
成績評価方法	レポート（５０％）、プレゼンテーション（５０％）。						
授業内の課題・提出方法	授業内、授業以外の時間でも、適宜。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポート等の評価は都度個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生の自主的なテーマ選定・資料収集・レポート作成・討論参加を期待する。						

授業科目名	総合政策概論			科目コード	481201	授業コード	126105
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PMC2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	総合政策とは、経済学や法学といった特定の学問領域のことではなく、まず社会的な課題があり、それをさまざまな人や組織が持てる力を合わせて解決する、あるいはその解決策を見出していこうとすることです。この講義では、総合政策学部の各教員が、それぞれ専門としている領域を念頭に、その内容を講義するものです。なおこの講義は、事前に収録された動画を視聴するオンデマンド方式で行います。						
到達目標	以下の３つを掲げています。 1. それぞれの教員の領域を理解すること 2. 総合政策のもつ分野の多様性を理解すること 3. 今後自らが専攻する分野や指導教員などを見定めること						
授業計画	第1講　4/8ガイダンス／未来を拓く中小企業の役割（岡良浩） 第2講　4/15地域の学びと文化（浅井雅） 第３講　4/22人生の抽象化－学問する意味－（川崎綾子） 第４講　5/6自由貿易がもたらすもの（鶴田利恵） 第５講　5/13地域の歴史・文化とまちづくり（倉田英司） 第６講　5/17選挙・代表制民主主義と「くじ引き民主主義」（小林慶太郎） 第７講　5/20文学作品や文学現象、文化現象を解明するということ（高田晴美） 第８講　6/3リアリティの境界（富田与） 第９講　6/10環境基本法のとらえ方（中西紀夫） 第10講　6/17正義とは何か（フェリペフェハーリ） 第11講　6/24未婚化のゆくえ（三田泰雅） 第12講　7/1公共政策と価値の多様性（吉川和挟） 第13講　7/8米国野球界の人材育成（若山裕晃） 第14講　7/15お金で測る会計の可能性と限界（二村建也） 第15講　7/22当事者と非当事者で社会を創る（松本彩月） ※日程・内容などは変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用しません。（講義中に教員が講義資料を電子配布することがあります。）						
事前・事後学習	事前学習：新聞やニュースに目を通しておくこと（90分） 事後学習：各講で課された小レポートを作成すること（90分）						
成績評価方法	各講で課す小レポート（75%）期末試験（25%）						
授業内の課題・提出方法	オンデマンドで配信された動画を視聴後に、各講で課された小レポートを作成し提出いただきます。提出は学内の教育支援システムMoodleで提出いただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートの点数を各自に採点するとともに、全体の講評をMoodle内で掲示します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	この講義は、総合政策学部の教員がオムニバスに毎回登壇し、それぞれの専門領域について総合政策の観点から講義するものです。この講義を通じて、ご自身の専攻分野や関心領域を見定めてください。						

授業科目名	近現代史概論			科目コード	481202	授業コード	122603
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PMC2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	歴史を単なる為政者の歴史としてとらえるのではなく、様々な側面からとらえ、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに新たな見方を発見していく。						
到達目標	歴史を暗記科目と考えるのではなく、そこにある因果関係や影響を考察し、さらには先人たちの営みや知恵を感じ取ること。また、それらを我々の生活に活かしていくことが最終目標である。						
授業計画	第1回　　ガイダンス、歴史の基礎知識等 第2回　　政治・行政の概要 第3回　　戦前の政治・行政（1） 第4回　　戦前の政治・行政（2） 第5回　　戦前の政治・行政（3） 第6回　　戦後の政治・行政（1） 第7回　　戦後の政治・行政（2） 第8回　　戦後の政治・行政（3） 第9回　　産業・経済（1） 第10回　産業・経済（2） 第11回　社会・文化（1） 第12回　社会・文化（2） 第13回　社会・文化（3） 第14回　社会・文化（4） 第15回　社会・文化（5） 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60～90分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点対象外とする。（病欠・公欠等は別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。 期末レポートはMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出のこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	社会思想史			科目コード	481203	授業コード	123805
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PMC2003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	アリストテレスは『政治学』において、「人間は社会的な動物である」と述べました。それは人間が共存し、他の動物には見られない協力することができると意味です。本講義の目的が社会学の根本的な問題を学び、現代社会の問題を分析することです。						
到達目標	主な社会思想かの思想を学びながら、現代社会の特色を多面的・多角的に捉えます。						
授業計画	第１講　ガイダンス・社会学とは何か 第２講　社会学の目的 第３講　古代におけるポリス 第４講　国家の誕生 第５講　社会契約論 第６講　コントにおける「社会学」 第７講　実証主義と反実証主義 第８講　イデオロギー 第９講　資本主義の精神 第10講　社会的事実 第11講　社会思想は世界を変える 第12講　フランクフルト学派 第13講　人間解放 第14講　歴史の終わり 第15講　これからの社会思想						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し，次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	社会的動物として、授業で協力し社会思想史を勉強しましょう。						

授業科目名	公共哲学			科目コード	481204	授業コード	125304
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	PMC2004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	マイケル・サンデルによると、「公共哲学」の目的が日常生活にある政治的及び法的問題や矛盾を見出し、道徳哲学の立場から現代社会を分析することです。本講義の目的は、「哲学」の公共性の歴史の学びながら、倫理的な生活への道具としての「哲学」を考えることです。						
到達目標	哲学の立場から、現代社会の問題を議論すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス・「公共哲学」とは何か 第２講　マイケル・サンデルにおける「公共哲学」 第３議　日常生活の哲学 第４講　道徳と倫理 第５講　エートス 第６講　「カ」と「責任」 第７講　「民主主義」と「権威主義と」 第８講　ファシズムの脅威 第９講　『ウェイブ』（Die Welle ） 第10講　「悪の凡庸さ」 第11講　マイノリティー 第12講　動物の権利 第13講　人工知能のチャレンジ 第14講　これからの哲学の問題 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し，次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	真剣に哲学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず哲学的に生活していると思いますか？一緒に現代社会における哲学の価値と「公共哲学」の意味を探しましょう。						

授業科目名	マクロ経済学入門			科目コード	481205	授業コード	123205
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PMC2005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	経済学の基本的な理論を習得します。国民所得がどのように決定されるのか、財政政策や金融政策とはどのようなものなのか、そのような経済政策によってどのような変化が起きるのかなどについて学び、世の中の動きを理解する力を身につけます。						
到達目標	新聞やニュースで取り上げられている経済に関する出来事の意味を理解し、それに関連する問題点を捉える力をつける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、経済学とは？-ミクロ経済学とマクロ経済学- 第2講 マクロ経済学と日本経済（１） 第3講 マクロ経済学と日本経済（２） 第４講　GDP（国内総生産）とは？ 第5講 家計の消費と貯蓄（１） 第6講 家計の消費と貯蓄（２） 第7講 企業の投資 第8講 政府支出 第9講 GDP（国内総生産）の決定 第10講 財政政策（１） 第11講 財政政策（２） 第12講 貨幣の定義 第13講 金融政策（１） 第14講 金融政策（２） 第15講 財政政策と金融政策 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	家森信善『マクロ経済学の基礎』ベーシックプラスシリーズ 中央経済社（２０２１） 定価：2200円（税込）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（９０分以上）。						
成績評価方法	小テスト２０％、定期試験８０％により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	ミクロ経済学入門			科目コード	481206	授業コード	123606
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	PMC2006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	ミクロ経済学の中心をなす企業・消費者の行動や市場メカニズムは、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングも取り入れ、直感的・感覚的にミクロ経済学を学ぶ。						
到達目標	ミクロ経済の仕組みや動きについて深く理解し、社会人になって経済の動きを予想して対応できる能力を身に着けるのが目標である。						
授業計画	1：対面；ガイダンス：コロナ禍の地域経済① 2：OD；消費者の行動①個別需要曲線の理論；スタート 3：OD；消費者の行動②練習問題を解き、コラムを簡単に説明 4：OD；消費者の行動③コラムの復習をして、最後の問題を解かせる 5：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給① 6：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給② 7：OD；市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給③ 8：対面；独占禁止政策① 9：対面；独占禁止政策② 10：対面；独占禁止政策③ 11：対面；実際の独占禁止政策(講師：公正取引委員会) 12：対面；コロナ禍の地域経済② 13：対面；震災からの復興と地域経済① 14：対面；震災からの復興と地域経済② 15：対面；講義の振り返り						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	シラバスをみて準備学習に取り組むこと。本講義は、事後学習の時間を確保することが重要である。OD授業は、理解が困難だった部分について、複数回視聴する。また、期末試験に向けて、授業全体を振り返る復習が数時間必要である。						
成績評価方法	毎回Moodleで提出する課題(75%)、対面・持ち込み不可による学期末試験(25%)により、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	レジュメの空白に授業の内容をノートテイクし、写真にしてMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。						
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	提出された課題によって理解度を厳しく判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。						

授業科目名	ジェンダー論			科目コード	481207	授業コード	122706
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PMC2007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかないけれども理不尽に思う人が出てくるという問題まで、様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決しうるものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識して、自分でも気づけるようになってもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は２名の教員（高田・三田）で実施します。						
到達目標	１ ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。 ２ 社会の中にあるジェンダーに気づき、問題として意識することができる。 ３ 性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。						
授業計画	第１講 ガイダンス、ジェンダーバイアス（高田） 第２講 ネーミング問題（高田） 第３講 〈女らしさ〉の罠ー女はつらいよ（高田） 第４講 ハッピーエンドとプリンセス—ポストフォーディズムとジェンダー（三田） 第５講 家制度と選択的夫婦別姓問題（高田） 第６講 おばあさんは川へ洗濯に？—近代社会の性別役割分業（三田） 第７講 不払い労働、見えない家事問題（高田） 第８講 メディアにおけるジェンダー表現①—フィクション編（高田） 第９講 メディアにおけるジェンダー表現②—CM・広告編（高田） 第10講 ＜男らしさ＞の罠—男もつらいよ—男性学の視点（三田） 第11講 続＜男らしさ＞の罠—男性性とホモソーシャルな関係（三田） 第12講 それでも僕であるために—弱者男性論（三田） 第13講 身体にまつわる問題（高田） 第14講 ジェンダーに関わるハラスメント（高田） 第15講 恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉（高田） 講義の順番は入れ替わる可能性があります。また、ジェンダーにまつわるニュースがあった場合は、内容が変わる可能性もあります。						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。						
事前・事後学習	（授業前）日頃からニュースなどに目を通しておく。（毎日20分程度） （授業後）学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面に、授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ、考える。（40分）						
成績評価方法	毎回の小レポート 50% 定期試験 50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義の終わりに、小レポート（コメント）を書いて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート（コメント）については、適宜、講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。						
アクティブラーニング	回によってはディスカッションなど。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「女性学」「男性学」の視点を持った２人の教員が、それぞれの専門や持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。						

授業科目名	地方自治論			科目コード	481301	授業コード	123701
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PPR2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義では地方自治の制度と仕組み、役割などについて体系的に学びます。 少子高齢化や人口減少が問題となっている現代において、地方自治体の役割はより大きくなり、その地域に根付いたより創造的な政策の提案が求められています。 この講義を通して、皆さんが地方自治の担い手として地域にかかわっていく際の基礎知識を習得することを目指します。						
到達目標	・地方自治に関する制度やしくみを理解できる。						
授業計画	01.　ガイダンス/地方自治「民主主義の学校」 02.　地方自治の現状 03.　登場人物1：首長 04.　登場人物2：議会 05.　登場人物3：地方公務員 06.　住民による統制 07.　条例制定 08.　地方自治体の組織編制 09.　地方自治体の権能と大都市制度 10.　地方税財政と予算 11.　中央政府と地方政府 12.　まとめ 13.　各論：教育行政の地方自治 14.　各論：子育て行政の地方自治 15.　各論：高齢者福祉の地方自治 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・北村亘、青木栄一、平野淳一「地方自治論」有斐閣（2017）						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う						
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり						
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。また、2/3以上の出席が認められない学生については原則として単位を認めません。						

授業科目名	法学入門			科目コード	481302	授業コード	125602
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	PPR2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	法学の発達の歴史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法（憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。						
到達目標	社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思いますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　六法の意味、社会規範 第３講　実定法と自然法、法源 第４講　制定法の体系、法の形式による分類 第５講　法の種別（国内法）、国内法と国際法 第６講　公法と私法、裁判による権利の実現 第７講　法の適用、法解釈における問題点 第８講　権利と義務、権利義務の主体と客体 第９講　罪刑法定主義 第10講　法と裁判（裁判の仕組み） 第11講　民事裁判、刑事裁判、行政裁判 第12講　司法権の独立と公開主義 第13講　自由心証主義、今日までの裁判の課題 第14講　裁判員制度とその課題 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験　70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。						
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。						
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	地域経済論			科目コード	481303	授業コード	122203
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PPR2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	地域経済とは、日本では行政的区分である都道府県や経済的区分である首都圏・近畿圏などのことで、厳密に言えば『1つの国内を対象として、国民経済内部を 地理的に分割した自立的な経済圏』のことを意味しています。このような地域の経済諸問題を対象とするのが地域経済学という学問分野です。この講義では地域経済学を概説します。						
到達目標	以下の３つを掲げています。 ①地域経済を理解する上で重要な基礎的概念を理解すること。 ②具体的な地域（中部圏）がどのような特徴をもった地域かということを理解すること ③地域経済政策の考え方を理解すること。						
授業計画	第1講　ガイダンス／地域の時代 第2講　地域とはなにか・都市とはなにか 第3講　経済学で地域をみる 第4講　地域経済の開放性 第5講　地域所得の決定 第6講　地域経済の成長 第７講　地域間格差 第8講　都市の成立と発展 第9講　中心地理論と都市システム 第10講　中部経済のポイント 第11講　名古屋の都市形成 第12講　三重県の経済をみる 第13講　地域経済政策（１） 第14講　地域経済政策（２） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に使用せず、講義中に資料配付します。 （参考文献） 山田浩之他『地域経済学入門第3版』（有斐閣コンパクト）						
事前・事後学習	（予習）資料をあらかじめ読んでおいてください。経済学の応用分野ですから、経済学を復習しておいてください。（９０分） （復習）講義中に理解度を確認する小テストを課します。（９０分）						
成績評価方法	授業への参加態度（含む講義中の小テスト）２０％、期末試験　８０％						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回、理解度の確認を兼ねて小テストを行います（教学ポストまたはMoodleに提出予定）。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは、コメントをつけて講義中に返却します。						
アクティブラーニング	省略						
実務経験のある教員	省略						
担当者から一言	経済学の言葉を使って地域を語れるよう、意欲のある学生の履修を期待します。						

授業科目名	行政学			科目コード	481401	授業コード	122404
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	PPL4001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義では公共サービスの執行を担う行政について、その組織構造、歴史、機能などの基本的事項を体系的に学びます。 行政機関の提供する公共サービスは私たちの生活になくてはならないものですが、それらがどのように決められ、どのように運用されているのかは意外と知られていません。 一人の市民として公共サービスがいかにして執行されているのかを理解し、自らの住む国・自治体の姿をより鮮明に理解することができるようになることを目指します。						
到達目標	・行政学に関する基本的な用語・概念などを理解できる ・日常の政策や行政に関するニュースなどを理解できる						
授業計画	01.　ガイダンス／行政学とは 【行政学史】 02.　行政とは何か 03.　近代官僚制 04.　行政学の成立と展開 05.　NPMとガバナンス 【執政制度と行政制度】 06.　執政制度 07.　行政組織制度 08.　公務員制度 09.　国と自治体の制度改革 【公共政策と行政活動】 10.　政策の調査と立案 11.　法律・条例 12.　予算制度 13.　政策の実施と評価 14.　行政活動と行政統制 15.　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔（2022）『はじめての行政学［新版］』有斐閣						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う						
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり						
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。また、2/3以上の出席が認められない学生については原則として単位を認めません。						

授業科目名	都市環境と法			科目コード	481402	授業コード	123406
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	PPL5001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義のねらいは、都市の公害・環境に関係する法の基礎を学ぶことです。つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる快適な環境の都市をつくるための学びです。これは憲法25条の「生存権」や13条の「幸福追求権」との関係でも重要です。また、都市計画上必要となる環境対策については現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。						
到達目標	本講義では、都市の公害・環境対策の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市の公害・環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　公害と法 第３講　環境法の伝統的な法体系 第４講　憲法との関係 第５講　行政法との関係 第６講　民法との関係 第７講　刑法との関係 第８講　都市の環境対策と法規制 第９講　公害・環境規制法 第１０講　都市開発と環境アセスメント 第１１講　廃棄物・リサイクル対策 第１２講　私法的な救済方法 第１３講　条例による規制とその問題点 第１４講　環境のための３R 第１５講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　30%：授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果も含む。 定期試験　70%：すべて持込可						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。						
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。						
実務経験のある教員	四日市市EMS内部環境監査員(ISO14001）や本学の環境管理責任者・内部環境監査員(ISO14001)での経験で得た知識を、この授業でも生かしています。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	警察行政と安全			科目コード	481403	授業コード	122803
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PPL5002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	将来 警察官になりたいという話は、しばしば耳にします。では、警察官は、どのような仕事をしているのでしょうか。警察官として、日々どのようなことを考えているのでしょうか。 この授業では、現職の警察官の方にもゲストスピーカーとして登壇いただくことで、警察の実際について学生諸君に知ってもらうことを、そのねらいとしています。 防犯・交通安全活動などの場面における警察と市民との協働や、刑法・刑事訴訟法などの背景となる知識についても、学んでもらいます。						
到達目標	警察の業務が市民の安全に対して果たしている役割などについての基礎的な知識を身につける。						
授業計画	第１講（ 9/24） ガイダンス（この授業の進め方） 第２講（10/ 1） 忘れ物や落とし物（拾得・遺失物） 第３講（10/ 8） 交通安全の意識啓発と施設整備 第４講（10/15） 夢を叶えた警察受験（受験の準備と現在の仕事）（卒業生 柳川さん） 第５講（10/22） 交通事故の捜査 第６講（10/29） 刑法と刑事訴訟法 第７講（11/ 5） 犯罪に向き合う現場から（南警察署南川さん） 第８講（11/12） ストーカー・ＤＶ及び児童虐待について 第９講（11/19） 少年非行・少年犯罪と補導・更生 第10講（11/26） 刑事としてOBとして（学生時代と現在の仕事）（卒業生 行廣さん） 第11講（12/ 3） 身近な警察　交番・駐在所 第12講（12/10） 犯罪防止に向けた対策の推進 第13講（12/17） 警察と協力した防犯活動 （四日市北防犯協会　松岡さん） 第14講（ 1/ 7） 警察事務と被害者支援 第15講（ 1/14） 授業の振り返りと課題の指示 定期試験 ※ ゲストスピーカーの都合などにより、内容や順番が変更になる可能性が有ります。						
テキスト・教材（参考文献）	レジュメや資料などを配る予定です。						
事前・事後学習	日頃から、テレビや新聞の事件・事故に関するニュースに目を通し、警察の役割について考えることを心掛けてください（毎日20分以上）。 また、必ず復習をして、不明な点などはインターネット等で調べておいてください（40分）。						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：45% ・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：55%						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用のミニッツペーパーを配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニッツペーパーに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
アクティブラーニング	この授業では、原則として毎回、ミニッツペーパーを提出してもらいます。						
実務経験のある教員	本学の卒業生などのゲストスピーカーの方々は、いずれも警察などで実務に携わっている方々です。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	防災とまちづくり			科目コード	481406	授業コード	125305
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	PPL6002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 ＊テキスト・受験料などの実費18，000円が必要です。 （この金額は変更の可能性があります）						
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。						
授業計画	対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド 1 4/5 ガイダンス(対面)／補講1；近年の災害 2 4/12 第1講；地震・津波／第2講；気象災害・風水害／第9講；行政の災害対策 3 4/19 第7講；ハザードマップ／補講2；耐震補強／第20講；災ボラ／第17講；自主防 4 4/26 第11講；復旧・復興／第12講；災害医療／第18講；避難所 5 5/11 午前；防災士養成講座（会場研修）① 6 5/11 午後；普通救命講習（場所：体育館） 7 5/12 午前；防災士養成講座（会場研修）② 8 5/12 午後；防災士養成講座（会場研修）③ 9 5/18 午前；防災士養成講座（会場研修）④ 10 5/18 午後；防災士養成講座（会場研修）⑤ 11 5/24 第3講；土砂災／第4講；火山／第5講；火災 12 5/31 第6講；予報・警報／第8講；災害情報／第10講；行政 13 6/7 第13講；ライフライン／第14講；事業継続／第15講；地震への備え 14 6/14 第16講；風水害への備え／補講3；損保 15 6/21 第19講；多様性／第21講；防災士／補講4；訓練 学期末試験：6/28 ★8月3日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。						
テキスト・教材（参考文献）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担￥18，000に含まれる。						
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要個所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。						
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。						
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要個所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。						
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブワークを行う。						
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。						
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。						

授業科目名	地域福祉論			科目コード	481501	授業コード	125306
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	PPC4001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	この授業では地域福祉の基本的な考え方を学びます。私たちは地域で暮らす住民です。地域で支え、支えられることの大切さを学び、地域の一員として何ができるのかを考える授業です。						
到達目標	地域福祉の基本的考え方、地域福祉における主体と対象、地域福祉を推進するための福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解することができる。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要（地域福祉とは） 第2講　コミュニティとネットワーク 第3講　地域福祉の財源 第4講　地域福祉の主体や担い手 第5講　地域福祉をプロ野球から考える　ーゲストスピーカー 第6講　災害と地域福祉　小レポートー1 第7講　ボランタリズム 第8講　少子高齢化 第9講　子育て支援と地域福祉 第10回　社会的養護と子どもの貧困 第11回　当事者組織・セルフヘルプグループ　小レポート-2 第12回　協同組合 第13回　社会的孤立と社会的排除 第14回　生活保護 第15回　まとめ　小レポート-3 定期試験 ※ゲストスピーカーの都合により前後する可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 ＜参考文献＞ 加山弾・熊田博樹・中島修・山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣（2020） 動画などを視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、地域の取り組み記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	＜評価＞ 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本） プロ野球球団関係者をゲストスピーカーとして招へい予定です。						
担当者から一言	自分ごととして地域福祉について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	社会保障論			科目コード	481502	授業コード	121806
担当教員	松本　彩月			科目ナンバリング	PPC5002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、現代日本の社会保障における根本的な課題について学び、考えていきます。社会保障制度とは、少子高齢化を大前提とする今後の日本社会にとって、最も優先して取り組まれて行かなければならない事柄の一つになっています。現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴と、そこでの課題を理解することが講義のねらいとなります。						
到達目標	社会保障の役割と意義および課題、社会保障の基礎理論、歴史、財源を含む実施体制について、現代社会の動向も踏まえながら理解することができる。						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要（社会保障とは） 第2講　社会保障の歴史と現代社会の変化 第3講　社会保障の法と財政 第4講　公的年金って？ 第5講　医療保険って？ 第6講　介護保険って？　小レポート-1 第7講　働くことと社会保障 第8講　生活保護 第9講　社会福祉 第10講　災害と社会保障 第11講　住まいは人権　小レポート-2 第12講　貧困と社会保障 第13講　多国籍社会の社会保障 第14講　ジェンダーと社会保障 第15講　ひとり親と社会保障　小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 ＜参考文献＞ 春田吉備彦ほか『生きのびるための社会保障入門』堀之内出版（2023年） 椋野美智子ほか『はじめての社会保障』有斐閣（2023年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会保障関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	＜評価＞ 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会保障制度を知ることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力し合いましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	ダイバーシティ社会論			科目コード	481503	授業コード	122101
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PPC5001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	ダイバーシティ（divercity）、日本語では、多様性と訳されます。この授業では、多様な人々が共生する社会「ダイバーシティ社会」について考えていきます。 年齢、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などの性のあり方、障がいの有無など身体や心の状態・・・私たちの社会に暮らしている人は千差万別で、一人ひとりに違いがあります。また、人生の中で置かれた状況や立場も、時により変わっていきます。 この授業では、学生の皆さんがこうした社会の多様性に気づき、その多様性が尊重されるダイバーシティ社会の担い手としての資質						
到達目標	この授業では、学生諸君が、日本の社会の多様性に関する基本的な知識を身につけ、ダイバーシティ社会の担い手に相応しい言動が出来るような人になっていくことを、到達目標としています。						
授業計画	第１講　ガイダンス：この講義の進め方 第２講　世界がもし100人の村だったら（グループワーク） 第３講　民族と国民国家 第４講　棲み分けか統合か　～諸外国のケースから～ 第５講　日本における少数民族政策 第６講　もう一つの民族問題 在住外国人 第７講　日本における在住外国人政策 第８講　地域における在住外国人政策 第９講　セクシュアルマイノリティと「ＬＧＢＴ」 第10講　トランスジェンダーと性同一性障害 第11講　同性愛・両性愛と異性愛 第12講　地域におけるセクシュアルマイノリティ政策 第13講　性感染症をめぐる差別とタブー 第14講　ダイバーシティ経営 第15講　ダイバーシティ社会の推進に向けて（グループワーク） 定期試験 ※ ゲストスピーカーの都合などにより、順序が変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。 【参考文献】 小林慶太郎「ＬＧＢＴと自治体行政」時事通信社（2016年）、650円＋税						
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30% ・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70%						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
アクティブラーニング	授業時に、複数回グループワークを行うほか、課題として毎回ミニッツペーパーを記入してもらいます。						
実務経験のある教員	担当教員は、ダイバーシティ社会の実現に向けた三重県の委員会の委員等を数年にわたって務めています。また、ダイバーシティ社会実現に向けた活動をされている方を、ゲストスピーカーとしてお招きする予定です。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	市民社会論			科目コード	481504	授業コード	123806
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	PPC5003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、地域における住民主体の活動として、自治会・町内会・市民活動団体・地域自治組織などを取り上げる。少子高齢化や人口減少などの社会構造の変化により、地域では様々な課題を抱えており、住民による活動も多様化してきている。講義では、住民による活動の歴史、実情、今後の方向性と課題について、各地の実例などを踏まえて整理する。また実習を通じて、住民による新たな活動、社会への生かし方について考える力を養成することを目的とする。						
到達目標	1. 住民による活動が果たすべき役割と個人としての関わり方について理解する。 2. 地域に合わせた活動の運営手法について考察する力をつける。 3. 住民による活動と関わる人々との交流により、より豊かな人間性を身につける。						
授業計画	１.ガイダンス、現地調査手法の提示と提出レポート詳細 ２.地域社会における現状と課題 ３.自治会・町内会の概要 ４.市民活動団体の概要 ５.地域自治組織の概要① ６.地域自治組織の概要② ７.住民活動と自治体① ８.住民活動と自治体② ９.事例研究 町内会のとりくみ実習 　自治会等の開催する祭りへの参加　11月中旬の土・日曜日を予定 10. 事例研究 地域自治組織のとりくみ実習 　地域自治組織の活動に関する発表会への参加　11月下旬の土・日曜日を予定 11. 事例研究に向けて　住民活動の現状① 12. 事例研究に向けて　住民活動の現状② 13. 事例研究　報告会① 14. 事例研究　報告会② 15. まとめ ※受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	事前学習では、地元のまちづくり活動を調べる（30分）。 住民活動に関連した図書を読む（60分）。 事後学習では、レジュメやノートを見直し必要事項を覚える。また、不明なキーワード等は、調べる（90分）。						
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①講義時に提示する課題への提出状況及び受講態度　60% ②最終レポート　40%						
授業内の課題・提出方法	事例研究として、住民活動に関するレポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートまた報告会では、適宜コメントする。						
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。						
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 資料収集や現地での聞き取りも含めて幅広く調べることを心掛けるなど、積極的に参加してください。						

授業科目名	市民とまちづくり			科目コード	481505	授業コード	125703
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	PPC6001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	この授業では、市民が主体となって地域の活性化や魅力発信などの「まちづくり」に取り組むことの大切さを、いくつかの事例を中心に考えていきます。まちづくりに携わっている方々に教室に来ていただいて話を聞き、実際にスタッフとしてイベントに参加することを通じて、まちづくりを学びます。 今年度は、市民ボランティアが中心になって開催されている「四日市JAZZフェスティバル」、三重からJリーグを目指して市民で盛り上げるスポーツクラブ「ヴィアティン三重」、四日市大学生の発案でスタートし定着した三岐鉄道北勢線の「サンタ電車」を取り上げます。学生諸君が、市民主体のまちづくり活動の実際を、五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。						
到達目標	市民主体のまちづくりの活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。						
授業計画	第１講（ 9/27）ガイダンス（鬼頭・小林） 第２講（10/4）四日市JAZZフェスティバルと地域活性化（実行委員長） 第３講（10/11）イベントとまちづくり（鬼頭・小林） 第４講（10/18）JAZZフェスに向けた心構えと詳細打ち合わせ（実行委員会、鬼頭・小林） 第５～６講（10/19）フィールドワーク（JAZZフェスの見学・スタッフ参加を２コマとしてカウント） 第７～８講（10/20）フィールドワーク（JAZZフェスへのスタッフとしての参加を２コマとしてカウント） 第９講（10/25）スポーツクラブ経営(ヴィアティン三重社長) 第10講（11/ 1）スポーツクラブとまちづくり(ヴィアティン三重スタッフ) ★11/ 8、11/15、11/22、11/29の4回はお休みです。 第11講（12/ 6）北勢線サンタ電車とローカル鉄道（三岐鉄道職員） 第12講（12/13）コミュニティバスと鉄道の連携（東員町担当者） 第13講（12/20）サンタ電車運行準備と打ち合わせ 第14～15講　フィールドワーク（a, b いずれかを選択）を2コマとしてカウント 　a ：ヴィアティン三重ホームゲームの集客企画や観客満足度アップ事業の手伝い（11/3、11/10、11/17、11/24に開催される試合のうち、ホームの試合を1日手伝う） b ：12/21 北勢線サンタ電車でサンタクロースになって子どもにプレゼント配布★ 1/10、1/17はお休みです。★都合により授業計画が変更になる可能性があります。掲示等を注意して見るようにしてください。						
テキスト・教材（参考文献）	JAZZフェスのパンフレット、サンタ電車の資料などの配布を予定しています						
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちに資料やネットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。						
成績評価方法	フィールドワークに取り組む姿勢・パフォーマンス40%、授業内で課す課題30%、定期試験（レポート）30%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義の際には小レポートを、フィールドワークの際はその振り返りレポートを、それぞれ課題として提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対しては、Moodle等を通して学生にコメントを返していきます。						
アクティブラーニング	この授業では、フィールドワークが重要な要素となっている。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、実際にまちづくりに関わっている方であり、フィールドワークの際にも指導いただく。なお、授業の担当者である鬼頭、小林も、それぞれ市民団体の代表として、まちづくりの実務に携わっている。						
担当者から一言	最も重要なフィールドワークに参加できない学生には、原則として単位は与えられませんので、履修登録の際には注意してください。						

授業科目名	都市計画論			科目コード	481601	授業コード	125803
担当教員	本部　賢一			科目ナンバリング	PPE4001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす人たちに対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。 本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。						
到達目標	授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できたり、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。						
授業計画	第01講 ガイダンス、授業の概要 第02講 都市形成のメカニズム(1) 第03講 都市形成のメカニズム(2) 第04講 現代都市の問題 第05講 都市の進化とプランニング(1) 第06講 都市の進化とプランニング(2) 第07講 計画概念とプランナー(1) 第08講 計画概念とプランナー(2) 第09講 暮らしを支える都市 第10講 豊かな都市空間を考える(1) 第11講 豊かな都市空間を考える(2) 第12講 都市環境計画(1) 第13講 都市環境計画(2) 第14講 都市環境計画(3) 第15講 まとめ ※本講義は、全講オンデマンド（ビデオ）授業で行います。 ※四日市大学教育支援システムMoodle上にコースを用意します。そこに出欠ボタン（各講、時間割通りの時間帯に受講することを原則とする）、視聴ビデオ（Stream）のリンク、教材プリント＆参考資料のダウンロード、テストレポートの内容＆提出方法等が掲示されています。						
テキスト・教材（参考文献）	・テキストなし ・単元毎に教材プリント＆参考資料を配布→各自でMoodle上のコース画面よりダウンロード、印刷して使用。 ・教材プリントはところどころ空白になっており、未完成の状態となっています。ビデオを見ながら空白部分を埋める作業を行うとともにメモを取りましょう。教材プリントを完成させるためにはビデオをすべて見る必要があります。						
事前・事後学習	事前学習：　教材プリント、参考資料には全て目を通し、疑問点を整理しておきましょう。（90分程度） 事後学習：教材プリントを完成させるとともに、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。（90分程度）						
成績評価方法	成績は次のような配分により総合的に評価します。※詳細はガイダンス時に説明します。 ・単元毎のミニテストレポート等：70% ・最終テストレポート：30%						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題： ・単元毎のミニテストレポート ・最終テストレポート の２つがあります。どちらも試験スタイルのプリント原稿をMoodle上のコース画面よりダウンロードし、解答を記入したものを提出してもらいます。 提出方法： 共に教学課に用意された提出箱へ提出。提出期限はMoodleのコース画面上で確認の上、厳守してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	・単元毎のミニテストレポートは点数＆総評をMoodleのコース画面上に掲載します。 ・最終テストレポートは定期試験の代わりですので点数＆総評はお知らせしません。						
アクティブラーニング	ミニテストレポート、最終テストレポート						
実務経験のある教員	民間の研究機関での勤務経験あり。行政からの政策立案関連の委託業務を請け負ってきました。都市計画、交通計画を研究対象としています。						
担当者から一言	・オンデマンド授業ですが時間割通りの時間帯に受講してください。Moodle上のコース画面に用意された「出欠ボタン」で出席状況（出席、遅刻、欠席）を把握します。 ・ビデオは各講授業開始時以後、第15講授業終了時まで視聴可能ですので、欠席時でも受講できますし、何度でも見直すことができます。						

授業科目名	地方財政論			科目コード	481602	授業コード	125704
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PPE4002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、財政の基本的な理論や考え方、経済政策や社会保障制度、税の基礎理論と税制の仕組みについて、ミクロ経済学・マクロ経済学の両面から学んでいきます。また、現在の日本が抱えている財政上の諸問題についても適宜解説していきます。また、みなさんの意見や疑問を聞き、活発なディスカッションも行いながら進めていきます。						
到達目標	財政の基本的な考え方や仕組みを理解し、日本や地方の財政政策について自分なりの意見を言える力を身につける。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 政府の役割 第３講 市場と政府 第４講 財政の仕組み 第５講 公共財 第６講 経済政策 第７講 社会保障制度 第８講 社会政策（労働、子育て支援、教育、社会） 第９講 税制の設計 第10講 直接税 第11講 間接税と税制改革 第12講 政府の借金 第13講 地方分権 第14講 公民連携 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	コピーを配布します。 参考テキスト：山重慎二『財政学』中央経済社ベーシックプラスシリーズ（2016年）2，400円（税別）						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（９０分以上）。						
成績評価方法	小テスト20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	産業とまちづくり			科目コード	481605	授業コード	122102
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PPE6001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	地域の将来を考えるとき、それぞれの地域の産業がどのように発展するかが重要であることは言うまでもありません。しかし産業構造が変化するなかで、地域の産業は一様ではありません。我が国では、地域の既存集積や資源を活用して、どのように産業を産み出していくかが重要になりつつあります。地域産業政策も、基盤整備型・産業誘致型の政策から、産業創造力を支える仕組みづくりが重要になりつつあります。 本講義では、地域産業に関する緒論や産業立地論を解説するともに、日本の産業地形成・地域産業政策を解説します。 また講義時間の一部使って地域産業の見学を行う予定です。						
到達目標	到達目標は、以下の３つです。 １．地域産業に関する緒論を理解する ２．中部圏の主要な産業地形成を理解する ３．地域産業政策を理解する						
授業計画	第1講　ガイダンス／地域産業の緒論（１）ペティークラークの法則／産業分類 第2講　地域産業の緒論（２）ホフマンの法則／ロストウの発展段階説／ 第3講　地域産業の緒論（３）工業化の終焉／産業空洞化 第4講　産業立地論（１）工業立地論の概観／輸送費問題 第5講　産業立地論（２）ウェーバー工業立地論 第6講　産業立地論（３）商業立地論（ホテリングモデル） 第7講　日本の産業地形成（１）概観 第8講 日本の産業地形成（２）地場産業論／大都市産業論 第9講　四日市の産業 第10講　中部圏の産業 第11講　地域産業政策 第12講　企業見学（１） 第13講　企業見学（２） 第14講　企業見学（３） 第15講　企業見学（４） 企業見学は、「地元企業魅力発見バスツアー」を行います（四日市市との連携授業）。 前期後期試験の終了直後に実施を予定しています。 参加人数に制限があります。 別途自由見学コースも設定する予定です。 詳細は講義中にお知らせいたします。						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用せず、講義中に資料配布します。						
事前・事後学習	配付資料に事前に目を通しておいてください。（９０分） 講義中に課される小レポートを行ってください。（９０分）						
成績評価方法	学期末試験（６０%）小レポート（２０%）企業見学レポート（２０%）						
授業内の課題・提出方法	講義中に小レポートを課します。教学ポストに提出いただくことを予定しています。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートはコメントをつけて講義中に返却いたします。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	講義を通じて、自分の故郷や関心のある地域をイメージし、どのような産業発展を経験し、どのような課題・展望があるかを考えるきっかけにしてください。						

授業科目名	環境とまちづくり			科目コード	481606	授業コード	122307
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	PPE6002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。						
到達目標	環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通し、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身に着けることが到達目標である。						
授業計画	第1講　ガイダンス・ゴミ問題から環境政策を考える 第2講　ごみ問題 第3講　循環型社会とリサイクル 第4講　災害ゴミの処理 第5講　四日市公害と中国における大気汚染① 第6講　四日市公害と中国における大気汚染② 第7講　映像でみる四日市公害① 第8講　映像でみる四日市公害② 第9講　地球温暖化の基礎知識 第10講　地球温暖化と気象変動 第11講　再生可能エネルギー 第12講　本当にエコ？ 第13講　映像でみる今日の環境問題① 第14講　映像でみる今日の環境問題② 第15講　まとめと光害						
テキスト・教材（参考文献）	講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回1時間程度）しておくことが望ましい。講義終了後は、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、しっかりと数時間かけて自分の考えをまとめて提出する。						
成績評価方法	小レポート5点×15回として全体の75%、学期末試験25%の配分で、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させたレジュメをMoodleなどで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodle上でコメントを書く。						
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。						

授業科目名	現代社会論			科目コード	481701	授業コード	123702
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PHR2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	社会の「しくみ」と人々の「つながり」の変化をたどりながら、現代の日本社会と国際関係のあり方を考える。						
到達目標	現代社会の諸問題に気づけるようになる。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会の発見 3 国家の登場 4 統治の技法 5 監視と権力 6 暴力を考える 7 国家と外交 8 戦争と平和 9 国際機関の役割 10 国際会議と地域組織 11 慣習の力 12 自己責任論の時代 13 国際報道の仕組み 14 報道とプロパガンダ 15 デジタル社会の報道 各回の順番は前後することがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 平田オリザ（2012）『わかりあえないことから』講談社.						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（1日20分以上）。						
成績評価方法	平常点45%、期末試験55%。 平常点は授業への参加度と課題の内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内でリアクションペーパーを作成し提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	リアクションペーパーの内容は翌週以降の授業内で適宜コメントします						
アクティブラーニング	必要に応じてグループワークを行います。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	私たちが生きる社会の「しくみ」に目を当てて、現代社会の理解を試みます。						

授業科目名	社会史			科目コード	481702	授業コード	122204
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PHR2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	地域社会の歴史・文化を知ることで、政治だけでない人々の営みを理解し、自分たちも未知なる社会に立ち向かう態度を先人たちの経験を追体験することにより養う。						
到達目標	1. 地域社会の歴史・文化に関する知識を身につける。 2. 知識を活用し、発信できる力を身につける。 3. 地域社会から日本や世界の課題を探り、検討する姿勢を身につける。						
授業計画	第1回　　ガイダンス 第2回　　時代区分等歴史の基礎知識 第3回　　考古 第4回　　古代（1） 第5回　　古代（2） 第6回　　中世（1） 第7回　　中世（2） 第8回　　中世（3） 第9回　　近世（1） 第10回　近世（2） 第11回　近世（3） 第12回　近世（4） 第13回　近代（1） 第14回　近代（2） 第15回　現代 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、 プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示する。						
事前・事後学習	事前学習については、新聞の地域面、タウン誌あるいは広報、行政のHP等を通して、日頃から地域情報・地域文化に関する情報に触れ、考える機会を設けること。（60分） 事後学習については、毎回の講義に関して不明点を残さないように調べておくこと。また、講義に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。（60分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末レポート＝70% なお、2/3以上の出席がない場合は採点対象外とする。（病欠・公欠等は別途相談のこ						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。 期末レポートはMoodie内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出のこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきフィードバック方法ことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	表象文化論			科目コード	481703	授業コード	125603
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PHR2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	私たちの日常空間のほとんどは、誰かが何かを表現した表象で構成されています。この講義では、4人の担当教員がそれぞれの専門と関心から、図像（絵画、写真）、テクスト（小説、談話）そしてその組みあわせであるマンガ、アニメ、映画などを材料に、表象読解の理論（イコノロジー、記号論、ジェンダー論、フェミニズム論、テクスト理論など）と実践を紹介します。						
到達目標	表象文化の考え方を踏まえながら、言語や図像による表現を読み解く能力を身に付ける。						
授業計画	第1講：ガイダンス、表象文化とは 富田 第2講：表象の考え方 富田 第3講：「病のアレゴリー」「病」を巡る表象（1）富田 第4講：「厄払い」「病」を巡る表象（2）富田 第5講：「〈病〉を〈業〉として機能させる物語」「病」を巡る表象（3）高田 第6講：「〈メンヘラ〉を芸術に昇華する」「病」を巡る表象（4）高田 第7講：「病んでいるのは誰か」「病」を巡る表象（5）三田 第8講：「街路の表象 バンクシーを中心に」「病」と「戦争」を巡る表象 富田 第9講：「戦いの性別役割分業」「戦争」を巡る表象（1）三田 第10講：「男性性の檻」「戦争」を巡る表象（2）三田 第11講：「女性が戦争を語るということ」「戦争」を巡る表象（3）高田 第12講：テクスト理論の基礎 永井 第13講：「捕虜の表象その１」「戦争」を巡る表象（4）永井 第14講：「捕虜の表象その2」「戦争」を巡る表象（5）永井 第15講：「「井上哲次郎の捕虜言説」」「戦争」を巡る表象（6）永井						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	業中に出された課題を作成してください（180分）。						
成績評価方法	業内の課題（30%）と最終レポート（70%）で評価します。						
授業内の課題・提出方法	業内の課題はmoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必用に応じて授業の中でコメントします。						
アクティブラーニング	テーマに応じて講義のなかで議論の時間を設定する。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	講義に参加しながら教員が気づいていない事を見つけてください。そして新しい見方を提案してみてください。表象文化を一緒に楽しんでみましょう。						

授業科目名	文化人類学			科目コード	481801	授業コード	121103
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PHI4001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、「遠く」に住む人あるいは「遠く」から来た人と、自分の「近く」でコミュニケーションを行うための考え方を見ていきます。ここで「遠く」、「近く」というのは必ずしも空間的距離の問題だけではなく、価値観、生活様式、宗教など生活世界を構成する様々な局面での距離感も含まれます。文化人類学の考え方を手掛かりに、他者との対話を継続していくための方策を考えていきたいと思います。						
到達目標	文化人類学の理論を対話の実践に応用する能力を身に付ける。						
授業計画	第1講：ガイダンス、コミュニケーションとは 第2講：自然と知識 第3講：技術と環境 第4講：呪術と科学 第5講：現実と異世界 第6講：モノと芸術 第7講：贈り物と負債 第8講：貨幣と信用 第9講：国家とグローバリゼーション 第10講：戦争と平和 第11講：子どもと大人 第12講：親族と名前 第13講：ケアと共同性 第14講：市民社会と政治 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『文化人類学の思考法』（村松圭一郎、中川理、石井美保編）世界思想社 1800円						
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）						
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。						
アクティブラーニング	課題の回答に関して毎回議論します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	コミュニケーション技術の発達は、お互いの理解促進よりむしろ対立の顕在化を引き起こしているように見えます。技術では克服しにくい距離感の存在とそれへの対応を考えてみましょう。						

授業科目名	現代文化論			科目コード	481802	授業コード	125401
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PHI5001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	文学作品や芸術作品は、ある時代状況や社会状況、世間の人々の心理状況の中で、もしくは作者の極めて個人的な状況下で、「こんな作品を世の中に投げかけたい！」「こんな作品を生み出さずにはいられない！」と生み出されます。それは、作者の意思や欲望、おもしろづくの表れでもありますし、読者や鑑賞者の何らかの欲望を満たすものでもあります。複雑にからみあう状況の中に作品を位置づけること、作品を読み解くこと、そして何よりそれを深く味わうこと。それをこの授業では試みたいと思っています。						
到達目標	作品を単に単体の見えている部分だけでとらえるのではなく、背景等も含めて分析し、解釈する視点を学ぶ。						
授業計画	第１講　ガイダンス、ひとの心をたねとして 第２講　深すぎる愛のカタチ 第３講　失恋ソングに見る〈情念〉 第４講　夫婦でバトルした時代 第５講　匂わせの官能表現という美学 第６講　海外文学を通して知らない世界を知る①ーハイチ文学 第７講　海外文学を通して知らない世界を知る②ーアフガニスタン文学 第８講　海外文学を通して知らない世界を知る③ーマジックリアリズム 第９講　ノーベル文学賞作家の作品を読んでみる① 第10講　ノーベル文学賞作家の作品を読んでみる② 第11講　風刺としての芸術 第12講　芸にストイックに生きる人々 第13講　いつまでも〈清純派〉ではいられない？ 第14講　エッセイで〈わたし〉が〈わたし〉を語るということ 第15講　人生、捨てたもんじゃない						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 気になる作品については、書籍などにあたって、作品そのものに自分で触れてみましょう。						
事前・事後学習	講義後に、講義で紹介した作品を読んだり、関連事項を調べたりして、理解を深める。（180分）						
成績評価方法	・毎回の小レポート　60点 ・期末レポート　40点						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業後に小レポート（紙のコメント用紙）を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の授業でコメントを紹介したりします。						
アクティブラーニング	回によってはディスカッションなど。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	文学作品や芸術作品を、普段は単なる娯楽として楽しむだけ、という人が多いと思います。それを学問として分析すると、きっと世界がもっと面白くなるし、「これはどうなの？」と色々なことにひっかかって物事を思考するスキルも得られると思います。複雑怪奇なこれからの世の中に必要なのはきっと、そういう人文科学的視点。						

授業科目名	グローバルイシューズ			科目コード	481803	授業コード	123807
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	PHI5002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。
授業のねらい	最近、新聞やインターネット、テレビーニュースの中で持続可能な開発（SDGs）の話をよく聞く。SDGsのような目標を聞いてもあまり身近に感じないかもしれない。この講座では様々な地球の問題についての知識を深めながら、SDGsの目標や指標について学ぶ。地球市民になるために何が必要だろうか。日本に居ながら我々は個人のレベルで問題解決のため何が出来るか、学生と一緒に考える。「CLIL英語で学ぶSDGsの基礎」というテキストを利用して、講義中児童労働、水危機， 貧困、食の安全、フェアトレードなどいくつかの地球問題を取り上げたい。 ＊注意 この講座は英語の講座。講師は英語で講義をしながら日本語に混ぜて学生の理解を高めるようにするが、殆どの提出物は英語で書く必要がある。
到達目標	１。 SDGsについての知識や理解を高める。 ２。様々な地球問題について知識や理解を高めて、関心を持ってもらう。 ３。地球問題やSDGsについて学生の英語力を向上させる。 ４。授業に取り上げられた地球問題に関連している英語の語彙を増やす。
授業計画	1. Course introduction/guidance/ 世界の水危機 2. 世界の水危機 3. 地球温暖化 4. 貧困 5. 貧困 6. 児童労働 7. 児童労働 8. 食の安全と食糧安全保障 9. 食の安全と食糧安全保障 10. 子供兵士 11. 子供兵士 12. 倫理的なビジネス 13. フェアートレード 14. フェアートレード 15. Review- 定期試験- プレゼンテーション
テキスト・教材（参考文献）	CLIL 英語で学ぶSDGsの基礎　Larry Joe　Sanshusha 978-4-384-33512-5 C1082　　2,200 yen
事前・事後学習	Spend 60 minutes reviewing the textbook exercises and class handouts　from the previous lesson. In addition， try and spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing between classes for the following lesson.
成績評価方法	学習態度　30% 課題　20% 定期試験　30% レポート/（プレゼンテーション）　20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講） 及び課題などの提示時に説明します。
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スキット、リーダーズ・シアター
実務経験のある教員	
担当者から一言	『基礎英語　I and II　』と『英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ　I and II 』をまだ受講していない学生や受講中の学生にとって、この講座は難しいかもしれない。3年生になってから受講を勧める。5回以上欠席すると単位がもらえない。２回遅刻すると１回の欠席になる。履修者が18名を超えた場合は抽選となる。

授業科目名	比較文化論			科目コード	481804	授業コード	121502
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	PHI5003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	世界のさまざまな文化の比較を通して、その違いや共通点を探り出し、異文化間の相互理解と自文化に対する理解をより深めることをこの授業の最大のねらいとします。世界のさまざまな文化圏にはそれぞれ異なった文化が存在しています。それぞれの文化にはその根底にどのような価値観や行動規範があるのか、そうしたそれぞれの価値体系をさぐることにより、相互、あるいは自文化に対する再評価や問題解決に役立てることが出来ます。そうしたことを学ぶ機会にしたいと考えています。講義中に、受講生自身が特定のテーマについて調べ、レポートにまとめ発表する機会も作りたいと思っています。						
到達目標	異なる文化や歴史的、社会的背景を比較することにより、文化の多様性や共通性を理解し、それによって異文化間の交流をよりスムーズに行えるようになること。また、異文化間に存在する諸問題の解決方法を自分なりに導き出せるようにすること。						
授業計画	第１講：ガイダンス、講義の概要 第２講：「文化」とは、「比較文化論」とは何か 第３講：「言語文化」の比較① 第４講：「言語文化」の比較② 第５講：「宗教観」の比較① 第６講：「宗教観」の比較② 第７講：「年中行事」の比較 第８講：「国民性」の比較 第９講：「死生観」の比較 第10講：「スポーツ観」の比較 第11講：「娯楽」の比較 第12講：「人生観」の比較 第13講：「行動様式」の比較　学生課題発表① 第14講：「恋愛・結婚」の比較　学生課題発表② 第15講： まとめ 定期試験 注 進度および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	プリント教材（講義内容に応じて、適宜配布します）。						
事前・事後学習	毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください（９０分）。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください（９０分）。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。						
成績評価方法	定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
授業内の課題・提出方法	講義内における課題は、Moodle、あるいは講義内に直接担当教員に提出すること。どちらの方法で提出するのは、そのつど指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題や質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	小レポート／小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃から自国についてはもちろんのこと、世界各国・地域の歴史・文化・社会 などに関心を向け、理解を深める取り組みをしてください。なお、 遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。						

授業科目名	地域社会学			科目コード	481901	授業コード	121405
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	PHS4001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この授業では地域社会を社会学的に考える方法を学びます。地域社会を語る語彙と視点を身につけることが目標です。						
到達目標	地域を取り囲む社会的背景を理解する						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 都市の成長 第３講 都市の人間関係 第４講 都市の親族関係 第５講 都市の社会集団 第６講 都市の類型 第７講 都市と不平等 第８講 家と村 第９講 グローバル化と地域社会 第10講 大学と地域 第11講 まとめ① 第12講 社会地図を作る① 第13講 社会地図を作る② 第14講 社会地図を作る③ 第15講 まとめ② 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献）	＜参考文献＞ 森岡清志編『地域の社会学』有斐閣、2008年。						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（1日20分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験30%、期末レポート40%。 平常点は授業への参加度とリアクションペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内でリアクションペーパーを作成し提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	リアクションペーパーの内容は翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション リアクションペーパー						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ほぼ毎回ディスカッションの時間があります。 学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	文化史			科目コード	481902	授業コード	122707
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PHS5001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	文化とは、人々が生活の中で築き上げてきたものの総体である。したがって、集団の数だけ無数の文化であるが、人々は常にその文化から影響を受け、また影響を与えている。この授業では、三重県や四日市市の文化を中心として、先人たちの営みを再発見・再認識するとともに、その影響関係を多角的な視点でとらえていきたい。						
到達目標	1．三重県および四日市市にある文化的資源の概要を把握し、文化的特徴を理解できる。 2．国内外問わず、他地域の人々がこの地域の魅力をどのように受け止めるか客観的に検討できる。 3．地域社会に対する関心を高め、探求心を持つ。						
授業計画	第1回　ガイダンス、文化とは、＋グループ分け 第2回　三重県とは（講義）、＋グループワーク 第3回　街道と交通（講義）、＋グループワーク 第4回　三重の人々、三重を訪れる人々（講義）、＋グループワーク 第5回　地域文化資源の活用、＋グループワーク 第6回　伊勢神宮（発表） 第7回　熊野古道（発表） 第8回　鳥羽・志摩（発表） 第9回　伊賀（発表） 第10回　中南勢（発表） 第11回　四日市市、北勢（発表） 第12回　伝統芸能（発表） 第13回　まつり（発表） 第14回　食文化（発表） 第15回　伝統工芸（発表）						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料については、電子もしくは紙で毎回配布する。 参考図書 ・「新視点　三重県の歴史」（山川出版社） ・「続・新視点　三重県の歴史」（山川出版社） ・「発見！三重の歴史」（新人物往来社） ・「続・発見！三重の歴史」（新人物往来社）						
事前・事後学習	事前学習については、新聞の地域面、タウン誌あるいは広報、行政のHP、あるいは参考図書等を通して、日頃から地域情報・地域文化に関する情報に触れ、考える機会を設けること。（60分） 事後学習については、毎回の講義に関して不明点を残さないように調べておくこと。また、講義に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。（60分）						
成績評価方法	授業中の質疑、授業で提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝40% 発表準備＋プレゼンテーション＝60% なお、2/3以上の出席がない場合は採点対象外とする。（病欠・公欠等は別途相談のこと。） ただし、グループワーク・プレゼンテーションを理由なく欠席した場合は大幅に減点する。						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。 期末レポートはMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出のこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング	調査学習、グループワーク、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	日本文化論			科目コード	481903	授業コード	123508
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	PHS5002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を見につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自な文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているのかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。 この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたのかについて一緒に考えてみたい。						
到達目標	「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標にする。						
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　「文化」概念について 第３回　「日本文化論」の問題点について 第４回　ブルーノ・タウトの日本文化論について　①　「日本文化私観」 第５回　ブルーノ・タウトの日本文化論について　②　「ニッポン」 第６回　日本の食文化　お雑煮 第７回　加藤周一＜雑種文化論＞　①　その背景 第８回　加藤周一＜雑種文化論＞　②　その主張 第９回　加藤周一＜雑種文化論＞　③　その特徴と問題点 第１０回　谷崎潤一郎「陰翳礼讃」　①　その概要 第１１回　谷崎潤一郎「陰翳礼讃」　②　その問題点 第１２回　三島由紀夫「文化防衛論」　①　その特徴 第１３回　三島由紀夫「文化防衛論」　②　戦後の日本文化論 第１４回　坂口安吾「日本文化私観」　①　その内容 第１５回　坂口安吾「日本文化私観」　②その思想史的意味 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布する日本文化論のテクストをよく読んでくること。（90分） 復習として、講義の内容を踏まえて上記のテクストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。（90分）						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的にする。提出物は評価をつけたうえで翌週以降の講義で返却する。						
授業内の課題・提出方法	毎回授業の終わりに、講義の内容をまとめ、自分の意見や質問を書いて提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物は、全体的なコメントとともに翌週以降の講義で返却する。						
アクティブラーニング	小レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日本文化論がこれまでにどのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。						

授業科目名	都市祭礼論			科目コード	481905	授業コード	122405
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	PHS6001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	地域の文化は、そこに生活する人々によって育まれている。しかし、高齢化や生活様式の変化、価値観の多様化等により、伝統文化の多くは継承の危機に瀕している。 この科目では、「大入道山車」（三重県指定有形民俗文化財）、富田の鯨船行事（ユネスコ無形文化遺産）等に実際に参加し、伝統文化の保存・継承にはどのような課題があるか、保存・継承の持つ意味を考えてもらおうとするものである。						
到達目標	講義と実習を通じて、祭りの持つ意味と、祭りの果たす地域統合の役割について学び、自分自身がこれからの地域社会で何ができるのかを明確にすることを到達目標とする。						
授業計画	第1回　ガイダンス、都市祭礼とは何か（浅井） 第2回　四日市祭の歴史（前田憲司氏〈芸能評論家〉） 第3回　四日市祭の現在（前田憲司氏〈芸能評論家〉） 第4回　保存継承の問題点と今後の課題　Ⅰ（前田憲司氏〈芸能評論家〉） 第5回　保存継承の問題点と今後の課題　Ⅱ（前田憲司氏〈芸能評論家〉） 第6回　岩戸山山車の復活　講義（岩戸山保存会会長） 第7回　大入道山車の保存継承上の課題　講義（大入道保存会会長） 第8回　富田鯨船の保存継承上の課題　講義（富田鯨船中島組会長） 第9回　ここまでのまとめと実習の班分け　（浅井） ・第10～12回　現地実習①　7月21日（日）午前　大入道の組み立てへの参加 ・第13～15回　現地実習②　8月4日（日）終日　大四日市まつり　大入道山車、その他の山車の演技への参加 or ・第10～15回　現地実習③　8月14・15日　終日　富田鯨船行事参加 ⇒【現地実習①＋②あるいは現地実習③への参加が必須（交通費等自己負担）】 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献）	レジュメは電子あるいは紙で必要に応じて配布する。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60~90分）						
成績評価方法	講義とその後のコメントペーパー、実習や祭りなどへの取り組み＝70%、 期末レポート＝30%						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。 期末レポートはMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出のこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング	体験学習						
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。 この講座は、岩崎前学長が四日市市中納屋町大入道保存会のご協力を得、15年以上にわたって開講している。地域の祭りに主体的に参加し、実践的に地域社会について考えてみようとする学生の参加を望んでいる。						

授業科目名	スポーツ文化論			科目コード	482001	授業コード	121301
担当教員	若山　裕晃			科目ナンバリング	PHE4001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。 現代では、スポーツ文化が社会に及ぼす影響は大きい。我々の生活とスポーツ活動は密接に関わっており、社会制度や地域社会においてスポーツが果たす役割が増大している。最近では、スポーツの商業化が加速したことによりスポーツ産業の発展が著しいが、一方ではスポーツの商業主義を優先することにより、勝利至上主義などの社会病理現象が表出している。本講義では、関連する最新データを用いてスポーツを文化的観点から考察する。						
到達目標	近代から現代のスポーツ文化を社会学の観点から検討し、スポーツの社会構造と社会への影響を考察できる視点を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス　授業の概要 第2講　スポーツの歴史と概念 第3講　スポーツ行政の仕組み 第4講　スポーツ振興策 第5講　スポーツ事業の効果的運営 第6講　スポーツ指導者論1 第7講　スポーツ指導者論2 第8講　スポーツ指導者論3 第9講　スポーツ施設管理論 第10講　スポーツ系理論 第11講　スキルとは何か 第12講　地域スポーツ経営論 第13講　スポーツとメディア 第14講　スポーツにおける逸脱行為 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ社会学に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（９０分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（９０分）。						
成績評価方法	レポートの内容（６０％）及び定期試験（４０％）で成績評価する。レポートは、１回４点満点で評価（４点×１５回=６０点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業になることがある。						

授業科目名	コミュニケーション論			科目コード	482002	授業コード	122308
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	PHE5001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、メディア（主にマス・メディア）を挟んだ、（多数）対（多数）のコミュニケーションを見ていきます。発信性はそうしたコミュニケーションを流れる情報にどのようなレトリックを施し、受信者はそうしたレトリックを施された情報にどのように対応していけば良いかを考えていきます。						
到達目標	コミュニケーションの基本的な考え方をリテラシーに結びつける。						
授業計画	第1講　ガイダンス 第2講　コミュニケーションと文化 第3講　言語コミュニケーション 第4講　非言語コミュニケーション 第5講　「旧修辞学」の復権 第6講　新しいプロパガンダの時代 第7講　レトリックを演じる人々 第8講　革命は放映されない 第9講　広告と消費の誘惑 第10講　Instagramのレトリック 第11講　スポーツのメディア表象 第12講　「異なる身体」の表象 第13講　性的マイノリティへのまなざし 第14講　氾濫する英語のレトリック 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	『メディア・レトリック論』　青沼智（他）著　ナカニシヤ出版　2400円						
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）						
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。						
アクティブラーニング	課題の回答に関して毎回議論します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	ここ数年でメディアのあり方が大きく変わってきています。基本的にはテキストの内容に従って進めますが、状況や情勢を見ながら内容を多少変更するかもしれません。						

授業科目名	サブカルチャー論			科目コード	482005	授業コード	125802
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	PHE6001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。 多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。						
授業のねらい	本来は〈メインカルチャー〉に対抗するための〈サブカルチャー〉ですが、今となってはサブカルこそが日本のメインカルチャーと言っても過言ではありません。それだけの影響力を持つサブカルは、時代とそこに生きる人々、社会を映す鏡とも言えるでしょう。その時代その時代で、サブカルの流行は移っていきます。何となくの流行りとしてそれらを楽しむ我々ですが、あるジャンルが流行るには、それなりの理由がきっとある。作り手の需要も受け手の需要も満たす何かがきっとある。そういうことを一緒に紐解いていきましょう。サブカルを解読することは、						
到達目標	・ジャンル、流行の型を見抜くスキルを身に付ける。 ・流行の背景を分析するスキルを身に付ける。 ・様々なジャンル、流行を結び付けて考えるスキルを身に付ける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、ジャンルについての概観 第２講　人気の歌の歌詞、時代とともに変遷す 第３講　少女マンガと少年マンガの違いを考える 第４講　異世界転生モノ（男性編） 第５講　異世界転生モノ（女性編） 第６講　少女小説というジャンル 第７講　二次創作というジャンル 第８講　文化としてのBL 第９講　文化としての同性愛 第10講　中二病とペダントリー 第11講　日本人が好きな悪役キャラの傾向 第12講　宮崎駿にとっての〈少女〉と〈女〉 第13講　考察系の流行 第14講　様々な流行を網の目に編んで広げてみる 第15講　まとめにかえて 順番は入れ替わったり、内容が多少変更になったりする可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 気になる作品については、書籍やネット小説、映像などにあたって、作品そのものに自分で触れてみましょう。						
事前・事後学習	講義後に、講義で紹介した作品を読んだり、関連事項を調べたりして、理解を深める。（180分）						
成績評価方法	・毎回の小レポート　60点 ・期末レポート　40点						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業後に小レポート（紙のコメント用紙）を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の授業でコメントを紹介したりします。						
アクティブラーニング	回によってはディスカッションなど。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	普段は単に面白いからと楽しんでいるサブカルだって、学問的に分析対象とすることができます。その面白さを味わってください。						

授業科目名	健康スポーツ実技			科目コード	482006	授業コード	123607
担当教員	小泉　大亮			科目ナンバリング	PHE6002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている						
授業のねらい	本講義では、生涯を通じて実践可能なスポーツの方法を学び、身体運動の創作なども通してスポーツ指導者としての想像性を育む。						
到達目標	楽しく安全にスポーツができる方法を学ぶことにより、生涯を通したスポーツ実践につなげる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 体力評価の方法 第3講 体力評価とフィードバック 第4講 健康のための身体運動 第5講 エアロビクスの理論と指導方法 第6講 エアロビクスの実践と指導 第7講 エアロビクスの実践と指導 第8講 エアロビクスの実践と指導 第9講 レジスタンス運動の理論と指導方法 第10講 レジスタンス運動の実践と指導 第11講 柔軟性運動の理論と指導方法 第12講 柔軟性運動の実践と指導 第13講 バランス運動の理論と指導方法 第14講 バランス運動の実践と指導 第15講 体力評価とフィードバック						
テキスト・教材（参考文献）	竹島伸生編「ウエルビクスのすすめ」有限会社ナップ						
事前・事後学習	取り上げる内容について、事前に資料を配布するので、目を通しておく						
成績評価方法	実技実習（指導）を評価						
授業内の課題・提出方法	各種運動の指導（模擬指導）						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題を課した際は、次週にその解説をおこないフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループ指導を複数人で行います						
実務経験のある教員							
担当者から一言	運動のできる服装(ウェア・シューズ)を用意して参加する事。 服装を用意していない場合は欠席扱いとします。 体育館内を使用する場合は、上履きシューズを持参してください。 欠席は評価ができません。休まずに受講することが最低条件です。						

授業科目名	経営学入門			科目コード	482101	授業コード	123703
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PMR2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義では，経営学の諸理論を理解し身につけることで，受講生の経営学の研究能力とリーダーとしての資質を醸成する．経済社会や企業に潜む問題を自ら発見し，解決する能力の育成を目指す．						
到達目標	経営の理論的な用語を駆使し，企業社会の問題解決に自ら分析的に取り組むことができる． 文献などの資料から必要な証拠を収集し，説得性の高い論理的なレポートの作成能力をもつ．						
授業計画	第１講　ガイダンス／単位取得に関する注意事項 第２講　経営の目的（１）／顧客価値の提供 第３講　経営の目的（２）／価値提供のための組織づくり 第４講　組織と不確実性 第５講　人のマネジメント（１） 第６講　人のマネジメント（２） 第７講　組織デザインと分業（１）／外部業者の活用 第８講　組織デザインと分業（２）／アウトソーシングと製品のモジュラー化 第９講　組織デザインと統合 第10講　様々な取引形態　／取引コストと信頼 第11講　資源依存理論 第12講　提携の様々な形 ／製作委員会とプロデューサー 第13講　商品開発 第14講　モノづくり産業における製品開発 第15講　流通のしくみ						
テキスト・教材（参考文献）	教科書は指定しない．資料を配布する．						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，理論的用語の予習や復習， マネジャーの立場における課題解決の練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）．						
成績評価方法	中間レポート　50% 最終レポート（レポート試験）50%						
授業内の課題・提出方法	① 毎回の出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること． ② 中間レポートと最終レポートも，moodleから提出してもらう予定．						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする． 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある．						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある．						
実務経験のある教員							
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります． ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません． また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります						

授業科目名	経営戦略論			科目コード	482102	授業コード	122205
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PMR2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義では経営戦略論の概念や論理を理解した上で，企業の経営戦略について考察する. 考察を通じて経営戦略論の理解を深めることを，本講義のねらいとする.						
到達目標	経営戦略の枠組みや手法について理解した上で，実際の企業戦略に対する改善案や新たな戦略案を提示できる. 経営戦略の用語を駆使した，論理的なレポートの作成能力をもつ. 資料から必要な証拠を収集し，説得力のあるレポートを書く力を有する.						
授業計画	1　ガイダンス ／単位取得に関する注意事項 2　経営戦略の基本（１）／思考の軸としての論理 3　経営戦略の基本（２）／主要なアプローチの概観 4　経営戦略の構造／戦略の３つのレベル，環境 5　ポジショニング・アプローチの源流 6　事業戦略 ／ ポーター理論（１） 7　ポーター理論（２） 8　他社との違いをつくる（１） 9　他社との違いをつくる（２） 10　コストを引き下げる戦略 11　顧客ニーズの違いに対応する（１） 12　顧客ニーズの違いに対応する（２） 13　環境は変えられる／環境操作戦略（１） 14　環境操作戦略（２） 15　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する. 参考文献：宮崎正也著『コア・テキスト事業戦略』新世社 青島矢一，加藤俊彦著『競争戦略論』東洋経済新報社 稲葉 祐之，井上 達彦，鈴木 竜太，山下 勝著『キャリアで語る経営組織』有斐閣						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，用語の予習や復習， 経営戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）.						
成績評価方法	中間レポート　50% 定期試験　50%						
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること. ② 中間レポートも，moodleから提出してもらう予定.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする. 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある.						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある.						
実務経験のある教員							
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります. ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります						

授業科目名	簿記入門			科目コード	482103	授業コード	125604
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PMR2003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	簿記は株式会社などの企業、小規模な店舗、官公庁といった各種組織・機関で行われている幅広い事業活動をお金の面で記録する技術であり、また財務諸表（決算書）を作る基盤でもあります。この「簿記入門」の授業では、簿記や財務諸表の基礎、勘定科目、仕訳などを学びます。皆さんが就職後、簿記の対象となる取引にどう関わるかは人それぞれしょうが、まったく関わらない人はいないはずです。就職後に自分が働くことをイメージしながら、簿記という技術体系の基礎を理解することがこの授業のねらいです。						
到達目標	（1）日商簿記検定3級の「簿記の基本原理」と「諸取引の処理」に関する問題を解ける……日商簿記検定3級は他の資格と比べて学びやすく、学習した時間数が獲得できる知識量、そして合格につながりやすい資格だと言えます。日商簿記検定3級試験のほぼ半分の問題を解けるだけの知識修得を目指しましょう。 （2）「学び方」を学ぶ……幅広く応用が効く、「学び方」を学びましょう。「学び方」を学べているかどうかは採用担当者が近年、特に重視するポイントです。就職後の学ぶ力を養うために「学び方」を学ぶことも、この「簿記入門」の到達目標で						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　簿記の意義（テキストのテーマ01）、財務諸表と簿記の5要素（同02） 第３講　日常の手続き（同03） 第４講　商品売買１（同04） 第５講　商品売買２（同05） 第６講　現金・預金（同06）、小口現金（同07） 第７講　クレジット売掛金（同08）、手形取引（同09） 第８講　中間試験、電子記録債権・債務（同10） 第９講　その他の取引１（同11） 第10講　その他の取引2（同12）、減価償却（同20の一部） 第11講　その他の取引３（同13） 第12講　さまざまな帳簿の関係（同14） 第13講　試算表（同15） 第14講　証ひょう（同31）、伝票（同32） 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記3級　ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：2200円（税込） 参考文献（問題集）：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記3級　ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：1650円（税込） 資格の大原 簿記講座「ステップアップ問題集 日商簿記3級（改訂4版）」大原出版（2022年）、定価：1320円（税込）日建学院「日商簿記3級　過去問+予想問題解説集 2023-202						
事前・事後学習	簿記は知識を一つひとつ積み上げていくことで理解できる科目です。欠席すると次週以降の理解がかなり難しくなります。欠席しないことを第一に、欠席したらその日の内容をテキストで必ず自習してください。 継続的な繰り返し学習が効果的です。「近道は遠道」「走れば転ぶ」「急がば回れ」と心得て、コツコツ学びましょう。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと（90分）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。						
成績評価方法	（1）中間試験（第8講で実施予定）：30% （2）課題：30% （3）定期試験：40% 「簿記入門」は日商簿記初級に合格できるレベル、もしくは日商簿記検定3級の「簿記の基本原理」「諸取引の処理」に関する問題で合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、それらの検定試験に準じます。						
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleで提出してもらいます（計3回）。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。優れた課題については授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。						

授業科目名	経営管理論			科目コード	482201	授業コード	122804
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PMO4001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義では企業の本質について理解するために，企業の役割や経営者の仕事といった基礎的知識について講義する．実際の企業事例の分析を通して，①経営管理論の用語の本質を理解すること，②企業経営に関する理解を深めることを，本講義のねらいとする．						
到達目標	経営管理論の理論的用語および，企業経営に関する知識を習得し，ビジネスパーソンとしての基礎的な能力を培うことを，目標とする．						
授業計画	第１講　ガイダンス／単位取得に関する注意事項 第２講　企業の役割とは 第３講　企業システム 第４講　企業の理解 第５講　経営者の仕事（１） 第６講　経営者の仕事（２） 第７講　伝統的な管理論／官僚制 第８講　リーダーシップ（１） 第９講　リーダーシップ（２）とモチベーション 第10講　企業と起業 第11講　企業間関係の意義 第12講　経営戦略（１） 第13講　経営戦略（２） 第14講　提携と買収合併 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する．						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，用語の予習や復習， 経営管理者としての戦略立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）．						
成績評価方法	中間レポート　50% 最終レポート（レポート試験）　50%						
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること． ② 中間レポートと最終レポートも，moodleから提出してもらう予定．						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする． 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある．						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある．						
実務経験のある教員							
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります． ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません． また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります						

授業科目名	経営組織論			科目コード	482202	授業コード	123109
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PMO4002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	①企業や社会の諸個人が抱える課題について考えること，②組織論を使った解決の方法について理解することを，本講義のねらいとする．個人や組織の観点から，経営組織について学ぶ.						
到達目標	組織の仕組みや組織に関する理論について理解した上で，働き方に関する諸課題への解決策を提示できる．受講生自身のキャリア計画を立案できる. 組織論の用語を駆使した，論理的なレポートの作成能力をもつ。 資料から必要な証拠を収集し，説得力のあるレポートを書く力を有する.						
授業計画	1　ガイダンス ／単位取得に関する注意事項 2　組織とは／様々な組織の形 3　日本の人材マネジメント（１） 4　日本の人材マネジメント（２） 5　キャリアを考える（１） 6　キャリアを考える（２）／日米の就活比較 7　社会化と信頼 8　意思決定（１） 9　意思決定（２）／不確実性のマネジメント 10　賃金とまとめ 11　賃金（２） 12　社会人としての未来を考える／ルールの存在意義，官僚制 13　人間関係を考える 14　自分と世界を考える 15　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する.						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，用語の予習や復習， 組織リーダーとしての戦略立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）.						
成績評価方法	中間レポート　50% 定期試験　50%						
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること. ② 中間レポートも，moodleから提出してもらう予定.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする. 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある.						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある.						
実務経験のある教員							
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります. ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません. また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります						

授業科目名	アントレプレナーシップ論			科目コード	482203	授業コード	124109
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PMO5001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では起業家精神（アントレプレナーシップ）を養うための講義と演習を行います。 　起業家精神とは、事業を起こす可能性を追求する能力のことです。このような能力は、例えば暗記したり学説を理解したりする能力とは全く異なり、創造的思考が必要です。 　まずアントレプレナーシップの事例を学びます。次に創造的思考の技法を学びます。最後に、ソーシャルビジネスを事例に、これらがどのような共通の発想で成り立っているかを理解したうえで、自らビジネスモデルの立案を試みます。						
到達目標	以下の３つを掲げています。 1. アントレプレナーシップが事業者にどのように活用されているかを理解する。 2. 創造的思考の技法を身につける。 3. 自ら事業企画を立案する。						
授業計画	第1講　4/11ガイダンス 第2講　4/18アントレプレナーシップと事業事例１ 第３講　4/25アントレプレナーシップと事業事例２ 第４講　5/9アントレプレナーシップと事業事例３ 第５講　5/16創造的思考実習１（ブレーンストーミング／KJ法） 第６講　5/23創造的思考実習２（ソーシャルビジネスの企画立案） 第７講　5/30企画立案のフィードバック 第８講　6/6ビジネスプランコンテスト 第９講　6/13事業計画の構成１（総論） 第10講　6/20事業計画の構成２（ファイナンス）※１ 第11講　6/27ビジネスモデル立案の実習１ 第12講　7/4ビジネスモデル立案の実習２ 第13講　7/11ビジネスモデルのフレームワーク 第14講　7/18ビジネスプランコンテスト　※１ 第15講　7/25特別講義※2 ※１は、株式会社三十三総研が提供する授業です。 ※２は、三重県信用保証協会が提供する授業です。 ※日程・内容などは変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用しません。講義中に適宜プリントを配布します。						
事前・事後学習	参考文献は講義中に示します。事前に学習してください（90分）。 報告や小レポートの提出を求めますので自宅で行ってください（90分）。						
成績評価方法	課題への取り組み（５0%）学期末のレポート試験（５0%）						
授業内の課題・提出方法	講義中に課題を課します。Moodleまたは教学ポストに提出することを予定しています。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、コメントをつけて講義中に返却します。また事業計画の構想については、適宜、講義中に講評します。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	この授業を通じてビジネスプランが完成すれば、株式会社三十三総研のビジネスプランコンテストに応募していただきます。是非、応募をめざしてください。						

授業科目名	企業論			科目コード	482204	授業コード	125502
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	PMO6001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	企業は時代とともに形態・機能・役割を大きく変え、国によっても有り様はさまざまです。 この講義では、経済的・法律的な解釈や分析のみならず、文化的・社会的な側面からの企業論も取り扱います。 また企業研究は、かつては大企業が中心的でしたが、近年では地域・雇用・社会的起業といった側面から中小企業の役割も重要と考えられるようになりつつあります。 　この講義では、毎回、経営者の対談やエピソードに関する映像を見ていただき、その経営者が何を重要と思いながら日々経営を考えているか、なぜそのような経営理念が生まれるのかを探る						
到達目標	以下の３つを目標とします。 １．企業の役割や課題を理解する。 ２．企業の経営理念と事業内容の関係を理解する。 ３．全体を通じて企業がもつ経営の特質を理解する。						
授業計画	第1講　ガイダンス&映像視聴 第2講　ユニバーサルスタジオジャパン 第３講　セブンイレブン 第４講　コメダ珈琲 第５講　スターバックス 第６講　食べチョク 第７講　マザーハウス 第８講　ハローキティ 第９講　中川政七商店 第10講　矢場とん 第11講　ものづくりin三重 第12講　企業見学（１） 第13講　企業見学（２） 第14講　企業見学（３） 第15講　企業見学（４） ※とりあげる企業は、希望に応じて変更する可能性があります。 ※企業見学は、「地元企業魅力発見バスツアー」を行います（四日市市との連携授業）。定期試験終了直後に実施することを予定しています。参加人数に制限があります。別途自由見学コースも設定する予定です。（詳細は講義中にお知らせいたします。）						
テキスト・教材（参考文献）	特に使用しません。Moodle上で提示します。						
事前・事後学習	予習：とりあげる企業の概要を調べておくこと（90分） 復習：毎回の要約の提出（90分）						
成績評価方法	毎回の要約（50%） 企業見学課題（20%） 学期末のレポート試験（30%）						
授業内の課題・提出方法	毎回の要約をMoodle内の課題として提出いただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された要約は毎回採点します。全体の講評を授業内で行います。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	皆さんも経営者になった気持ちで、受講してください。 映像は授業内でのみ視聴可能な貴重なものです。 毎回、映像の内容を要約するのは大変ですが、よい訓練になります。						

授業科目名	マーケティング論			科目コード	482301	授業コード	123608
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PMM4001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義ではマーケティング論の概念や論理を理解した上で，企業のマーケティング活動やマーケティング戦略について考察する．考察を通じてマーケティング論の理解を深めることを，本講義のねらいとする．						
到達目標	マーケティングの論理や枠組みについて理解した上で，企業のマーケティング活動に対する改善案や新たなマーケティング戦略を提示できる．マーケティング論の用語を駆使した，論理的なレポートの作成能力をもつ．資料から必要な証拠を収集し，説得力のあるレポートを書く力を有する．						
授業計画	1　ガイダンス ／単位取得に関する注意事項 2　マーケティングの論理 3　マーケティング・ミックス　／４つのP 4　ターゲット市場の選定 5　ポジショニング ／事例：ドトールとスターバックス 6　マーケティング戦略 7　マーケティング戦略（２） 8　業界の構造／コンビニの流通 9　成功商品や企業の分析（１） 10　成功商品や企業の分析（２） 11　価格戦略とセグメンテーション 12　流通の役割 13　成功商品の4P分析 14　ブランド戦略 15　まとめ／経験財のマーケティング 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書はなし．資料を配布する． 参考文献：青木幸弘編『ケースに学ぶマーケティング』有斐閣ブックス						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，用語の予習や復習，マーケティング戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）．						
成績評価方法	中間レポート　50% 定期試験　50%						
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること． ② 中間レポートも，moodleから提出してもらう予定．						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする． 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある．						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある．						
実務経験のある教員							
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります． ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません． また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります						

授業科目名	多国籍企業論			科目コード	482302	授業コード	123704
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PMM5001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	論理的思考力と、プレゼンテーションを通して自己表現する力を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、海外に進出する多国籍企業について、理論および実態の両面から理解することを目的とします。また、そのために必要となる、貿易の理論や為替レートの決定といった国際経済学の基礎的な理論も理解していきます。 特に日本企業の国際経営とはどのような活動なのか、どのような経緯を辿ってきているのか、イギリスのEU離脱やコロナなどの国際情勢の変化によってどのような影響を受けているのかを考えていきます。						
到達目標	企業が外国で生産活動や販売活動を行う動機や問題点、今後の課題について自分なりの考えを持つことができるようになること。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 貿易の理論~産業間貿易と産業内貿易 第３講 外国為替市場と為替レートの決定理論 第４講 多国籍企業～海外直接投資とは？ 第５講 国際経営戦略の歴史的展開と政治的性格 第６講 国際マーケティング 第７講 海外生産 第８講 技術移転と海外研究開発 第９講 北米・欧州の中の日本企業 第10講 アジアの中の日本企業 第11講 新興国市場と日本企業 第12講 サービス企業の海外進出 第13講 国際経営の新展開 第14講 コロナなどによる国際経営の課題 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	吉原英樹『国際経営』第5版　有斐閣アルマ（２０２２）　本体２０００円+税						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日読んだテキストを必ず読み返す（９０分以上）。						
成績評価方法	小テスト20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果、講義中や講義後の質問や疑問には適宜コメントします。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	新興市場論			科目コード	482303	授業コード	121302
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PMM5002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、日本を含むアジア諸国の経済発展がどのような変遷を辿ってきたのかを、経済理論と実際の流れによって説明します。特に、国内の工業化政策、諸外国との貿易と直接投資、外国からの政府開発援助（ODA）、そして、グローバリゼーションが進む国際経済における自由貿易（FTA）や地域連携協定（EPA）が、経済成長を進める上でどのような役割を担っているのかに焦点を置いて講義していきます。授業では鶴田の解説だけでなく、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	経済成長に関する基本的な理論とアジア諸国の経済の実情を理解する。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 GDPの決定（１） 第３講 GDPの決定（２） 第４講 財政政策 第５講 金融政策 第６講 為替・国際収支 第７講 マルサスの罠 第８講 ペティ＝クラークの法則 第９講 ２部門モデル 第10講 工業化の初期条件と輸入代替工業化 第11講 輸出志向型工業化と対外直接投資 第12講 日本の政府開発援助 第13講 多様化する外国資本投資とアジア通貨危機 第14講 アジア経済の新動態 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（９０分以上）。						
成績評価方法	小テスト20%、定期試験80%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	流通論			科目コード	482304	授業コード	122406
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	PMM5003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	本講義では流通論の概念や論理を理解した上で，小売企業の流通活動について考察する． 考察を通じて流通論の理解を深めることを，本講義のねらいとする．						
到達目標	流通論の論理や枠組みについて理解した上で，企業の流通活動に対する改善案や新たな流通戦略を提示できる． 流通論の用語を駆使した，論理的なレポートの作成能力をもつ． 資料から必要な証拠を収集し，説得力のあるレポートを書く力を有する．						
授業計画	1　ガイダンス ／単位取得に関する注意事項 2　流通とは　／生産者，商業者，消費者の視点 3　百貨店と総合スーパー　／チェーン・オペレーション 4　食品スーパー　／日本市場特有のニーズ 5　コンビニエンス・ストア ／立地・時間・品揃えという価値 6　ディスカウント・ストア ／規模の経済 7　SPA　／伝統的な分業体制とのちがい 8　商店街とショッピングセンター　／開発業者とテナントの関係 9　流通構造と日本型取引慣行 ／映画産業の事例 10　日本型の商慣行と，その崩壊 ／流通系列化 11　農産物流論　／卸売市場とは 12　付加価値／青果物の流通 13　青果物の流通（２） 14　青果物と食品の流通 15　Amazonの流通システム，イオンの歴史 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	石原武政・竹村正明・細井謙一編著『1からの流通論（第2版）』碩学舎．						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，用語の予習や復習， 流通戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）．						
成績評価方法	中間レポート　50% 定期試験　50%						
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は，講義中にmoodleから提出すること． ② 中間レポートも，moodleから提出してもらう予定．						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする． 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある．						
アクティブラーニング	出席確認の課題についても，優秀な解答は講義中に紹介する場合がある．						
実務経験のある教員							
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります． ※2回以上，私語の注意を受けた人には原則，単位を認めません． また許可された時間以外にスマホを使用した場合， 2回目の注意を受けた時点でその日は原則，欠席扱いとなります						

授業科目名	農業経営論			科目コード	482305	授業コード	125605
担当教員	鶴田　利恵			科目ナンバリング	PMM5004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、日本および国際的な農業問題やビジネスの変化について理解していきます。 日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成?期やグローバル化 が進む中で、日本の農業問題やビジネスががどのように進展していったのかを学びます。 国際的な視点からはGATT(貿 易と関税に関する一般協定)やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉え られてきたのかを理解します。また、実際にどのような農業経営が行われているのかいくつかの事例を見ていきます。						
到達目標	日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 日本の農業の現状1:農地、農家、農業産出額 第3講 日本の農業の現状2:農業生産の縮小と食糧自給率の低下 第4講 日本の農政1:戦後改革と農業、食管制度 第5講 日本の農政2:高度成長と農業、農業基本法、総合農政 第6講 日本の農政3:グローバル化と農業経営 第7講 農業経営の事例（１） 第8講 農業経営の事例（２） 第9講 世界の食糧事情と問題点 第10講 穀物貿易の特質 第11講 農業保護政策 第12講 輸出競争とGATT農業交渉 第13講 WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ 第14講 地域連携協定と農業問題 第15講 講義のまとめ						
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュー スを見るのもOKです)。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(90分以上)。						
成績評価方法	小テスト２０%、期末テスト８０%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、講義中及び講義終了後の質問には適宜コメントします。						
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	会計学総論			科目コード	482401	授業コード	122708
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PMA4001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この「会計学概論」では、会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を学びます。会計学が対象とする領域は幅広く、財務諸表論、管理会計論、経営分析論などへと細分化されます。それらのどの領域、さらに経営学、経済学、金融論などの一部にも通底する《過去を未来に知恵として伝えようとする意志》を感じ取りながら、会計学の全体像を理解していくことをこの授業のねらいとします。						
到達目標	（1）会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を身につける……2年次・3年次に配当されている「財務諸表論」「管理会計論」「経営分析論」で学びを深められるよう、この授業で全体像をつかんでおきましょう。 （2）就職後の仕事ではもちろん、1人ひとりの生活者として生きていくさいにも会計的な視点で考えられるようになる……会計的な視点で考えることは仕事だけでなく個人の生活にも大きな恩恵をもたらしてくれます。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　会計の目的 第３講　会計基準と会計制度 第４講　企業経営と会計 第５講　貸借対照表1 第６講　貸借対照表2 第７講　損益計算書1 第８講　損益計算書2 第９講　会計原則 第10講　キャッシュ・フロー計算書 第11講　経営分析 第12講　家計（個人）にとっての会計 第13講　ファイナンスと会計 第14講　会計と監査 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 桜井久勝「会計学入門〈第5版〉」日本経済新聞出版（2018年）、定価：946円（税込） 川本淳ほか「はじめて出会う会計学　第3版」有斐閣（2022年）、定価：2310円（税込）						
事前・事後学習	事前学習として新聞（特に日本経済新聞）や雑誌などで、企業に関する記事を読むようにしてください。最初はわからない用語ばかりでしょうが、そうした用語をメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また授業で学んだことを使って、実存する企業の財務諸表などを使って小レポートを作成してください（90分）。						
成績評価方法	（1）平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% （2）小レポート：20% （3）定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第9講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。小レポートはMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと小レポートについては全体の講評を授業で行います。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、財務面のレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	金融論			科目コード	482402	授業コード	121406
担当教員	岩崎　祐子			科目ナンバリング	PMA4002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、日本の金融市場、金融機関、金融商品などについて学んでいきます。これから社会に出て、自分の資産をいかに増やそうと思ったときに、金融に関する知識が必要となります。この講義は、今後、現実の金融取引を行う際に、自らの責任で、自らの判断で、取引を行うための基礎力をつけることを目的とします。						
到達目標	一般紙の金融・経済欄の記事内容を理解できるようになることを、到達目標としています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　金融市場1 第３講　金融市場2 第４講　金融機関1（銀行、信用金庫） 第５講　金融機関2（証券会社） 第６講　金融商品1（債券） 第７講　金融商品2（株式、投資信託） 第８講　金融政策 第９講　為替相場の見方 第10講　国際通貨制度 第11講　リスク管理 第12講　トピックス1（外部講師） 第13講　トピックス2（外部講師） 第14講　トピックス3 第15講　まとめ 定期試験 ※第12講、第13講はグループワークを実施します						
テキスト・教材（参考文献）	使用しません。教材として、プリントや新聞記事を使用します。 参考文献：「みんなが欲しかった！ FPの教科書 ３級 2024-2025年」滝澤 ななみ（著）TAC出版、5月出版予定、前年は1650円						
事前・事後学習	日頃から、金融に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。 授業内容のノートを復習して、専門用語の理解に努めてください（90分）。						
成績評価方法	定期試験（60%）および授業時に作成するコメントシートおよび小レポート（40%）により評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業時にはコメントシートを提出します。 小レポートを２回提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。						
アクティブラーニング	グループディスカッション、議論の内容を発表						
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国内、海外の金融システムを研究対象としています。						
担当者から一言	日頃から金融・経済に関するニュースに関心をもつようにして下さい。金融機関への就職を考えている学生は、履修を検討してください。						

授業科目名	財務諸表論			科目コード	482403	授業コード	125705
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PMA5001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	ビジネス界の共通言語とも言われる会計、その中心となる財務諸表（決算書）について学ぶのが、この「財務諸表論」です。「財務諸表論」のねらいは財務諸表を《読む》ためや《使う》ために、財務諸表が作られるさいのルール、各財務諸表の構成や関係を学ぶことです。授業を通して各財務諸表が何を示しているのかを理解しましょう。同時に、何を示して（示せて）いないのかを考えると、財務諸表のおもしろさを見つけられるかもしれません。						
到達目標	（1）財務諸表を読むための基礎的な知識を身につける……「難しそう」という印象を持たれやすい財務諸表ですが、ポイントを押さえれば読むのは難しくありません。 （2）さまざまな立場のさまざまな目的で財務諸表を使うための実践的なスキルを修得する……たとえば経営者が株主を増やすため、1人の従業員が未知の企業と取引を検討するため、また個人が株式投資をするためなど、財務諸表を使えるようになりましょう。 （3）公開情報から有用なものを取捨選択し、効果的に報告する能力を獲得する……財務情報は容易に手に入ります。それを価値あ						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　財務諸表を作るねらい 第３講　財務諸表の構成 第４講　貸借対照表1 第５講　貸借対照表2 第６講　貸借対照表3 第７講　損益計算書1 第８講　損益計算書2 第９講　損益計算書3 第10講　キャッシュ・フロー計算書1 第11講　キャッシュ・フロー計算書2 第12講　株式会社の設立・資金調達～仕入・生産活動 第13講　株式会社の営業・販売活動～設備投資・研究開発 第14講　会計と経営 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 日本経済新聞社「財務諸表の見方　第14版」日本経済新聞出版（2023年）、定価：1100円（税込） 金子智朗「教養としての「会計」入門」日本実業出版社（2023年）、定価：1980円（税込）						
事前・事後学習	事前学習として日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また上場企業のサイトで財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください（90分）。						
成績評価方法	（1）平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% （2）レポート：30% （3）定期試験：40%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第7講・第10講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。レポートはMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストとレポートについては全体の講評を授業で行います。また優れたレポートは授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務面などで比較するレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	商業簿記			科目コード	482406	授業コード	125402
担当教員	二村　建也			科目ナンバリング	PMA6002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択

授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。
授業のねらい	この授業では「簿記入門」に続き、日商簿記検定3級の内容、具体的には「決算」と「株式会社会計」を学びます。3級試験に合格できる簿記知識の修得がねらいです。また企業の事業活動や社会・組織のなかで行われている、さまざまな取引やお金に関する管理手法を学ぶこともねらいです。600年以上も使われ続け、ゲーテも高く評価※した簿記（現在の複式簿記）の洗練と優美さを感じ取ってください。 ※ ゲーテ（ドイツの詩人、劇作家。1749-1832）の『ウィウヘルム・マイスターの修業時代』という小説には複式簿記を「人類の最も見事な発明の一つだ」と評価する一節があります。
到達目標	（1）日商簿記検定3級の「決算」と「株式会社会計」に関する問題を解ける……「簿記の基本原理」と「諸取引（期中取引）の処理」を学んだ「簿記入門」とあわせて、この「商業簿記」を履修すれば、3級試験の出題範囲をすべて学べることになります。履修後には3級試験の受検を強くおすすめします。 （2）簿記・会計の考え方を理解する……簿記・会計には、企業などの事業活動をお金の面でとらえるにあたって私たちに馴染みのある一般的な考え方とは異なる、独特の考え方があります。そうした考え方を理解することは、企業経営、経済や金融につい
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　決算（テキストのテーマ16） 第３講　決算整理１　現金過不足（同17） 第４講　決算整理２　売上原価（同18） 第５講　決算整理３　貸倒れ（同19） 第６講　決算整理４　減価償却（同20） 第７講　決算整理５　貯蔵品（同21）、決算整理６　当座借越（同22） 第８講　決算整理７　経過勘定項目（同23） 第９講　中間試験 第10講　決算整理後残高試算表（同24） 第11講　精算表（同25） 第12講　帳簿の締め切り（英米式決算）（同26）、損益計算書と貸借対照表（同27） 第13講　株式の発行（同28）、剰余金の配当と処分（前半）（同29） 第14講　剰余金の配当と処分（後半）（同29）、税金（同30） 第15講　まとめ 定期試験
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記3級　ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：2200円（税込）（「簿記入門」と同じテキストです） 参考文献（問題集）：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記3級　ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：1650円（税込） 資格の大原 簿記講座「ステップアップ問題集 日商簿記3級（改訂4版）」大原出版（2022年）、定価：1320円（税込）日建学院「日商簿記3級　過去問
事前・事後学習	「商業簿記」の履修には「簿記入門」を先行して履修していること、もしくは日商簿記初級の学習経験を持つことが望ましいです。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと。授業では要点の確認、疑問点の解消だけに集中できるくらいまでテキストを読み込んでおくことが望ましいです（90分以上）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。 細切れの時間をうまく使って、簿記を毎日学習する習慣をつけましょう。
成績評価方法	（1）中間試験（第9講で実施予定）：30% （2）課題：30% （3）定期試験：40% 「商業簿記」は、「簿記入門」の学習内容とあわせて日商簿記検定3級に合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、日商簿記検定3級に準じます。
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleで提出してもらいます（計3回）。
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。また優れた課題については授業で紹介することがあります。
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。